



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)

「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)

「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」

2023(令和5)年度



地(知)の拠点 継続事業

成果報告書



中部大学

はじめに

中部大学は、建学の精神「不言実行、あてになる人間」の下、地域社会について考え行動できる人材の育成を進めるため、2013年度～2017年度には、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（以下「COC事業」という）に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を、2015年度～2019年度には、COC事業に加えて文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（以下「COC＋事業」という）に採択された「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」を展開しました。COC事業が終了した2018年度からは、すでに役割を終えた一部の事業は整理統合しつつ、この事業を大学独自で取り組む事業として継続し、COC＋事業が2019年度をもって終了したことを受けて、2020年度からはその内容も整理しながら組み込みました。（以下「COC継続事業」という）

COC継続事業の目的は、中部大学が地域の知の拠点として、地域と連携した知の創造を通じて、地域に目を向け問題解決に取り組むことができる人材としての地域創成メディエーターを育成するとともに、地域再生、地域活性化に貢献することです。

本年度はこの目的を達成するため、次の3つの活動①地域関連の正課教育「地域共生実践」と地域関連科目の授業の実施、②本学と地域（春日井市、春日井商工会議所、高蔵寺ニュータウン等）が連携しての生活・住環境を考えるまちづくり、③同じく本学と地域が連携しての世代間交流プログラムを実施しました。当初COC事業の一つとして開始したシニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）は、本学のリカレント教育の柱として充実させるべく、2021年度よりCOC継続事業から独立させ展開しております。

事業目的の一つである地域創成メディエーターの育成については、今年度も昨年度と同様にルーブリック評価を用いて、その達成要件を審査し、地域創成メディエーター認定学生を輩出することができました。

本成果報告書は、2023年度のCOC継続事業において実施した各種活動とその成果をまとめたものです。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC継続事業に関する理解を深めていただくとともに、次年度以降の地域連携教育・研究活動に活かしていきたいと考えています。今後とも、これまでのCOC並びにCOC＋事業の経験と成果を踏まえて、大学独自の「地（知）の拠点事業」をCOC継続事業として推進し、その人材育成目標及び地域貢献目標を確実に達成すべく努力を重ねていく所存です。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年3月

中部大学 地域連携センター長
櫻井 誠

-目 次-

はじめに

1. 概要

(1) 目的・目標・概要図 1

(2) 実施体制・メンバー表 7

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果 9

(2) ワーキンググループ等報告

① 正課教育WG 27

② 生活・住環境を考えるまちづくりWG 30

③ 世代間交流プログラムWG 54

④ 全体 70

(3) その他プロジェクト活動報告

① PBLゼミ 81

② C O C + 参加大学共通プログラム「サマースクールin郡上」 111

3. 新聞記事 121

1. 概 要

(1) 目的・目標・概要図

1. 概要

(1) -1 目的

中部大学（以下本学）が採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業」：『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業（以下本事業）』は2018年3月に5年計画の事業を終了したが、2018年度からは、当初設定された事業目的を継承しつつ、活動を整理統合しながら中部大学独自の事業として継続している。

本事業は初年度の報告書にも述べられているように本学が「地域課題の解決」および「地域に役立つ人材養成」を目的とする地域再生・発展のための地（知）の拠点となるための大学改革事業である。またその改革の成果を地域社会に還元し、地域社会に貢献していくことを目的としている。

本学はその基本理念として、『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」こととしており、その社会貢献上の使命として、「さまざまな社会活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する」ことを学内外に明確にしており、地域貢献・地域連携は本来、本学の使命でもある。

すなわち本学は建学の精神「あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として本事業を遂行しており、社会・産業界の中で地域にも目を向けて「行動できる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「頑張れる人間」「信頼できる人間」としての学生育成を目指している。本学はこの事業を通してさらに一層地方大学の社会的使命を探究し、持続可能な未来社会の創造とその教育のあり方を力強く追求する。

I. 全体としての目的

本事業全体の目的をさらに具体的に述べれば、地域にも目を向けて地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指し、現代社会の主役である高齢者にとって安心・安全で豊かな社会づくり、まちづくりを地域に展開する。その成果を地域に還元し、都市づくりを進める。さらに、その成果と知識を広く日本社会全体に拡大することで日本の発展に貢献していく。こうした実践活動を学生自身が担っていくことで、学生自身が実践的知識を深め、支援技術を学び、前述の地域であてになる人材に育っていく。

II. 教育上の目的

地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指す。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

現在まで進めてきた教育改革をさらに発展させ、地域社会に役立つ人間となるための行動計画を持てるよう、全学共通教育の科目として『地域共生実践』を設置し、学部・学科にも地域志向関連科目を設置した。こうして基礎教育と専門教育を交互に発展的

に教育し、地域社会再構築のために必要な実践的人材を育成するための教育改革を目的とする。さらに最終的に中部大学が認定する“あてになる人間＝『地域創成メディエーター』”の育成を目的とする。

②「地域連携プログラム」

春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に学生を教育する報酬型インターンシップ型の就労システムを構築した。また、「高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化」といった地域貢献活動においても学生を社会貢献の実践的に参加させ、高齢者・地域住民と交流させることで、高齢化社会の地域課題を理解し、積極的に課題解決策を考える能力を涵養することも目的としている。

③「生活・住環境を考えるまちづくり事業」では学生を研究活動に参加させることで、地域の課題を解決していく能力の育成に資することも目的となっている。

④「世代間交流プログラム」では地域での高齢者問題を身近に感じることから、問題解決能力の育成を目指した。

⑤「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」は地域に開かれた大学として社会人向けに学びの場を提供している。学生にとっては、授業をサポートすることで異なる世代との交流を通し様々な学びが得られることから、CAAC受講生と学生の双方にとっての「共育」の場となることを目指している。

Ⅲ. 研究上の目的

地域活性化の課題研究として以下の研究の推進を目的とする。

①「生活・住環境を考えるまちづくり事業」

春日井市のまちづくりの課題解決に協働し、地域の住民が安心して快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する開発研究を行う。

②その他社会貢献活動関連研究

「世代間交流プログラム」や「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」の開設などの社会貢献に関連しながら、地域の課題をさまざまな観点から調査研究し、地域活性化と高齢者支援の手段を見いだしていくことを目的とした研究活動も並行して行う。

Ⅳ. 社会貢献上の目的

改革の成果を春日井を中心とした地域に還元し、地域の再生・活性化を支援するため、以下の地域社会貢献を目的とする。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

地域に役立つ人材を教育機関として養成し地域に送り出すことで社会に貢献する。地域の課題を現実的に理解し、解決のために行動を起こすことができる“あてになる人材”を養成する。そして地域のコミュニティ活動の中心人物であり、リーダーとなることのできる知識と問題解決能力を持ち、良好な対人関係を維持できる人材を地域に

送り出す。これは教育機関として重要な社会貢献活動である。さらに本事業では、地域の課題克服のための解決策を中部大学が軸となって展開し、現代社会の最重要課題である高齢化社会の課題解決に挑戦する。

② 「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」

社会人の学び直しや健康づくりを目的とした教育を行う。

（１）-2 目標

COC (Center of Community) 及びCOC+については、それぞれ、2017 年度と 2019 年度に文部科学省補助金事業は終了し、2020 年度よりCOCの目的の継続並びにCOC+の理念の融合を鑑みて活動中である。また、活動テーマのうち、シニア大学が中部大学アクティブアゲインカレッジとして 2021 年度から独立した。今年度の目標はそれらを踏まえて以下のように設定した。

I. 全体

① COC推進委員会委員とワーキンググループの統合・再編

各事業活動リーダー・副リーダーおよび各学部代表委員からなるCOC推進委員会の機能を維持し、活動内容に応じたワーキンググループで本事業全体の推進にあたる。
(実施体制・メンバー表参照)

② 地域創成メディエーターの育成

2015 年度までの立ち上げ期間から、2016 年度以降、具体的アクションプランを本格的に実施して地域創成メディエーターの育成に取り組んでおり、今年度も引き続き地域創成メディエーターの輩出を図る。なお、COC+で輩出していた地域活性化リーダーについては、地域創成メディエーターへの統合を図り、2021 年度を以て資格認定を終了した。

③内部評価委員会の開催

学長を委員長とする学部長・研究科長会のメンバーに春日井市をオブザーバーに加えて内部評価委員会を開催し、事業活動の報告とそれに基づいて評価を受ける。

II. 教育

教育活動としては地域連携教育の推進と報酬型インターンシップの確立を目指す。

①地域連携教育改革を実施し、教育システムの構築

- 1) 地域共生実践の春学期2講義・秋学期3講義、並列開講の運営。担当教員・協力者の勧誘と増員。
- 2) 地域創成メディエーターへの導き。
- 3) 地域創成メディエーター学生発表会（+エクспレッション）を開催し、地域創成メディエーターをルーブリック評価に基づき認定する。

②報酬型インターンシップ制度の維持・発展

- 1) 春日井商工会議所との連携強化。
- 2) 学生への説明会の開催。

③体験型学習の推進

- 1) PBLゼミの実施。
- 2) COC+参加大学共通プログラム「サマースクール」への参画。

Ⅲ. 研究

研究活動として高蔵寺ニュータウンを中心としたまちづくり活動を展開し、生活・住環境を考えるまちづくりを推進する。

- ①春日井市等のまちづくりの課題解決に協働し、地域住民が安心快適な生活を送れるようになることを主な目的として、社会基盤の整備、地域環境の改善に関する活動を行う。
 - 1) 「まちづくり」の意義と参加方法について学ぶ機会をつくる。
 - 2) まちづくり勉強会（学内）、タウンウォッチング（学外）、地域の自然環境調査（学外）等を実施する。
 - 3) 正課並びに自主活動を強化する。

Ⅳ. 社会貢献

高齢者・学生の交流活動を実施し、社会貢献活動として高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化および世代間交流プログラムを推進する。

- ①高齢者の健康寿命延伸や生活支援を目的に、若者による高齢者との交流を実践する。
 - 1) KCGサークル（地域発の健康教室）等の高齢者向けの健康に関する活動の実施。
 - 2) 様々な活動を通しての高齢者とのコミュニケーションの実施。

(1) -3 2020年度以降 COC継続事業概要図

中部大学における地域発展に貢献する人材の育成（2020年度以降）

【専門分野の学習】

～地域の課題を発見し、
解決の一步を踏み出す人材になろう～

COC（春日井市ほか）

学ぶ【10単位以上】+動く【1企画以上】年間100名程度
全学科対象

地域創成メデイエーター（学長名）認定

地域創成メデイエーター発表会・審査会

報酬型インターンシップ

生活・住環境を考えるまちづくり

コミュニティ情報ネットワーク

世代間交流プログラム

地域連携住居

シニア大学（CAAC）

その他
（ゼミ単位等のフィールド活動）

動く（課外）

1個以上の参加

学ぶ（正課）10単位以上

①見る ②聞く

④活躍する

③挑戦する

～『あてになる人間』具現化プロセス～

～地域（ふるさと）の良さを知り、
活躍できる人材として地域（ふるさと）に還ろう～

COC+（岐阜県）

学ぶ【3単位以上】+動く【5企画以上】年間15-20名程度 全学科対象

**COCと産業界ニーズへ振分け
地域活性化リーダーは地域創成メデイエーターと統合**

企業現場教育（岐阜県）は、産業界ニーズと統合

サマースクールは、COC「動く」へ移行

フィールド活動@ぎふは、専門分野の学習のため、
COC「動く」へ移行

PBL@ぎふゼミは、地域や周囲に関わっていくための
力を身に付けることができる体験型学習のため、
COC「学ぶ」へ移行

COC+でのリスク予防管理士指定科目は、
産業界ニーズと統合

【キャリア教育】

～リスク管理を修得して、
21世紀型企業人になろう～

産業界ニーズ

学ぶ【3単位+1企画】+動く【1企画】
年間150名程度 指定学科対象

リスク予防管理士（学長名）認定

3・4年

・下記全てについて必修
・下記総合評価にてA以上を認定

動く（課外）

1-3年

企業現場教育
（愛知県等）
指定学科（※）各1回

企業現場教育（岐阜県）

必 レポート

学ぶ（正課 2単位以上・一部課外）

2-3年

リスク予防管理士指定科目
（バイオ産業リスク予防学ほか）2単位
（愛知企業等若手特別講師招聘）

必 2

単位認定
基準
に依り

リスク予防管理士特別セミナー
（愛知企業等若手クラス）年2回

3年秋

必 レポート

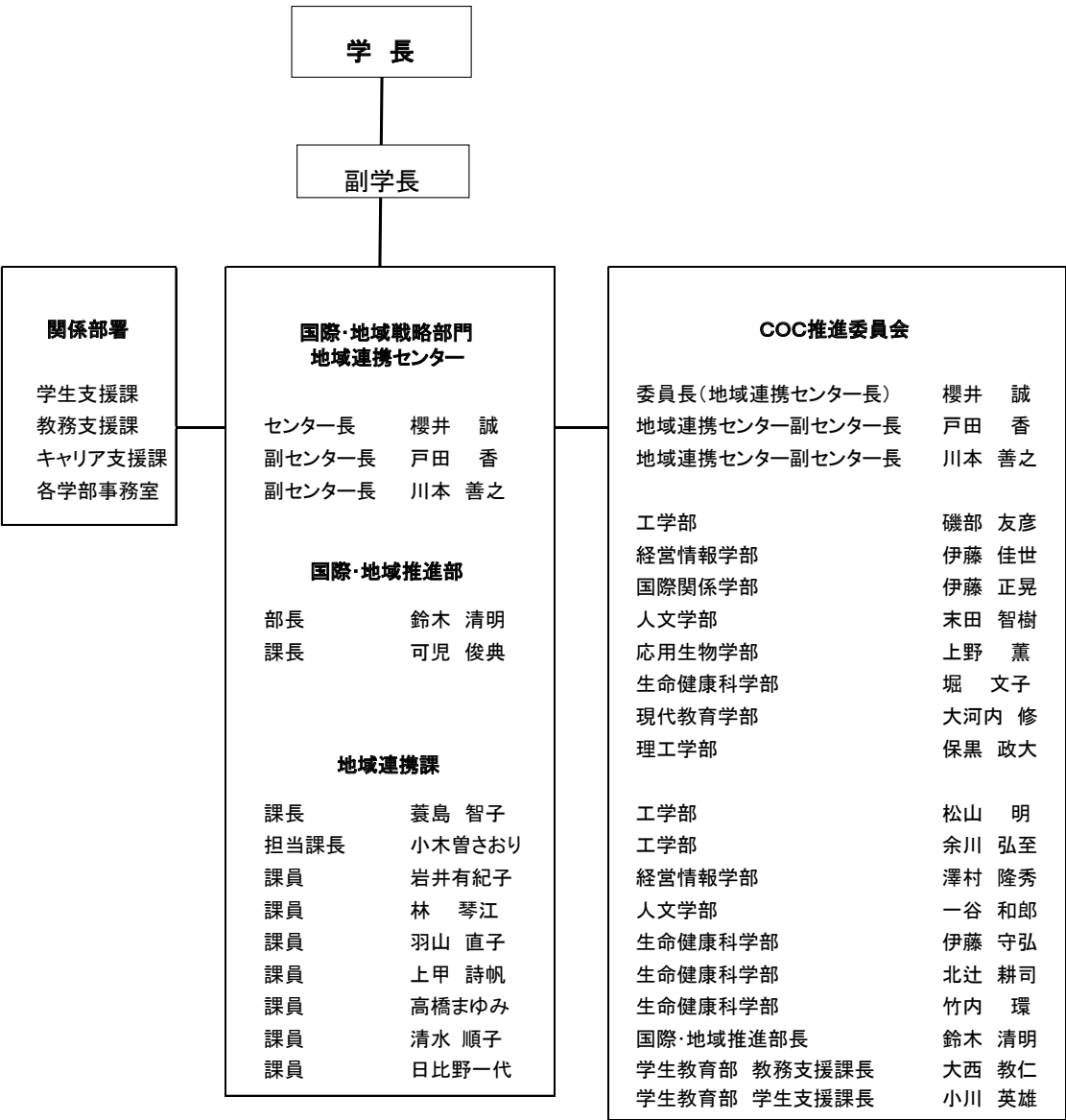
(2) 実施体制・メンバー表

(2) 実施体制・メンバー表

本事業を全学的に推進・実施するために以下のように学長を総括責任者とし、全学体制を構築。実際の事業は、全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し推進にあたっている。またCOC推進委員会内に活動毎に3つのワーキンググループを設け各活動を展開し、事務部門は2019(令和1)年度から国際・地域推進部で事業全体の事務的管理にあたっている。(以下、中部大学COC継続事業体制図およびCOC・WGメンバー表参照)

2024年2月1日

中部大学COC継続事業体制図



2023年度 COC・WGメンバー

正課教育WG（活動番号①）

委員長	上野 薫	（応用生物学部 環境生物科学科 准教授）
副委員長	伊藤 守弘	（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教授）
委 員	竹内 環	（生命健康科学部 講師）
同	山羽 基	（工学部 建築学科 教授）
同	伊藤 佳世	（経営情報学部 経営総合学科 准教授）
同	羽後 静子	（国際関係学部 国際学科 教授）
オブザーバー （事務局）	櫻井 誠 蓑島 智子	（地域連携センター長／工学部 応用化学科 教授） （国際・地域推進部 地域連携課長）

生活・住環境を考えるまちづくりWG（活動番号②）

委員長	磯部 友彦	（工学部 都市建設工学科 教授）
副委員長	松山 明	（工学部 建築学科 准教授）
委 員	岡本 肇	（工学部 都市建設工学科 准教授）
同	横江 彩	（工学部 建築学科 准教授）
同	余川 弘至	（工学部 都市建設工学科 准教授）
同	上野 薫	（応用生物学部 環境生物科学科 准教授）
同	山中 由実	（応用生物学部 食品栄養科学科 助教）
同	山下紗也加	（応用生物学部 食品栄養科学科 助手）
（事務局）	蓑島 智子	（国際・地域推進部 地域連携課長）

世代間交流プログラムWG（活動番号③）

委員長	堀 文子	（生命健康科学部 保健看護学科 准教授）
副委員長	戸田 香	（生命健康科学部 理学療法学科 教授）
委 員	野田 明子	（生命健康科学部 生命医科学科 教授）
同	伊藤 守弘	（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教授）
同	宮下 浩二	（生命健康科学部 理学療法学科 教授）
同	横手 直美	（生命健康科学部 保健看護学科 准教授）
同	尾方 寿好	（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授）
同	水上 健一	（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授）
同	北辻 耕司	（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 講師）
同	矢澤 浩成	（理学療法実習センター 講師）
同	谷利 美希	（生命健康科学部 作業療法学科 講師）
（事務局）	蓑島 智子	（国際・地域推進部 地域連携課長）

2. 活 動 報 告

(1) 全 体 の 活 動 成 果

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

事業活動はCOC推進委員会ならびに活動毎のワーキンググループ（以下：WG）により行なわれてきたが、それらに共通する課題や統括する活動は地域連携センター長を中心にCOC推進委員会等COC全体で取り組んできた。それらの成果は以下のようなものである。

1) 中部大学COC継続事業のスタート

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」としての5年間が終了し、2018年度からは中部大学COC事業として再スタートをした。2020年度からは、2019年度を以て5年間の事業を終了した文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）の一部も加わり、2019年度まで6つあったWGを4つに統合し新たにCOC継続事業としてスタートした。2021年度には、シニア大学がシニアの枠を取り、広く社会人を対象とした中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）として新たに独立事業として展開することとなったため、COC継続事業は3つのWGに整理統合された。以降、中部大学COC継続事業は正課外活動を春日井市及びその近郊地域へ拡げて活動することになった。

2) COCホームページ、Instagramの拡充

各WGの活動内容を中心に適宜更新し拡充した。

3) COC推進委員会の開催

各WGリーダーと各学部代表委員などからなるCOC推進委員会の構成員を見直した。委員は、委員長以下21名とし、COC推進委員会が各活動の報告と重要事項の審議にあたった。

4) 地域創成メディエーターの育成

2015年度までの立ち上げ期間を経て、2016年度はCOC事業における地域創成メディエーターの本格的実施年度となった。以降、育成を継続し、2023年度も前年度同様に育成に努めた。

(1) COC継続事業における地域創成メディエーターの人物像

本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として、COC継続事業では「地域創成メディエーター」の育成を行っている。社会・産業界は、都市だけでなく「地域にも目を向けられる人材」を求めているため、「自ら行動できる人間」「考えられる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「がんばれる人間」「信頼できる人間」「地域にも目を向けられる人間」としての学生育成を図っている。学生が地域社会に触れると「なぜ」「どうして」とこれまでの同学年の学生仲間関係とは違う驚き等

を感じ、対処法や改善策を考えると自然と「考える力」が熟成される。

(2) 地域創成メディエーター育成のための具体的アクション

以上の認識の下に、COC推進委員会、事務局が一丸となって、他部門とも密接な協力の下に以下に示すような具体的なアクションプランを作り、着実に実施し、地域創成メディエーターの育成を図った。

- ① 正課外教育事業の体験を1つ以上とする。
- ② オリエンテーション時に地域創成メディエーター取得を促すチラシ（別紙①参照）を配布することにより周知を図った。
- ③ 推進委員は担当する正課科目の講義にて地域創成メディエーターの取得を学生に促した。
- ④ 教務支援課に依頼し、資格取得に必須となる正課科目を取得あるいは履修中の学生を学科ごとにリストアップした。
- ⑤ 各推進委員に学科毎（場合により学部）の上記リストを渡し、リストの学生に地域創成メディエーターを取得するように積極的に促した。
- ⑥ 推進委員および「動く」の活動担当者から、91名の地域創成メディエーター候補の学生を選出いただき、「動く」の課外活動のフォローアップを行った。
- ⑦ 今年度の「動く」の活動は、31活動であった。（別紙②参照）
- ⑧ キャリア教育科目（自己開拓、社会人基礎知識）において、3年生以上のみ、大学側の受講人数制限により、本人の意思とは関係なく「学ぶ（正課教育）」を履修できない希望学生には、特別課題レポートを提出させて、地域創成メディエーター資格条件の「学ぶ」をクリアとする特別措置を認めた。特別課題教育科目では、2020年度まで必修科目としていた「地域共生実践」をその他5科目と同様に選択科目の1つとし、学生が資格取得に挑戦する可能性を拡げた。

従前COC+において開催していた「PBLぎふゼミ」は2020年度より「PBLゼミ」に改め、2023年度もキャリア教育科目の1単位として読み替え対象とした。また、COC+参加5大学合同プログラム「サマースクール」も条件付きでキャリア教育科目の1単位として読み替え可能とした。

- ⑨ 地域創成メディエーター育成のループリック評価で、育成する人材像を明確にした。（別紙③参照）

(3) 地域創成メディエーター取得学生の推移

立ち上げ期間の2014年度4名及び2015年度5名から、本格実施となった2016年度は144名、2017年度からはループリック評価に基づき「地域創成メディエーター」の資格を132名、2018年度は108名、2019年度は66名、2020年度は60名、2021年度は75名、2022年度は55人に授与した。2023年度は44名の学生に授与できる運びとなっている。

5) 地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」開催（別紙④参照）

2月15日（木）本学不言実行館アクティブホールとスチューデント・コモンズに

において、中部大学地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」を開催した。

地域創成メディエーター資格認定の最終課題「+エクスプレッション」は、講義での規定単位取得に加え、キャンパスを地域に広げた課題体験に参加・実践した学生たちが、まちの再生や地域活性化などの特有の課題に地域と協働して現場で解決策を考えて取り組んだ過程と成果を発表。口頭発表 5 名、ポスター発表 39 名の学生が地域創成メディエーター候補生となった。参加者は、一般市民 12 名、教職員 50 名、学生 45 人が来場した。

参加者にアンケートを依頼し、27 名から回答を得た。(別紙⑤参照)

なお、当日、公の理由により発表が困難である学生は 3 月にポスター発表を行った。

6) 内部評価委員会の開催

3 月 1 日(金)に学部長・研究科長会構成員からなる内部評価委員会が開催され、2023 年度事業活動の内部評価が行われた。オブザーバーとして春日井市にも出席いただいた。

7) ぎふCOC+事業推進コンソーシアムへの参画

岐阜大学を中心とした事業協働機関としてCOC+事業に参加した 5 大学(岐阜大学、中部大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学)で設立されている「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に引き続き参加した。

8) 採択他大学との交流と活動

(1) COC+参加大学共通プログラム「サマースクール」に参加

郡上市をフィールドに 8 月 24 日(木)～25 日(金)の 1 泊 2 日と 31 日(木)の 3 日間にわたり、「サマースクール 2023 in 郡上 ～郡上の企業が人を呼べ!～」が開催された。郡上市雇用対策協議会とタイアップし、郡上市の企業が人材を確保するにはどうすればいいかについて、大学生の視点からアイデアや改善点を提案した。この活動には岐阜大学をはじめとするCOC+参加の 5 大学より 29 名の学生が参加した(本学 7 名)。優秀な提案をしたチームには、市長賞、こたいきょう賞が贈られ、本学学生のチームもそれぞれ表彰された。

・郡上市長賞・・・チームシナモン「若者が考える企業選び～既存支援策にプラスα～」

(人文学部 歴史地理学科 3 年 花井美咲、応用生物学部 食品栄養科学科食品栄養科学専攻 2 年 半田皓大)

・こたいきょう賞・・・チーム球技「リゾートバイトで企業に人を呼ぶ」

(応用生物学部 応用生物化学科 3 年 前田遥香)

(2) 「全国学生交流会」に参加

岐阜大学と金沢工業大学を幹事校として、COC事業・COC+事業関係大学をはじめ、地域をフィールドにした地域志向に取り組んでいる全国の大学・高等専門

2 活動報告

学校の学生が互いに活動の様子や成果を発表する「全国学生交流会」が3月1日（金）にオンライン開催された。本学からは、人文学部コミュニケーション学科2年の原田優里が「学生×住民×行政が繋がり、笑顔あふれるまちに」と題した発表を行った。

今から始める、が正解!
就活の準備

免許、資格欄を
充実させたい!!

文部科学省
地(知)の拠点

勝ちに行く“ガクチカ”

中部大学 学長認定資格

地域創成メディエーター

Mediator

地域創成メディエーターって何?

地域の人々とともに
さまざまな地域の問題解決への取り組みを経て
「行動できる人」「自ら道を切り拓く人」「頑張れる人」
「信頼できる人」として
中部大学が自信を持って認定し、社会に推薦できる学生の証です。

地域がぜんぶ、 キミのキャンパス。

「地域創成メディエーター」資格とは、
在学中から社会経験を積み、社会で生きる力を身につける
中部大学式「人材育成体験プログラム」です。



在学中から
幅広い
価値観が学べる

自分の
職業適性が
わかる!

直接就職に
結びつく
可能性アリ!

コミュカや
思考力が高まる

就活時、
「ガクチカ」に
使える!

実際に現場を
体験できるから
見識が広がる

学部学科を超えた
仲間ができる

いつからでも
気軽にスタートできます!
気になったら
まずは、事務局へGO!!

事務局：地域連携センター キャンパスプラザ 2階

「地域創成メディエーター」の資格取得は、
地域と社会に選ばれるために必要な **実践力・応用力・人間力** を養うために役立ちます。

Step.1

単位取得 & 課題設定

学ぶ

授業で
知識を習得

正課

A の科目から 1 単位以上、
B～C 科目から各 2 単位以上、合計 10 単位以上 必須

自立した社会人として地域の人々と関わるために、
地域社会の多様な背景を知り、専門的な知識を身につけよう。

A キャリア教育科目

「自己開拓」

グループワークによる実習。協同作業を通じて自分をより深く知ることができます。

「社会人基礎知識」

自分の適性に合う職種や企業を選ぶための基礎的な知識を習得します。

B 特別課題教育科目

「地域共生実践」

「持続学のすすめ」

「地域の防災と安全」

「地球を創る」「人類と資源」

「グローバル環境論」

C 地域関連科目

メディエーター資格取得の動機や
地域の理解に役立つ科目を自由選択

選択した科目で会得した知識が、地域課題へどう繋がったか、「関連」や「動機」、「成果」を表現できればOKです。

※地域関連科目の詳細は事務局まで

年1回開催 PBL ゼミ

5大学共通プログラム

年1回開催 サマースクール

実社会に対応するリアルな問題に対峙する課題解決型学習 (Project Based Learning) で仕事に必要な共同作業の能力を養い、実践的思考を鍛えます。

★「学ぶ」A キャリア教育科目の1単位に読み替え可能

地(知)の拠点事業に参画する他大学の学生と一緒に、地域の方々の話を聞き理解を深め、実際の課題に対して提案を行うことにより、今後のキャリアの選択肢を広げることを目指します。
★本活動は「動く」の活動の一つですが、本活動のほかに別の「動く」の活動にも参加・実践した場合に限り、「学ぶ」A キャリア教育科目の1単位に読み替え可能

動く

課外体験に
参加・実践

課外

1プロジェクト以上に参加 必須

キャンパスを地域に広げて、まちの再生や地域活性化など、
特有の課題に取り組む現場で解決策を考えて実践にあたります。

▼プロジェクト活動の一例 ※そのほかさまざまな活動が計画されています。プロジェクトの詳細は事務局まで

高齢者との交流

- CAACの講義を補助
- 世代間交流会への参加
- 高齢者施設での音楽ボランティア

イベントの運営を通して地域貢献

- 高校の体育系部活の運営補助
- 障害者スポーツのすすめ
- 天文台のイベント運営補助

地域のまちを知るまちづくりを考える

- 高蔵寺ニュータウン地域連携住居への入居と地域交流イベント参加
- 森の健康診断
- サマースクール

技術を身につけながら地域貢献

- 報酬型インターンシップ
- イベントでの救護ボランティア活動
- 地域の健康教室の活動支援

Step.2

資格申請

申請は手続きカンタン

申請書はパソコンでダウンロード! 必要内容を書き込み、単位証明書を添付して申し込むだけ。

いつでも教職員が全面サポート!

メディエーター資格取得は自主性・自発性を大切にしていますが、困ったときや分からないことは何でも相談を。ヒントやアドバイスをします。

Step.3

成果発表

PLUS エクスプレッション

資格取得の最後の課題がこの発表会。キャンパス内外を交えた審査員の前で、自身で設けた課題への取り組みと、その成果をプレゼンテーションします。自分自身の成長ぶりをしっかりアピールするのがポイントです。

課題への
取り組みと
成果

自分の変化
気づき
成長

会得した力を
今後どう
活かすか

審査

学長認定

地域創成 メディエーター 誕生

中部大学の建学の精神、「あてになる人間」＝地域創成メディエーターに見事、認定された学生には、認定証が贈られます。資格取得までの道のりが社会で生きる力となり、その達成感「自分はやれる」という自信につながるハズ!

この資格は一度認定されれば終了ではありません。新たな挑戦を続け、自分をどんどん育てましょう!

いつでも
何度でも
チャレンジ
できます



中部大学

地域連携センター キャンパスプラザ 2階 TEL.0568-51-9872

e-mail:coc@office.chubu.ac.jp https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/



別紙② 2023年度 地域創成メディエーター「動く」の活動

2023年度 地域創成メディエーター「動く」の活動 (31件)

No	活動名称	担当教職員	WG名	WGリーダー名	SDGsの17の目標
1	新・森の健康診断	環境生物科学科	上野薫	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	15, 12, 11
2	きみは未来の建築士 (「春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズへの参 加」から名称変更)	建築学科	松山明	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 9
3	高蔵寺ニュータウンの定点観測	都市建設工学科	磯部友彦	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11
4	健康救急フェスティバル	食品栄養科学科	宮田茂 矢野智奈美	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4
5	春日井市における産地直売所を介した地域活性化への取組 み	食品栄養科学科	山中由実 小川宣子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 12
6	春日井まつり 水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト	都市建設工学科	武田誠 尾花まき子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 13, 17, 4
7	学生主体の標準化教育	経営総合学科	伊藤佳世	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	1~17
8	星空ネットワーク	数理・物理サイエンス学科	大嶋晃敏	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4
9	岐阜県東濃地区の食文化の伝承	食品栄養科学科	山下紗也加 小川宣子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4, 11, 12
10	こまきこども未来館プロジェクトマップ制作 @MIR	コミュニケーション学科	柳谷啓子 柊 和佑	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4 (他、コメンタリーに応じて 変化)
11	アスコンについて「考動、未来につなぐ・残す」	都市建設工学科	余川弘至	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 12
12	ボランティア演奏隊 (「ボランティア音楽隊」から名称変更)	国際学科	伊藤正晃	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4, 17
13	多学協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」	保健看護学科	横手直美	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
14	障がい者スポーツのすすめ	スポーツ保健医療学科	伊藤守弘	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
15	健康寿命延伸のための快眠・運動教室	生命医科学科	野田明子	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 11
16	体力測定会	理学療法学科	戸田香	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3
17	福祉用具体験セミナー	保健看護学科	堀文子	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3
18	KCGサークルでの健康教室指導	理学療法実習センター	矢澤浩成	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 5, 11
19	地域イベントに対するボランティア活動(救護・消防団)	スポーツ保健医療学科	北辻耕司	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 17
20	地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への 取組み	スポーツ保健医療学科	尾方寿好	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
21	アクティブシニアとの交流活動	作業療法学科	谷利美希	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 11
22	CAAC講義の補助(健康増進実習など)	スポーツ保健医療学科	水上健一	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 10, 11, 16
23	石尾台町内会夏祭りサポーター	作業療法学科	谷利美希	③世代間交流プロ ラム WG 生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 11
24	おもしろ科学実験ネットワーク	数理・物理サイエンス学科	大嶋晃敏	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4
25	メディア表現を活用したサポテン芸デザインプロジェ クト	コミュニケーション学科	河村陽介	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG 工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4, 9, 12
26	報酬型インターンシップ	学生部長 学生支援課 〃 〃 鈴森正基	伊藤守弘 田中順 鈴森正基	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	4, 8
27	臨床実践プログラム	臨床工学科	武田明	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	4, 8
28	地域連携住居 KNT創生サポーターズ(CU+) ※UR居住者のみ	学生部長 学生支援課 〃 〃 唐木純也	伊藤守弘 殿垣博之 唐木純也	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	11
29	ボランティア・NPOセンター	学生支援課	殿垣博之 唐木純也	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	11, 14, 15
30	サマースクール	地域連携センター	戸田香	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	9, 11
31	小牧市東部でつながりやってみようプロジェクト	地域連携課	養島智子	④全体 地域連携センター 副センター長 戸田香	11, 17, 9

別紙② SDGs の 17 の目標

SDGsの17の目標

目標1 (貧困)		あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 (飢餓)		飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (保健)		あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)		すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 (ジェンダー)		ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワメントを行う。
目標6 (水・衛生)		すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標7 (エネルギー)		すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 (経済成長と雇用)		包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク(適切な雇用)を促進する。
目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)		レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る。
目標10 (不平等)		各国内および各国間の不平等を是正する。
目標11 (持続可能な都市)		包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する。
目標12 (持続可能な生産と消費)		持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)		気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標14 (海洋資源)		持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する。
目標15 (陸上資源)		陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の防止・防止及び生物多様性の損失の防止を促進する。
目標16 (平和)		持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る。
目標17 (実施手段)		持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

※内閣府地方創生推進事務局「地方創生に向けた自治体SDGsの推進について」を抜粋

別紙③ ルーブリック評価〈A-2表〉

〈A-2表〉

中部大学地域創成ディエーター資格申請 ルーブリック(A-2) 【動くの活動責任者(推薦者)が記入して下さい。申請書A-1表に添付の上、提出下さい。】

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いします。】

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

被推薦者氏名		学籍番号		推薦者(教職員)		所属:		氏名:		⑥			
認定活動名称													
到達目標	区分	小区分	活動番号	大項目	評価項目	A(5点)	B(4点)	C(3点)	D(2点)	E(1点) C(3点)	F(0点) E(0点)	点数	
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意欲を見出すことができる。 2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にとることができ、自分の担当内容について責任をもって担い減らすことができる。そのため、POCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 3) 地域の取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にとることができ、自分の担当内容について責任をもって担い減らすことができる。そのため、POCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることが出来る。 5) 主体的に活動に参加できる 6) 解決すべき課題が理解できる 7) 課題解決のためにクリエイティブシンキングを実行できる 8) プロジェクトにおける自分の役割が説明できる 9) チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる 10) 自分の専門性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることが出来る 11) POCAサイクルを理解し、実行できる 12) 報告・連絡・相談(ホウレンバウ)を理解し、実行できる	「学ぶ」		1	合計10単位の整合性がとれている	3	十分整合性がとれている	十分整合性がとれている	整合性が不十分	整合性が不十分	整合性がない			
			2	自由選択の「地域関連科目」が活動(「動く」)に関連している	3	十分関連している	関連している	関連が不十分	関連が不十分	関連が無い			
			3	自由選択の「地域関連科目」の本来の意義や目的が理解できる	3	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が無い			
			4	自分にとっての「関連科目」の意義が整理できる	3	十分整理されている	整理されている	整理が不十分	整理が不十分	整理できていない			
			5	他者との関わりを学び、実践できる	3	十分実践できる	実践できる	実践していない	実践していない	実践できない			
			6	自分を社会の関わりについて、自分の考えを述べ、それを人に説明できる	3	十分説明できる	説明できる	説明できない	説明できない	説明できない			
			7	組織を活性化させる力が身に付いている	3	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない			
			8	"持続可能な社会"のために必要なものごとを考える力が身に付いている	3	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない			
			9	考え方や価値観を異にする人々との対話に要するコミュニケーション能力が身に付いている	3	十分身に付いている	身に付いている	身に付いていない	身に付いていない	身に付いていない			
			10	合意形成のために重要な行動が理解できる	3	十分理解している	理解している	理解が不十分	理解が不十分	理解が無い			
			活動状況	1)	参加したプロジェクトの目的や趣意が理解できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度は他者に明確に伝えることができる	必要な指導をすれば、必要な内容の6割程度は他者に明確に伝えることができる	必要な指導をすれば、必要な内容の5割程度は他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をしても理解ができない	詳細な指導をしても理解ができない	
			2)	十分な量の活動ができる	3	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	3	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することが出来る	
	3)	十分な量の活動ができる	3	申請者に期待される活動量を十分に満たして参加することができる	3	申請者に期待される活動量の6割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の5割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の4割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の3割程度は参加することができる	申請者に期待される活動量の2割程度は参加することができる			
	4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることが出来る。		4)	自分の仕事はもちろん、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに、率先して行うことができる。約束を守り遂行をかけることはできない	3	自分の仕事は当然、必要な内容の7割程度は他者に明確に伝えることができる	自分の仕事は当然、必要な内容の6割程度は他者に明確に伝えることができる	自分の仕事は当然、必要な内容の5割程度は他者に明確に伝えることができる	自分の仕事は当然、必要な内容の4割程度は他者に明確に伝えることができる	自分の仕事は当然、必要な内容の3割程度は他者に明確に伝えることができる			
	5)	主体的に活動に参加できる	5	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる	5	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる	指導がなくても、極めて積極的に参加することができる			
	6)	解決すべき課題が理解できる	5	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	5	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる			
	7)	課題解決のためにクリエイティブシンキングを実行できる	3	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	3	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる			
	8)	プロジェクトにおける自分の役割が説明できる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる			
	9)	チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる	3	自力で自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる	3	指導がなくても、自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。また、意見や提案を述べることができる			
	10)	自分の専門性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることが出来る	3	自ら、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる	3	指導がなくても、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる	指導がなくても、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる			
	11)	POCAサイクルを理解し、実行できる	3	自ら、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる	3	指導がなくても、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる	指導がなくても、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる	指導がなくても、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる	指導がなくても、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる	指導がなくても、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動を行い、進めることができる			
	12)	報告・連絡・相談(ホウレンバウ)を理解し、実行できる	3	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る	3	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る	指導がなくても、適切な報告・連絡・相談が出来る			
推薦理由					小計点 [70点満点]								
					配分考慮後の合計点 (合計A: 51.35点満点)								

学 籍 番 号

– 18 –

別紙③ ルーブリック評価〈C表〉

〈C表〉

中部大学地域創成メディエーター資格申請 ルーブリック(C) 【発表会当日に評価員が記入】

被評価者氏名		学籍番号	
--------	--	------	--

評価委員	所属:	氏名:
------	-----	-----

区分	大項目	チェック	得点	小項目
プレゼン 当日	プレゼン内容が分かりやすい		A(3点)	内容が簡潔にまとめられていて理解しやすい
			B(2点)	内容は簡潔にまとめられているが、理解しづらい部分がある
			C(1点)	内容が簡潔にまとめられていないか、量が少なすぎるため、理解できない
			D(0点)	明らかに発表内容として不十分である
	プレゼン資料が見やすい		A(3点)	十分に工夫されていて分かりやすく、また効果的である
			B(2点)	工夫が少なく簡素ではあるが、理解できる
			C(1点)	資料不足あるいはまとめきれておらず、理解しづらい部分がある
			D(0点)	明らかに資料作成が不足していて、理解できない
	声の大きさが適切で、 身振りも使ってプレゼンができる		A(3点)	聞き取りやすい声で、身振りも使って発表ができる
			B(2点)	聞き取りやすい声ではあるが、身振りが少なく淡々と発表している
			C(1点)	声は大きい、早口で聞き取りづらい
			D(0点)	声が小さく、身振りも少なく、発表内容が分かりづらい
	プレゼンにふさわしい服装や姿勢、 視線、言葉遣いができる		A(3点)	いずれもふさわしいものである
			B(2点)	姿勢が悪く、下を向いているなど視線が定まっていない
			C(1点)	言葉遣いが悪く、言い直しが多い
			D(0点)	いずれもプレゼンにふさわしいものではない
	プレゼン内容に対しての 質疑応答ができる		A(3点)	質問に対して適切に答えることができる
			B(2点)	質問に対して時間は必要だが、答えることができる
			C(1点)	質問に対して適切に答えられない
			D(0点)	質問に対して全く答えられない
	プレゼン内容を通して、 今後の自分のキャリア設計を 伝えることができる		A(3点)	具体的な内容を伝えることができる
			B(2点)	曖昧な部分もあるが、ある程度は伝えることができる
			C(1点)	キャリア設計と思われる内容はあがるが、伝えられない
			D(0点)	キャリア設計と思われる内容がない
				合計点 [18点満点]

別紙④ 地域創成メディエーター学生発表会



中部大学 第10回

「地域創成メディエーター」 学生発表会

PLUS エクスプレッション

2024 **2/15** (木)

中部大学
不言実行館1F アクティブホールほか
15:00▶17:10(14:30受付開始)

<入場無料>

地域の皆さまも
ご参加
いただけます

地域創成メディエーターを目指す学生は講義での単位取得とともに、地域での活動に参加し、特有の課題に向きあい、解決策を考えながら実践します。活動を通した学びと成長を自分の言葉で伝えるプラス・エクスプレッション！

学長から認定証が授与され地域創成メディエーターに認定です。



中部大学

主催／中部大学 後援／春日井市

中部大学 地域創成

検索





「地域創成メディエーター」資格は、資格そのものが大切なのではなく、
その道のりこそが学生自らにとって大事なことであり、「意義」と「価値」がある「行動」です。

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業

第10回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

地域創成メディエーター資格とは… 地域の人と人をつ結びつけるメディエーター (mediator: 媒介者) となり、春日井市をはじめ地域の様々な問題に主体性をもって取り組み、中部大学の建学の精神「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生に認定される資格です。

プログラム

- 15:00 開会挨拶：櫻井 誠（中部大学 地域連携センター長）
- 15:05 学生によるプレゼン発表
- 16:15 学生によるポスター発表 2Fステージエリア
- 17:00 地域創成メディエーター認定証 授与式
- 17:05 閉会挨拶：戸田 香（中部大学 地域連携センター副センター長）
- 17:10 閉会

*プログラム内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください

プレゼン発表

地域創成メディエーター資格に挑む学生が、これまでの知識修得と体験を振り返り、達成感や今後の課題、目標なども交え、自己成長について自らプレゼンテーションを行います。

ポスター発表

自己プレゼンテーション同様、ポスターを用いて自己成長について視覚的にPR。参加者の皆さまには学生と直接コミュニケーションをとっていただき、ご意見やアドバイスをお願いします。



駐車場・会場は正門の守衛にお尋ねください

中部大学へのアクセス

●JR神領駅からスクールバス

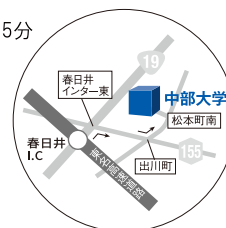
JR中央本線「神領」駅下車
(名古屋駅より「普通」で約26分)、
北口「中部大学バスのりば」から
名鉄バスで約10分

●JR高蔵寺駅から名鉄バス

JR中央本線・愛知環状鉄道「高蔵寺」駅
下車(名古屋駅より「快速」で約26分)、
北口8番のりばより名鉄バス
「中部大学前」行に乗車 約10分

●お車ご利用の場合

東名高速道路
春日井ICより約5分



お申し込み締切
2/13 (火)



参加お申込みは
QRコードから→

お電話・メールでも受付しております
中部大学 地域連携センター
TEL. 0568-51-9872
E-mail: coc@office.chubu.ac.jp



中部大学

お問い合わせ 中部大学地域連携センター 愛知県春日井市松本町1200

中部大学地域連携・生涯学習

検索

Web <https://www.chubu.ac.jp/community-extension/>

E-mail coc@office.chubu.ac.jp

TEL 0568-51-9872

第10回地域創成メディエーター学生発表会 PLUS エクスプレッション

日時：2024年2月15日(木曜日) 15時00分～17時10分

会場：中部大学 不言実行館 1階 アクティブホール, 2階 スチューデント・コモンズ

主催：中部大学

後援：春日井市

15時00分～15時05分 (会場:1F アクティブホール)

開会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)

15時05分～16時00分

地域創成メディエーター紹介 上野 薫 (中部大学 応用生物学部・准教授)

学生による自己プレゼンテーション

1 「地域から世界へ、世界から地域へ」

(国際関係学部 国際学科 3年 磯部彩香)

2 「大学生活での挑戦」

(人文学部 コミュニケーション学科 2年 中野賢治)

3 「限界集落に無限の可能性を感じさせる人に」

(人文学部 コミュニケーション学科 2年 原田優里)

4 「未来に向かって」

(経営情報学部 経営総合学科 1年 今井伶香)

5 「自主性×地域貢献 ー私の将来設計にどう活かせるかー」

(国際関係学部 国際学科 3年 伊藤愛理)

<休憩・移動>

16時10分～16時50分 (会場:2F スチューデント・コモンズ)

学生によるポスター発表 ※詳細は裏面をご覧ください。

16:10～16:30 Aグループ 19名

16:30～16:50 Bグループ 18名

<休憩・移動>

17時00分～17時05分 (会場:1F アクティブホール)

地域創成メディエーター認定証 授与式 竹内 芳美 (中部大学長)

17時05分～17時10分

閉会挨拶 戸田 香 (中部大学 地域連携センター 副センター長)

**** 中部大学 地域連携センター ****

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

Tel: 0568-51-9872

〔第10回地域創成メディエーター学生発表会〕の様子 ～2024年2月15日(木)～



開会挨拶 櫻井誠
(中部大学教授 地域連携センター長)



学生によるプレゼンテーション 1



学生によるプレゼンテーション 2



質疑応答



ポスター発表



ポスター発表



資格認定証授与式 竹内芳美 (中部大学長)



発表学生記念撮影

別紙⑤

第 10 回 中部大学 地域創成メディエーター学生発表会
PLUS エクスプレッション アンケート集計結果

開催日：2024年2月15日（木） 15:00～17:10

場所：中部大学 不言実行館 1F アクティブホール，2F スチューデント・commons

参加者数：一般12名 教職員50名

学生45名（口頭発表5名、ポスター発表34名、一般学生6名） 計107名

回収数：27名

1. 年齢
- | | | | |
|--------------|--------------|------------|------------|
| 1. 29歳以下（2名） | 2. 30代（6名） | 3. 40代（3名） | 4. 50代（8名） |
| 5. 60代（6名） | 6. 70歳以上（2名） | | |

2. 所属

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------------|-----------|
| 1. 一般市民（1名） | 2. 教育関係機関（1名） | 3. 地方自治体（5名） | 4. 企業（0名） |
| 5. NPO・市民団体（1名） | 6. 大学教員（10名） | 7. 大学職員（5名） | |
| 8. 学生（1名） | 9. C AAC受講生（1名） | 10. エクステンションカレッジ聴講生（1名） | |
| 11. その他（1名） | | | |

3. この「地域創成メディエーター学生発表会」を何でお知りになりましたか

- | | | |
|------------------|------------|--------------|
| 1. ホームページ（2名） | 2. チラシ（2名） | 3. 広報春日井（0名） |
| 4. 関係者からの案内（19名） | 5. その他（3名） | 無回答（1名） |

4. この「地域創成メディエーター学生発表会」全体のご感想をお聞かせください

- | | | |
|-----------------|-------------|-----------|
| 1. とてもよかった（17名） | 2. よかった（9名） | 3. 普通（0名） |
| 4. やや不満（0名） | 5. 不満（0名） | 無回答（1名） |

5. この「学生発表会」の会場や運営はいかがでしたか

- | | | | |
|----|-------------|-------------|-----------|
| 会場 | 1. 良い（23名） | 2. やや良い（2名） | 3. 普通（1名） |
| | 4. やや悪い（0名） | 5. 悪い（0名） | 無回答（1名） |
| 運営 | 1. 良い（22名） | 2. やや良い（3名） | 3. 普通（1名） |
| | 4. やや悪い（0名） | 5. 悪い（0名） | 無回答（1名） |

6. 学生の自己プレゼンテーションを踏まえ本学教育実践に対するご意見ご感想がございましたらお聞かせください

- ・皆様大変積極的に頼もしく感じました。
- ・地域の連携をもっと多くして、学生が地域で輝ける場を作っていただきたと思います。先生も積極的に関わるとスムーズにすすむかもしれません。
- ・とても良い取組だと思いますので、是非これからも継続していただきたいと感じました。
- ・イベントを15年していますが、若い人の意見をもう少し取り入れるべきだと思いました。
- ・小牧市職員と地域との関わりをつくっていただいていること大変感謝しています。引き続き、連携をお願いいたします。
- ・大変良い活動だと思います。できればポスター発表よりも口頭発表する学生が増えてくれればと思います。

- ・自分と向き合い成長していく様を、自分の言葉で伝えている姿が素敵でした。40代の自分でも刺激を受けました。何となく毎日を過ごしている同世代(高校生含む)、高齢者の方々にも聞いて頂きたいと思いました。学生時代の経験は一生の宝になると思います。
- ・皆すばらしい発表で将来が楽しみです。
- ・みなさん自主性をもって行動されていて、すばらしいと思いました。このような活動の場は貴重な経験になると思いますので、今後も実践していただきたいです。

7. その他ご意見ご要望などございましたらお聞かせください

- ・学生さんのプレゼンも上手ですが、何より1年かけてとりくんだ過程が素晴らしく感激しました。若者が地域に目を向けて、あんな風に真剣に、そして柔軟なアイデアを提案してくれたら未来は明るいと感じました。もっと多くの学生さんに知ってもらいたいですね!みなさま一大イベントお疲れ様でした!
- ・皆さん凄くしっかりと発表していて、感服しました。これからのご活躍をお祈りいたします。勉強になりました。有難うございました。
- ・発表者の服装を自由にしてはどうか?(活動時のユニフォームなども可)
- ・素晴らしい発表ありがとうございました。

2024年2月15日実施

(2) ワーキンググループ等報告

- ① 正課教育WG
- ② 生活・住環境を考えるまちづくりWG
- ③ 世代間交流プログラムWG
- ④ 全体

① 正課教育WG

1. 活動組織

委員長	上野薫
副委員長	伊藤守弘
委員	竹内環、山羽基、伊藤佳世、羽後静子 (櫻井誠)

2. 活動計画

4月-7月	「地域共生実践」春学期2クラス授業（対面授業）
4月-9月	地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し
4月-3月	地域創成メディエーターへの導き（広報活動）
4月-3月	次年度以降の開講数・講義手法の検討と情報収集
4月-8月	「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討
8月-9月	春学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
8月-9月	地域創成メディエーター申請様式検討
9月-1月	「地域共生実践」秋学期3クラス授業（対面授業）
10月	地域創成メディエーター申請開始
11月	地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）
11月-12月	地域創成メディエーター説明会開催
12月-2月	地域創成メディエーター学生発表会
2月-3月	秋学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
2月-3月	「地域創成メディエーター」認定

3. 活動成果

・総括

1) 地域創成メディエーター「学ぶ」の科目修正案の作成

本学では2023年度入学生から「キャリア教育科目」が廃止となり、「リベラルアーツ教育科目」が開設された。これまで地域創成メディエーターの申請資格「学ぶ」のA科目群には、「自己開拓（1単位、1年秋）」と「社会人基礎知識（2単位、2年春）」が指定されており、2023年度入学生からは修正が必要となった。講義内容からみて代替講義には「リベラルアーツ教育科目」以外ではなく、全体のA・B科目群への配置換えも含めた以下の修正案を提案し、第63回COC推進委員会にて了承され、2023年度の地域創成メディエーター申請から反映されることとなった。修正内容の詳細を以下に示す。

- ・「キャリア教育科目」に代わり「リベラルアーツ教育科目」を「学ぶ」に指定する。
- ・2022年度以前入学の学部生は、従来通り、「学ぶ」Aは「キャリア教育科目」、「学ぶ」Bは「特別課題教育科目」とし、変更はない。ただし、「自己開拓」は「自己開拓A」に名称変更となっている。
- ・2023年度以降入学の学部生は、「学ぶ」Aは「特別課題教育科目」、「学ぶ」Bは「リベ

ラルアート教育科目」とする。

- ・「特別課題教育科目」「リベラルアート教育科目」は全科目を指定科目とする。

2) 「地域共生実践」の運営

2023 年度は春学期 2 クラス、秋学期 3 クラスにて全て対面で実施した。履修者の傾向としては、受講生の中にシラバスを見ずに履修登録をしたことで、第 1、2 講では取消や追加に伴う学生の入替がいつもになく激しかったが、この入替によって受講に対する意識が良い方向に働き、途中から受講をやめてしまう学生が少なく、グループワークが良い雰囲気でも継続できた。また、グループ内で協力し、考えて工夫する姿勢が見られるようになり、受講初期に比べて成長が感じられた。履修当初のメディエーター資格への目的意識は例年より少し低いように見られるが、この講義を通して様々な活動への積極的な参加を期待したい。

5 月-7 月 「地域共生実践」春学期 2 クラスの授業運営を実施した。

(履修者 66+46=112 名、教員 6 名)

4 月-3 月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し：特に変更の必要性は認められなかったため、昨年通りで実施した。

4 月-3 月 地域創成メディエーターへの導き（広報活動）：オリエンテーションでのパンフレット配布・説明などを行った。

4 月-3 月 PBL ぎふゼミを実施した。

4 月-8 月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討：これまでの改訂による情報内容のばらつきを解消し、中部大学学長認定資格に関する情報を更新するため、テキストの修正と販売価格の見直しを行った。

8 月-9 月 春学期終了後、担当者間で春学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、秋学期の協力者の勧誘を行った。

8 月-9 月 地域創成メディエーター申請様式検討：「キャリア教育科目」に関する変更に伴い、2023 年度以降入学生と 2022 年度以前入学生に申請様式を分離した。

9 月-1 月 「地域共生実践」秋学期 3 クラスの授業運営を実施した。

(履修者 69+79+76=224 名、教員 9 名)

1 月-3 月 秋学期終了後、秋学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、次年度の協力者を勧誘した。

10 月 地域創成メディエーター申請を予定通り開始した。

11 月 地域創成メディエーター審査（プレゼンテーション候補者の選出）を予定通り実施した。

12 月 「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会を開催（2 回実施）した。「動く」指導担当教職員へのポスター作製における指導を昨年と同様に具体的に実施し、配布資料にも明記した。

1 月-2 月 口頭発表練習を実施し、プレゼンテーションの本質的な目的や具体的な方法について指導するとともに、学生同士での学びの機会を与えた。

(2024 年 1 月 23 日 (火) で 1 回目を、2 月 14 日 (水) に 2 回目を実施)

2 月 地域創成メディエーター学生発表会の実施

(+エクスプレッション 2024 年 2 月 15 日および 3 月 4 日の 2 回で実施)

2 月-3 月 「地域創成メディエーター」認定予定 (44 名)。自主性の高い候補者の輩出を予定している。

4. 今年度の課題・次年度の目標

コロナ禍 4 年目となる 2023 年度における地域創成メディエーター資格へのエントリー数は、昨年度に比べてやや減少となった。昨年度に続き、学生主体の希望数に近い値であったと考えられる。2022 年度より、本学の SDGs 関連講義のプログラムが進められ、今後の「地域共生実践」やその他の関連講義の担当者や意義の整理などが課題になってくると思われる。次年度はコロナ禍 5 年目に突入し、徐々に with/after コロナの社会のありかたに変容する中、受講生の背景にはコロナ禍の特殊な成長過程がまだ強く残っているため、本講義においても持続可能で効果的な講義運営の検討を続けていきたい。

〈「地域共生実践」の授業風景〉



グループワーク発表



プレゼントカードの交換

〈地域創成メディエーター学生発表会「プラス・エクスプレッション」2024 年 2 月 15 日〉



口頭発表



ポスター発表

② 生活・住環境を考えるまちづくりWG

1. 活動組織

委員長 磯部友彦

副委員長 松山明

委員 岡本肇 横江彩 余川弘至 上野薫 山中由実 山下紗也加

2. 活動計画

- 5月-3月 「岐阜県東濃地区の食文化の伝承」の活動実施
- 5月-12月 「新・森の健康診断」の活動準備と実施
- 6月-9月 「健康救急フェスティバル」の活動準備と実施
- 6月～ 「アスコンについて～考動、未来につなぐ・残す～」の活動実施
- 6月-12月 タウンウォッチング(高蔵寺 NT タウンウォッチングなど)の実施
- 7月、8月ほか「水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト」の学科学生との活動と春日井まつりでの実施
- 7月-2月「春日井市における産地直売所を介した地域活性化への取組み」の活動実施
- 10月 「春日井まつり きみは未来の建築士」にボランティア参加
- 10月-12月 地域交通に関する調査の実施
- 通年 「学生主体の標準化教育」の活動実施
- 通年 「こまきこども未来館プロジェクトマッピング制作」の活動実施
- 通年 「星空ネットワーク」の活動実施
- 通年 演習・ゼミナールのテーマとして現実の地域課題を取り上げる。
- 通年 卒業研究のテーマとして地域課題に対する解決方法に取り組む。
- 通年 地域の人々との十分なコミュニケーションを交えた学生の自主活動を促進する。
- 通年 過年度の地域志向研究経費による活動のフォローアップをする
- 通年 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。

3. 活動成果

1) 正課としての活動

- a. 都市建設工学科「部門創成 B(3年生科目)」において現地視察等を実施。

- 10月24日 名古屋市三の丸地区から名古屋駅前地区において都市計画現場視察(服部敦・岡本肇担当)【参加学生29名】
- 11月14日 JR大曽根駅地区から久屋大通公園において都市計画現場視察(服部敦・岡本肇担当)【参加学生29名】
- 11月14日 春日井市役所において春日井市職員との交流ならびに JR 春日井駅周辺の視察(磯部友彦・柴原尚希担当)【参加学生16名】



名古屋市三の丸地区から名古屋駅前地区
において都市計画現場視察（四間道周辺）



春日井市役所において春日井市職員との交流

- b. 建築学科「ゼミナール A、B(3 年生科目)」、「地域住宅計画 (3 年生科目)」、「建築・都市計画演習 (3 年生科目)」において現地視察等を実施(松山明担当)
- ゼミナール A 参加学生 12 名 計画的に開発された良好な戸建て住宅地現地見学
- 4 月 21 日 春日井市十三塚町プログレスビレジ春日井中央
- 5 月 19 日 小牧市光ヶ丘 5 丁目 C' s タウン光ヶ丘、同城山 5 丁目グリーンテラス城山
- 6 月 9 日 小牧市光ヶ丘 5 丁目グリーンテラス光ヶ丘
- 7 月 14 日 名古屋市守山区シティハイツ志段味
- 地域住宅計画 参加学生 30 名 防災まちづくり事業完了地区現地見学
- 6 月 5 日 春日井市松新 1 丁目等 J R 勝川駅周辺地区
- ゼミナール B 参加学生 11 名 要住環境整備事業地区及び事業実施地区現地見学
- 11 月 8 日 春日井市桃山町 2 丁目 (春日井市営桃山住宅)、桃山町 (北山住宅地)
- 12 月 10 日 名古屋市北区大曽根北地区、北区城北荘、熱田区尾頭地区、熱田区一番一丁目
- 建築・都市計画演習 参加学生 27 名 課題の対象地の現地調査
- 11 月 21 日 名古屋市中区錦 2 丁目



錦二丁目（伏見繊維問屋街周辺地区）をチームに別れて現地踏査



まちづくり NPO から錦二丁目のまちづくり活動のレクチャーを受ける

- c. 都市建設工学科「特別講義(1年生科目)」において現地視察を実施した。

11月17日 岐阜県郡上市において公共内ヶ谷(うちがたに)ダム建設事業のダム本体工
事を見学 (柴原尚希・岡本肇担当)【参加学生 71 名】



岐阜県郡上市、内ヶ谷ダム本体工事の見学

- d. 都市建設工学科「卒業研究(4年生科目)」において視察等を実施した。

4月30日 リバーパークおぶさ付近(岐阜市長良雄総地先 長良川右岸鵜飼大橋下流)
において国土交通省中部地方整備局主催の水防演習のための水防工法の講習(杉井
俊夫・武田誠・余川弘至担当)【参加学生 23 名】

5月21日 愛西市立田町地先 東海広場において令和5年度木曽川連合総合水防演習
に参加(杉井俊夫担当)【参加学生 5 名】

- e. 産業界ニーズ リスク予防管理士 企業現場教育活動

12月8日 小牧市小牧原、名古屋市名東区藤里町、名古屋市中区錦、名古屋市熱田区
三番町において土木現場で採用されているリスク管理現場の見学・研修(余川弘至担
当)【参加学生 10 名】

2) 各学科の卒業研究

- a. 都市建設工学科での卒業研究において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の
検討がなされた。【参加学生 48 名】

	研究室	課題
1	岡本	“自分史”に記載された正の感情と場所から得られるまちづくり要素に関する研究
2	岡本	鞍ヶ池公園のリノベーション事業の評価に関する研究
3	岡本	相生山緑地における都市計画道路事業実施の是非に関する研究～地域住民へのアンケート調査を踏まえて～
4	岡本	閉園した遊園地・テーマパークの跡地利用に関する研究
5	岡本	鉄道廃線跡を活かしたまちづくりへのプロセスに関する研究～旧桃花台線を中心に～
6	岡本	‘東海オンエア’が岡崎市のまちづくりにもたらす効果に関する研究
7	岡本	陶磁器産業地域における関連事業所の立地変容に関する研究～2001年から2021年における多治見市の製造業に着目して～
8	武田	RRIモデルを用いた庄内川の流出解析に関する研究
9	武田	RRIモデルを用いた庄内川の流域治水に関する研究
10	武田	春日井市地蔵川流域の降雨流出に関する現地観測と数値解析
11	武田	春日井市の中小企業を対象としたBCPの普及に関わる検討
12	武田	地下街に関わる避難シミュレーションの構築と活用に関する研究
13	武田	洪水・高潮氾濫による河川に関わる土木施設の被害について
14	武田	巨大高潮氾濫の避難所の被害評価と広域避難対策に関する検討
15	尾花	河川水辺空間のデザインに関する研究ー内津川を対象としてー

16	尾花	伝統的治水システムとしての霞堤に関する研究
17	尾花	横断構造物が河川生態系へ与える影響に関する研究
18	尾花	庄内川流域の水質形成に関する研究
19	尾花	ダム構造に着目した流水型ダムの堆砂に関する研究
20	尾花	三重県一級河川流域での降雨特性と災害発生個所に関する研究
21	尾花	流域治水における水田貯留の役割に関する一考察
22	服部	ハイウェイオアシスの比較研究
23	服部	岐阜市中心市街地の店舗の変遷
24	服部	名古屋市中心及び近郊のファッションビルの立地及び特性
25	服部	まちなかに滞在空間をつくるイベントの研究
26	服部	都市空間における公衆浴場の利活用に関する研究
27	服部	地域スポーツとしての少年野球の持続性に関する研究
28	服部	国内のプロ野球球団の野球場に関する比較研究
29	服部	郊外ニュータウンのリデザイナー高蔵寺ニュータウンセンター地区を対象として
30	磯部	中部大学生の通学行動実態分析 -都市建設工学科在学生を事例に-
31	磯部	新交通システムの実用性に関する評価
32	磯部	連続立体交差事業が周辺地域に及ぼす効果について
33	磯部	路面電車を活用した都市政策の考察
34	磯部	ウォークアブルな都市空間の実現に向けての課題の検討
35	磯部	実態調査に基づいた路上駐停車特性の分析
36	磯部	愛知県犬山市における「抜け道現象」の変遷
37	磯部	カーナビ情報に基づく地域別交通利便性の比較
38	杉井	AIによる堤体内液状化の危険度予測
39	杉井	深層学習による庄内川堤防の予測危険箇所の可視化
40	杉井	改良地盤のコウライシバの生育評価
41	杉井	ATTAC工法による改良地盤への浸透効果の評価`アーバン・グリーンダムプロジェクト`
42	柴原	中部大学への通学手段及び通学時間の実態調査
43	柴原	交差点における道路舗装のライフサイクルコストの算出-春日井インター東交差点を対象として-
44	柴原	岐阜県土岐市における水災害時の避難所配置及び避難経路の検討
45	柴原	三重県の都市公園におけるSDGs政策の実施状況調査
46	柴原	愛知県尾張地方の都市公園におけるSDGs政策の実施状況調査
47	柴原	訪日外国人旅行者の動向とその恩恵の地域差に関する分析
48	柴原	日本版持続可能な観光ガイドラインに基づく観光地の評価-中部地方の観光地域づくり法人を対象として-

b. 建築学科での卒業研究、卒業設計において地域に関する多くの課題が選定され、解決法の検討がなされた。【参加学生 47 名】

	研究室	論文タイトル	設計タイトル
1	松山研	「ブラブラまつり」がコミュニティ形成に与える影響についての研究	
2	松山研	「ブラブラまつり」がコミュニティ形成に与える影響についての研究	
3	松山研	県営住宅の建て替えによる住民意識調査研究 -菱野団地の事例-	
4	松山研	県営住宅の建て替えによる住民意識調査研究 -菱野団地の事例-	
5	松山研	県営住宅の建て替えによる住民意識調査研究 -菱野団地の事例-	
6	松山研	ポケットパークと公園が複数ある地域のコミュニティの形成についての研究 -多治見市滝呂地区の事例から-	
7	松山研	ポケットパークと公園が複数ある地域のコミュニティの形成についての研究 -多治見市滝呂地区の事例から-	
8	松山研	戸建住宅地におけるコミュニティの実態と公園と緑地の必要性	
9	松山研	戸建住宅地におけるコミュニティの実態と公園と緑地の必要性	
10	松山研	戸建て集合住宅地におけるコミュニティの形成に関する研究 -小公園とインナー道路の影響-	
11	松山研	戸建て集合住宅地におけるコミュニティの形成に関する研究 -小公園とインナー道路の影響-	
	研究室	論文タイトル	設計タイトル
12	稲川研		アートから広がる輪 佐久島に新しいアートを

13	山岸研		再び子供を結ぶ地 -座園を新たなこどもの居場所へ-
14	山岸研		岐阜高島屋跡地利用計画
15	山岸研	道の駅の地域振興と用途	地域の交流地点 道の駅「とよかわ」
16	山岸研	アーケード商店街の現状 -全国の商店街と一宮市の事例と通じて-	アーケードと人
17	山岸研		弥る「ワタル」 -中川運河始まりの地ににぎわいを-
18	山岸研	岡崎市中心市街地・康生地区の商店街 -八幡通りの二七市を対象として-	岡崎の東海道に宿場を
19	山岸研	愛知県のサウナの機能配置と動線分析	養鰻温泉
20	山岸研		屋根並みに集う -本を中心とした地域開放型小学校-
21	山岸研		マリーナベイマンス ～名古屋のランドマークマンション～
22	山岸研		アクアガーデンシティ
23	山岸研	高蔵寺ニュータウンの研究 -空地・空き家から見る高蔵寺ニュータウンの現状-	集い繋がる都市公園 -久屋大通公園整備計画-
24	山岸研		見つける居場所 -四日市市における図書館を中心とした複合施設-
25	中村研		多文化共生の住まい -豊田市保見団地の再生-
26	中村研		Messe Töölönlahti -モビリティの生み出す未来-
27	中村研		伝統とスポーツをつなぐ -豊橋市美術博物館の改善の提案-
28	中村研		音のオアシス -大垣公園の音楽複合施設-
29	中村研		回遊水景 -堀川の未来と水系に囲われた島状空間-
30	中村研		長島ボールパーク -人々のコミュニケーションを活性化させる野球場-
31	中村研		多様なアクティビティをつなぐ -桑名駅前広場の活性化-
32	中村研		高師光園図書
33	中村研		Bio-Village TAPIO -菌糸体建築：始原のリズムが人類の進化を導く-
34	中村研		BELMの未来 -生物多様性の旅-
35	中村研		緑と一体化した知識の泉 -黒龍江省図書館改築計画-
36	早川研		人と犬猫の共生
37	早川研		サーフィンツーリズムを生かした地域活性化 -オープンな建築-
38	早川研		-承景-
39	早川研		山隠荘
40	早川研	江戸時代の大名庭園に関する研究 -岡山後楽園と築山庭造伝の関係-	線をつくる ～伝統と文化をつなぐ点～
41	早川研	東信濃路・木曾路における中山道の宿場町の地理 解析研究	宙に架ける街道
42	早川研		ANGLE CHANGE ～まちと視線を触発する～
43	早川研		くぐる -産業遺産の活用-
44	早川研		アートと会所、つながる長者町 -新たな人の流れによる錦二丁目の再興と発展-
45	早川研	岐阜市柳ヶ瀬商店街のリノベーションと地域振興に よる持続可能な商店街再生の戦略と展望	集う 営む 暮らす ～柳ヶ瀬商店街再開発計画～
46	早川研		香りの重箱 -香りも共に考える建築-
47	早川研	音楽イベントと建築に関する研究	-「音楽との共生」のできるゲストハウス-

4. 今年度の課題・次年度の目標

- 1) 卒業研究、卒業設計のテーマ選定において、多様な地域の課題を考慮する。
- 2) 受講科目の指導を含めて地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。
- 3) 地域課題への取り組みを、教員だけでなく学生・院生を交えて活発化させる。
- 4) 地域との連携をさらに高め、「動く」の活動を充実化させる。
- 5) 春日井地域での活動経験をもとに、他地域での活動にも積極的に取り組む。

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 新・森の健康診断

氏名： 上野 薫

所属・職名： 応用生物学部 環境生物科学科・准教授

2023 年 12 月 2 日・3 日の 1 泊 2 日で第 9 回新・森の健康診断を実施した。今年のテーマも「恵那で野生生物と共存するために」とし、「恵那でイノシシやシカと共存するための方策」をグループワークにて作成・発表してもらった。森林に関わる課題解決型のプログラムを経験することで、人工林の抱える問題を理解するだけでなく、地域の課題解決のために必要な自らの資質への気づきを期待している。本年度は 3 年ぶりの恵那研修センターでの合宿形式での実施となった。参加学生は応用生物化学科 4 年生 1 名、環境生物科学科 3 年生 10 名、同学科 1 年生 1 名の計 12 名であった。同学科 2 年生 2 名も登録していたが、両名とも当日体調不良で欠席となった。スタッフは卒業生 7 名、教員 1 名（上野）、土岐川庄内川源流の森 委員会事務局 村上氏の 8 名であった。1 日目の座学の講師として、恵那市林政課の原田氏、恵那市猟友会会長の伊藤氏、恵那への移住者でもあるデザイン会社代表の伊集院氏に地域の現状を概説してもらった。2 日目の午前中の発表会には、恵那市三郷振興事務所の額瀨氏、地元の書家である永瀬氏にも来場いただき、コメントを頂いた。

コロナ禍で他人との直接的な関わり合いがあまり経験できていない学生が多かったせいか、合意形成、とくに男女間の意思疎通に苦労している班が多く、役割分担に偏りがあり大変そうな班もみられた。深夜まで発表資料の作成をしていた班もあった。今年は上野研の 4 年生を参加させなかったため、3 年生に班のリーダーを任せ、その代わりに卒業生各 1 名に班にオブザーバーとして入ってもらった。その結果、なんとか全班が発表を終えることができた。企画内容自体は、案を絞り込むまでに時間がかかり、内容の深掘りができなかった班もあったが、パワーポイントはどの班も大変美しく発表態度も素晴らしかった。会場での質疑応答や評価の後、学生全員から今回の感想を発表してもらった。短時間での合意形成の難しさや、愉しさを語るだけでなく、地域の課題解決案を作成する際に必要なのは、十分な情報収集・解析、柔軟な発想であることが理解されたようであった。今回は、短時間ではあったが初日に森林観察の時間を設けたので、提案のイメージがつきやすかったようであった。学生から楽しかったという言葉が聞け、安心した。なお参加者には、事後レポートを提出してもらった。本年度の地域創成メディエーターには、この中から 3 名がチャレンジする。

<当日のスケジュール詳細>

【1 日目】

- 1000 開会式（第 3 研修室）
- 1010～1030 座学 1 恵那市における森林・林業・獣害の状況 恵那市林政課 原田氏
- 1030～1050 座学 2 恵那市における鳥獣害駆除の現状 恵那市猟友会会長 伊藤氏
- 1100～1200 フィールドワーク（恵那キャンパス内の森林観察）
- 昼食（各自持参@食堂）
- 1300～1330 課題・発表会の説明、追加情報の提供（@第 3 研修室）
- 1330～1400 企業の森林保全に関わる活動紹介：Cocoro 代表 伊集院氏
- 1400～1500 グループワーク 1
- 1530～ 中間報告
- 1600～1700 グループワーク 2
- 夕食@食堂（1800～1845）（夕食までに部屋に入る）
- 1900～2100 グループワーク 3（随時風呂に入る）
- 2100～2200 懇親会@食堂
- 2300 就寝

2 活動報告

【2日目】

0730 朝食@食堂（食後，チェックアウト；荷物すべては第3研修室）

0830～0950（最終作業）

1000～1100 発表会@第3研修室（プレゼンテーション；10分×4班）

1105～1140 意見交換会

1145～1210 閉会式（表彰式、講評、総括、感想）、集合写真撮影

昼食（各自持参@食堂）

1300～1530 恵那キャンパス内森林散策（レフュージア植物園，トリムコース）

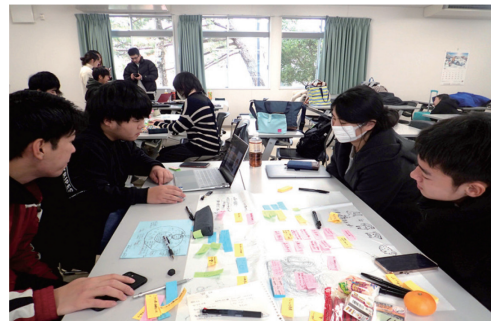
1530 全活動終了、現地解散



発表後の集合写真



グループワークの様子（A班）



グループワークの様子（B班）



初日の森林観察



発表後の表彰式（第1位のA班）

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： きみは未来の建築士

氏名： 松山 明

所属・職名： 工学部建築学科 准教授

愛知建築士会春日井支部が毎年 10 月に開催される春日井まつり中央公園会場キッズコーナーにブース出展している「きみは未来の建築士」に学生ボランティアスタッフとして参加する活動です。



主に幼稚園児・小学生を対象として、段ボール、発泡スチロールを用いて建築模型を作成し、水性ペンで屋根や外壁を塗ったり、窓や玄関ドアなどを描いてもらいます。

出来上がった作品は都市をイメージした台上に設置され、春日井まつりの開催中展示され、終了後に希望者には持ち帰っていただきます。

会場ブース設営・撤収、見本となる建築模型作成、子どもの作品作成助言・手伝い、作業机上の準備・片付け・清掃、通り過ぎる子どもに参加呼びかけなどが学生スタッフの役割です。

父母の付き添いの有無や子どもの年齢に応じて作成方法の説明を工夫するなど、短い 2 日間の中でしたが、参加学生も確実に成長しました。



生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 高蔵寺ニュータウンの定点観測

氏名： 磯部友彦

所属・職名： 工学部都市建設工学科・教授

1. プロジェクトの概要

今後大きく変化していくニュータウンの状況を経年的に記録し、まちづくりの基礎資料としてまとめることを目的とする。具体的には、風景の変化、交通量の変化、賑わいの変化などについて記録する活動を、藤山台地区の旧小学校周辺、中央台の商業施設周辺、高蔵寺駅周辺を対象に実施する。学生にとっては、ニュータウン内に設置されている施設などの多様性を観察し、さらにそれらの変化を感じ取ることを学ぶ。

2. 今年度の実施状況

今年度は都市建設工学科2年生の2名が参加した。活動日は2023年11月23日と2024年1月4日の2日である。

活動内容を、以下の通り紹介する。

【11月23日】 高蔵寺駅南口駅前広場の自転車駐車を移転させた跡地でのイベント「KOZOJI PLAT」と北口駅前広場でのイベント「マンスリープラット」を視察した。ともに高蔵寺まちづくり株式会社が運営を行っており、同社の担当者から話を聞いた。

【1月4日】 ニュータウンの中央台から高森台にかけて視察した。サンマルシェ、東部市民センター、高森台に開店したホームセンターなどを視察し、さらに、高森台テラスの宅地造成現場をみた。高森台テラスとは、かつて中層の集合住宅団地であったところを低層の戸建て住宅地99区画に変更するものである。現在、大手ハウスメーカー9社による分譲中である。

3. 成果

活動内容を撮影した写真は、Google Classroomを活用して、昨年までの写真とともに参加メンバーに閲覧可能としている。これにより、過去の状況との比較ができる。

今年度は、春日井市が新たに高蔵寺駅前に整備した空間の活用状況を確認できたことと、ニュータウン再整備の進捗状況を確認できたことが成果として特筆できる。



高蔵寺駅南口駅前広場イベント
参加学生と高蔵寺まちづくり株式
会社職員(中部大OB)



東部市民センター
内のジオラマ前



高森台テラスの現状

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 健康救急フェスティバル

氏名： 矢野 智奈美・宮田 茂

所属・職名： 応用生物学部 食品栄養科学科
助手・准教授

【活動内容】

栄養学や食文化、食品衛生等については、関連講義で学習したが、春日井市を含む地域住民に対して実際に啓発活動を行ううえで不足する専門知識や手技を主体的に学ばせ、それらを有機的に関連付けることで、相手の理解度に応じた説得力のあるコミュニケーション能力の獲得を目指した。また、地域住民一人一人が生涯を通じた健全な食生活の実現と健康の確保等が図れるように、自らの食や身体について考える習慣やそれらに関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けさせるための啓発を行うことができる人材の育成を目指した。そのために通常の正課教育では実施できない以下の活動を行った。

(1) オープンキャンパス (8月4日～6日 中部大学)

オープンキャンパスにて、食品サンプルを展示し、主に高校生に対してそれらの食品に含まれる栄養成分や機能成分について解説した。また、食育に関する意識の向上をはかるため、それらの食品サンプルから普段の食事や理想とする食事をお盆にとってもらい、食育 SAT システムを用いて食事バランスについて栄養指導を行った。健康救急フェスティバルの試行としての位置づけで初めての活動だったが、参加学生と対象者の年齢が近いこともあり、率直な意見をもらうことができ、改善点を見出すことができた。



(2) 健康救急フェスティバル (9月2日～3日 春日井市役所)

健康救急フェスティバルでは、下記に示した2つの活動を行った。

①食でつながろう！笑顔と健康！！

地域住民に展示した食品サンプルから普段の食事や理想とする食事のメニューを選んでもらい、食育 SAT システムを用いて食事バランスについて栄養指導を行った。主な対象者は小学生とその両親、祖父母と幅広い年齢層で、参加者が選んだ食品に含まれる栄養成分や機能性成分について、相手にあわせて適時解説を加えることにより地域住民の興味を惹起した。(地域住民の参加者数 141 人)

②世界を拡大する顕微鏡体験!!

純粋培養した細菌及びヨーグルト内の細菌を地域住民に顕微鏡を用いて観察させ、所謂「善玉菌」と「悪玉菌」の違いについて解説した。健康づくりに役立ててもらうために、それぞれの細菌が引き起こす食中毒の症状や予防の注意点等を説明し、乳酸菌の性質や一般的なプロバイオティクスとプレバイオティクスについて解説した。また、ヒトの正常組織標本を観察させ、組織の構造と機能、各臓器の大切さや障害された場合に起こる疾病に関して解説した。また、夏だったこともあり、脱水症の症状と好発者の特徴を知る機会とした。(地域住民の参加者数 160 人)



【成果】

- (1) 学部学生が主体となり活動を行うことで、学習意欲の向上に寄与した。また、大学院生が学部生の指導を行うことで、大学院生の資質向上にも効果があった。幅広い年齢層の春日井市民にわかりやすく説明することを通じ、知識の向上の必要性を痛感させ、コミュニケーション能力の養成につながった。
- (2) 栄養指導に関しては食育 SAT システムのような小道具の有効性や事前準備の必要性を考えさせることができた。目に見え直接手に取ることができる食品サンプルを用いた栄養指導が、老若男女に効果的であることを実感させることができた。
- (3) 多人数に対して個別に対応する場合のスループットの向上に欠かせない技術を習得させた。

【参加学生】

学部生 7 名、大学院生 10 名

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 春日井市の産地直売所「ぐうぴいひろば」(JA 尾張中央と連携)での活動

氏名： 山中由実、小川宣子 所属・ 応用生物学部 食品栄養科学科
職名： 助教、客員教授

【参加学生 4 名】

品種が異なる 4 種類のお米（ミルキークイーン、コシヒカリ、ゆめぴりか、あきたこまち）の特性を、外観、吸水、膨らみ、加熱後の表面と内部の硬さ、粘り、組織構造観察から分析し、その結果と最適な料理の提案などの内容をちらしにまとめ、ファーマーズマーケットぐうぴいひろばで、お客様にちらしを用いて直接説明した。これにより消費者は料理に適したお米の品種について認知が高まり、学生にとっては消費者に直接、自分たちが分析・考察した結果を紹介する機会となった。合わせてお米の生産者からも生産時のこだわりや苦勞の話などを聞き、生産の大変さを学生は知ることができた。

お客様へのお米の紹介時には、活動内容についての意見も伺った。

7 月 12 日：JA 尾張中央から JA の取り組みや現場での課題について話を聞き、産地直売所(ぐうぴいひろば)の見学をした。

8 月 1 日：お米の特性実験のための測定機器の使い方、実験方法の確認をした。

8 月 7 日-10 月 10 日：お米の特性実験をした。

8 月 21 日：お米の生産者へのインタビューをした。

10 月 10 日-11 月 13 日：ちらし・アンケートの作成をした。

11 月 18・19 日：産地直売所「ぐうぴいひろば」でちらしを用いてお米の特性と料理について、直接、お客様に紹介し、アンケートを実施した。



JA 尾張中央から話を聞く



お米の特性実験



生産者へのインタビュー



ぐうぴいひろばでの活動

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 春日井まつり 水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト

氏名： 武田誠／尾花まき子 所属・職名： 工学部都市建設工学科・教授／准教授

近年、地球温暖化に伴う気候変動による大規模な豪雨・洪水災害の発生が懸念されることから、流域治水の重要性が指摘され、その活動が進められている。流域治水は流域で浸水を許容して、特に下流域における大規模な浸水を防ぐことや、浸水災害に対して多くの組織が協力して対策を講じ、復興・復旧に対して取り組むことを目指している。

春日井市は一級河川の庄内川の左岸流域に位置し、仮に破堤が生じれば甚大な水害となる危険性を有する。また、2011年9月には春日井市で豪雨による内水氾濫が生じ、地蔵川流域や高蔵寺駅などでは浸水被害が発生している。河川堤防などの治水対策はある豪雨や洪水を基準としている。しかし、その基準以上の雨や洪水が生じれば、浸水被害が生じることから、人的被害を無くすための避難対策は重要である。しかし、避難情報が発令されたときに、多くの住民が避難しない状況があり、住民の危機意識の涵養や地域防災力の向上の必要性が指摘されている。

本プロジェクトでは、春日井祭りに参加し、都市浸水模型を活用して、参加住民に対して水害の危険性や浸水発生のメカニズム、対策などを紹介し、危険な場合には避難することが重要であることを説明した。この取り組みに学生が参加し、住民に対して水害に関わる事象を説明し、質疑応答に対応することで、自らのコミュニケーション力、プレゼンテーション能力、防災力を高めている。

10月17日（10月18日） 水害が多発している現状と人の防災意識に関わる課題、防災意識向上の必要性を教授し、プロジェクトの意義および内容に関わる打ち合わせを行った。動くに関わる活動として、春日井まつりにおいて、参加住民に都市浸水のメカニズムと防災対策を説明し、住民の防災意識向上を目指す。

10月21、22日 「春日井まつり」にて都市浸水模型を活用した説明を実施した。参加住民の中には地域の事情に詳しい方もいて、過去の水害のときの様子などの紹介があった。また、小学校の生徒は、学校の授業で学んだ内容もあったらしく、興味を持って参加していた。さらに、参加した成人の方からは、「重要な取り組みである」との意見を受けた。

1月16日 活動の振り返りを行い、次年度に向けての課題を抽出した。



春日井祭りにおけるブースの様子

生活・住環境を考えるまちづくり WG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 学生主体の標準化教室

氏名： 伊藤佳世

所属・職名： 経営情報学部経営総合学科 准教授

学生主体の標準化教育では、環境マネジメント及び関連分野の国際標準化に焦点をあて、標準を使う・作る・教えるを実践している。2023 年度は、サーキュラーエコノミー(循環経済)をテーマに 1 年間を通じてプロジェクトを学生主体で実施した。

1. サーキュラーエコノミーの教材「まわそう」の開発

2 年生を中心に標準化教材開発を行った。開発中のサーキュラーエコノミーの国際規格を入手し、翻訳作業、規格の要約、設問の作成と改訂、デザインの作成と改訂を繰り返し、テストプレイを実施しながら内容の精度を高めた。8 月には標準化の専門家である経済産業省、日本規格協会、循環経済協会、産業環境管理協会、日本消費生活アドバイザーコンサルタント協会と連携した。2 時間ずつ教材を実演しながらコメントを受け、教材に反映した。

2. 標準化教室

以下のイベントでこどもからお年寄り、産業界から一般市民、専門家までを対象とした標準化教室を開催した。標準化教室の合計来場者数は 18,603 となった。メディア取材を多数受けた。標準化教室は開発に携わった学生を中心に、イベント毎に担当希望を募った。1 年生の参加も多数あり、ファシリテータ育成を行いながら実施した。

イベント名	開催日時	開催場所	主催者	来場者数
春日井市わいわいカーニバル	5 月 14 日	春日井落合公園	春日井市	807
中大連携	8 月 25-28 9 月 4 日 6 日 11 日 13 日 15 日	中部大学・春日丘中学	中部大学・春日丘中学	23
専門間連携	8 月 30 日 31 日	オンライン	中部大学 ESD エコマネーチーム	12
日本工学教育協会	9 月 6 日	広島大学	日本工学教育協会	30
中部大学フェア	9 月 14 日	中部大学	中部大学	82
環境デーなごや	9 月 16 日	久屋大通公園	名古屋市	1,870
青少年育成アドバイザーフェスティバル	10 月 14 日	鶴舞公園	愛知県青少年育成アドバイザー	300
春日井まつり	10 月 20 日 21 日	春日井中央公園	春日井市	2,104
環境マネジメント学生全国大会	11 月 4 日	オンライン	中部大学 ESD エコマネーチーム	7
消費生活フェア	11 月 18 日	オアシス 21	名古屋市	945
市邨高校	11 月	市邨高校	中部大学	30
エコプロ 2023	12 月 6-8	東京ビックサイト	日本経済新聞 SUMPO	11,726
標準化教室	12 月 13 日 20 日	中部大学	中部大学 名古屋市 NACS	95
SDGs リレーシンポジウム	12 月 16 日	愛知学院大学	愛知学長懇話会	30
東邦ガス	12 月 22 日	中部大学	東邦ガス 中部大学	2
合計				18,063

2 活動報告



専門化連携



消費生活フェア



中大連携



エコプロ



春日井まつり



東邦ガス

WEB 上での広報や SNS での発信も積極的に実施した結果、「まわそう ゲーム」で検索すると 2 億 9900 万件中 1 位と 6 位で表示される (2024 年 1 月現在)。2024 年 2 月にはサーキュラーエコノミーの国際規格発行によりさらに注目が高まることが想定される。今年の教材のさらなる周知を行うとともに 12 月末に学生たちが話しあいを行い 2024 年度の教材テーマを決定したことから、今後も学生と一緒に SDGs の課題を解決するためのルール作りである標準化教育を通じて、人材育成に取り組んでいく。

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 星空ネットワーク

氏名： 大嶋晃敏 所属・職名： 天文台・副台長
理工学部 数理・物理サイエンス学科教授

中部大学天文台は、2023 年 5 月の新型コロナ規制緩和を受けて、コロナ以前の活動を再開しました。コロナ禍末期頃から、観望会等のイベントは徐々に再開していましたが、2023 年度は学内向け・学外向けを問わず、思いきって従来通りの形でイベントを行うことにしました。また、学外からの依頼も積極的に受けいれました。

1. 学内行事への参加

春・夏・秋のオープンキャンパス、大学フェア、大学祭において、天文台天体観測所の施設公開を行いました。プラネタリウムや星空解説に加え、日中ならではの太陽観測を交えた施設公開を行いました。天文学生サポーターが入れ替わり立ち代わりイベント運営を行って、学外者が参加できるイベントだけで 400 名を超えました。



大学祭で Mitaka を用いて宇宙の解説をする天文台学生サポーター



悪天候のため工作教室に切り替わった観望会で手作り望遠鏡を作る子供たち

2. 出張イベント

昨年度末から徐々に、地域自治体・団体からの出前観望会の依頼が増え始めていましたが、2023 年度はなんと前年の約 3 倍の数の出張観望を行うことになりました。天文台学生サポーターと天文台客員教員が総出で、望遠鏡などの機材を会場に運び、多くの子供たちに天体観測の楽しさを知ってもらうことができました。



中部大の教育技術部の協力で復活した望遠鏡で月を観る少年



女の子に望遠鏡の覗き方を説明する天文台学生サポーター

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 岐阜県東濃地区の食文化の伝承

氏名： 山中由実、山下紗也加、小川宣子 所属・ 応用生物学部食品栄養科学科
職名： 助教、助手、客員教授

【参加学生 5 名】

恵那市の幼稚園にて、幼児を対象に恵那市の伝統料理を紹介する食育活動を行った。この活動により、幼児は伝統料理を通して自分たちの住む地域を知るきっかけとなり、地域に興味をもつことで将来は地域活性化に繋がることが期待できる。学生においては、恵那市の伝統料理や地域の特徴について興味を持って知ることができた。また、学生らで食育劇の内容を考え、媒体の作成をする中で、幼児に対する話し方や媒体作成の特徴を学ぶことができた。

8 月 16 日-21 日：google meet にて、活動内容と趣旨を説明した。併せて恵那市の特産物や伝統料理について知っているものの確認やどのような食材・料理か確認した。

8 月 21 日, 9 月 12 日：食育のテーマとなる料理（五平餅）について打合せをした。五平餅に関する情報を調べた。

9 月, 12 月：台本・媒体作成、食育劇を練習した。

12 月 8 日：恵那市の幼稚園にて食育劇を実施した。



恵那市の幼稚園で食育劇を実施した様子

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： こまきこども未来館プロジェクションマッピング制作@MIR

氏名： 柳谷啓子・柊和佑 所属・職名： 人文学部コミュニケーション学科
教授・准教授

活動内容

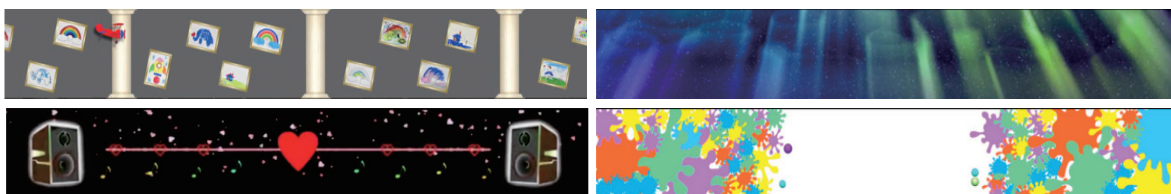
- 小牧市連携事業として、小牧市中央児童館である「こまきこども未来館」4階未就学児エリアの 20m×3m の大型壁面と床・天井の演出，年 4 回コンテンツを納品している。
- 四季の風物詩，ひらがなの練習，あいさつ表現等の映像作品を制作・投射し，入場無料のここに来れば，どんな家庭環境の子どもも上質な情操教育の場に身を置くことができる環境を提供することが目的である（SDGs 4）。これまで 30 作品以上を制作。
- 約 20 人の学生らは，企画・イラストデザイン・モーショントーク・音楽の部門に分かれてそれぞれの部門の中でコミュニケーションを取り，協働して毎回 2，3 の作品を制作し，納品前には現場で試写を行って，動体のサイズや速度，色などに修正を重ねる。
- 年間を通して原則的に週 1 回の「学生会」で進捗状況を互いにチェックし合い（2514 講義室），議論を重ねて，チーム全体としての作品に仕上げていく。スケジュール管理なども自分たちで行っている。
- 年間を通して，原則的に隔週で教員（外部講師も含めて 3 名）も交えての報告・アドバイスをを行う「全体会」を開いている（25 号館会議室）。
- 学生らは，この他にも自主的に勉強会を開いて，上級生が下級生に Adobe Illustrator，After Effects や Blender などの操作方法を伝授したり，外部講師を招いて新たな手法などの教授を受けたりしている。

活動計画

	夏コンテンツ	秋コンテンツ	冬コンテンツ	春コンテンツ
企画・絵コンテ	～2 月	～5 月	～8 月	～11 月
イラストデザイン	3 月	6 月	9 月	12 月
モーショントーク	4 月	7 月	10 月	1 月
試写	5 月 15 日	8 月 21 日	11 月 21 日	1 月 16 日
納品	5 月 23 日	8 月 24 日	11 月 24 日	2 月 29 日
上映	6 月～8 月	9 月～11 月	12 月～2 月	3 月～6 月

活動成果

【学生会】4 月 6・11・18・25・27 日，5 月 2・9・23・30 日，6 月 13・20・27 日，7 月 4・11・18・25 日，8 月 8・22・29 日，9 月 26 日，12 月 5・12・19 日，1 月 9 日，（以降，毎週火曜日開催予定），【全体会】4 月 13 日，5 月 11・18 日，6 月 8・15・29 日，7 月 13・27 日，8 月 10・17 日，9 月 7・21 日，10 月 12・26 日，11 月 9 日，12 月 7 日，1 月 18 日，（以降，隔週木曜日開催予定），【現場での試写】5 月 15 日，7 月 19 日，8 月 21 日，11 月 21 日，1 月 16 日



Museum Part 2(左上), Aurora (右上), Rhythm (左下), Ink (右下) の一コマ

【その他の活動】

- 「こまき産業フェスタ 2023」: 5月27・28日にパークアリーナ小牧に於いて中部大学ブース運営, 塗り絵募集・作品上映, SDGs 絵本展示, 未来館のVR体験等実施
- 高大連携活動 1: 7月13日に中部大学第一高校の教員(4人)・生徒(5人)も交えて活動の打ち合わせを実施。以降, 高校生制作による作品も混ぜて上映
- 高大連携活動 2: ESD 資質能力である「表現力」を育む, 第一高校主催コンテスト「**ESD CREATIVE AWARD**」の Music 部門に大学生の無音作品(「Ink」)を提供し, 高校生に音楽を制作してもらう(1月20日審査結果発表)。優秀作品は未来館で上映予定
- 「空間体感! 動き出す浮世絵展」: 8月10日に制作のためのアイディアを得るために, 株式会社一旗制作による展示を有志で見学(金山南ビル美術館棟)
- 中部大学祭: 11月3・4・5日に2514講義室に於いて作品上映とVR体験会を実施



「Museum」用ぬり絵大会



全体会(対面+zoom)



下級生のための勉強会



こまき産業フェスタ 2023



こまき産業フェスタ 2023



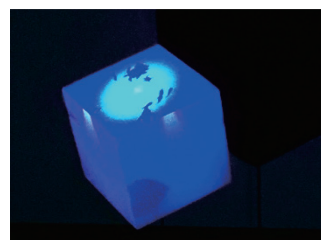
こまきこども未来館 4F



外部講師による勉強会



動き出す浮世絵展



大学祭でのキューブ投影

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： アスコンについて「考動、未来につなぐ・残す」

氏名： 余川 弘至

所属・職名： 工学部都市建設工学科 准教授

テーマ：「サステイナブルなアスファルト」について

目的

現場実習による学びと、グループワークによる課題解決能力の向上を目的とする。

内容

○現場実習および見学を通じて、道路工学の現状と課題をより深く学ぶこと

・「目で見て、耳で聞いて、手で触り、匂いを嗅ぐ」を体感する

○アスコン施設内にて

- ・産業廃棄物であるアスファルトの受入を見学する
- ・産業廃棄物である再生資源としての役割、及び再生資源としての再利用の確認する
- ・再生アスファルト、新アスファルトの製造見学、及び資材（材料）の確認する
- ・アスファルトの実習体験する

○実習後のグループディスカッション

試験配合したアスファルトに対して、密度試験やマーシャル試験などを実施し、その成果をまとめるとともに、サステイナブルなアスファルトについて検討する。

【事前勉強会】

現場実習に先立って、アスファルトについて学ぶ機会を設けた。実施日時および参加者数は以下の通り。

10月17日(火) 都市建設工学科3年生 4名

【現場実習】

名古屋中央アスコン(愛知県名古屋市)を訪問し、現地実習・研修を実施した。アスファルト合材の製造過程やリサイクル状況を見学するとともに、アスファルト合材の供試体作成やマーシャル安定度試験を実施した。実施日時および参加者数は以下の通り。実施時の写真を写真1～6に示す。

12月2日(土) 都市建設工学科3年生 3名

【成果発表会】

事前勉強会、現場実習を受けて、廃タイルのリサイクル材を混合したアスファルトの再利用の可能性について最終発表会を実施した。実施日時及び参加者数は以下の通り。

1月19日(金) 都市建設工学科3年生 3名

2 活動報告



写真1 事前勉強会の様子



写真2 現場実習の様子(配合・練り混ぜ)



写真3 供試体作成の様子



写真4 供試体密度の計測

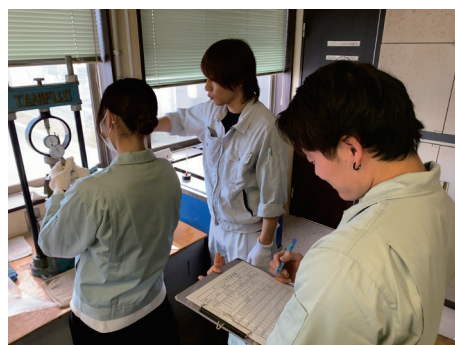


写真5 マーシャル試験の実施

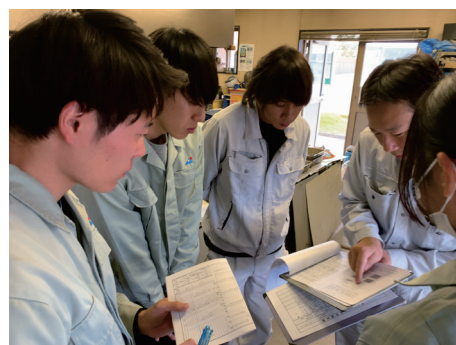


写真6 試験結果の確認



写真7 アスファルト工場の見学

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： ボランティア演奏隊

氏名： 伊藤 正晃

所属・職名： 国際関係学部国際学科・講師

「ボランティア演奏隊」は中部大学生だけで構成されるのではなく、筆者が主宰のオカリナグループ「Δ Ocarina (デルタ・オカリナ)」がおこなっているボランティア活動に、学生が参加する形をとっている。オカリナグループは、オカリナをメインに、伴奏としてピアノ、ギター、アルパ、打楽器などを用いている。参加する学生には、演奏できる楽器で参加をしてもらうことになるが、吹奏楽の経験がある者は、その楽器を含めた編曲を手掛けている。以前までの参加学生は楽器が苦手ということもあり、打楽器に回ってもらっていた。

新型コロナ感染拡大の影響を受け、2022 年までは老人ホームや幼稚園などからのボランティア演奏の依頼は激減した。依頼があったとしても、人数制限をかけられたり、施設で罹患者が出て中止になったり、活動の機会が遠のいていた。

2023 年度に入り、規制が緩和され、それを待っていたかのように、施設からの依頼が飛び込んできた。

上記のように、本年度は複数回のボランティア演奏ができるようになり、地域創成メディアーター資格取得のための「動く」が開催できた。本年度は、国際学科の3年生2名が参加した。ひとは吹奏楽経験者でホルンを担当していた。当該学生はオカリナを希望したため、オカリナ演奏での参加となった。もうひとは、エレクトーン経験者だったため、ピアノ伴奏で参加してもらった。

本年度の活動は以下のとおりである。（＊は学生が参加したもの）

2023 年 6 月 18 日：おうち食堂

2023 年 8 月 18 日：子育てサロン（石尾公園）＊

2023 年 9 月 16 日：押沢台敬老会 ＊

2023 年 10 月 24 日：ニチイケアセンター高蔵寺

2023 年 11 月 3 日：藤山台三代ふれあいコンサート

2023 年 11 月 23 日：高蔵寺中日文化センター芸能祭



子育てサロン（石尾公園）本番



子育てサロンの練習風景

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： おもしろ科学実験ネットワーク

氏名： 大嶋晃敏

所属・職名： 理工学部数理・物理サイエンス学科・教授

おかげさまで中部大学・科学物理実験会は、例年、地域自治体から声をかけてもらっており、コロナ禍で停滞していた対外イベントも徐々にコロナ以前の状態に戻りつつあります。故・工学部岡島茂樹先生が立ち上げられ、すでに 10 年を経過した科学物理実験会ですが、初心を忘れることなく工夫を凝らしたおもしろ科学実験を日々開発しています。

1. 地域イベントへの参加

地元春日井市男女共同参画課からは、毎年、数件のイベント参加の依頼をいただき、2023 年度も落合公園で開催される「わいわいカーニバル」に参加してきました。あいにくの雨天でしたが、シャボン玉を使った実験を行ったところ大変盛況でした。



春日井市・男女共同参画課との共催で行われたおもしろ科学実験（落合公園にて）



割れないシャボン玉を作って遊ぶ子供たちと、科学物理実験会の部員たち

夏休みには、春日井市・男女共同参画課主催のレディヤン春日井で行われた「春日井市サイエンスフェスティバル」と、鶴舞の名古屋市公会堂で開催されたアマチュア無線のイベント「東海ハムの祭典 2023」に参加してきました。



力を加えると状態が液体から固体にかわる「ダイラタンシー」現象を披露した



電子回路のはんだ付けを指導する、科学物理実験会の部員たち

生活・住環境を考えるまちづくりWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： メディア表現を活用したサボテン工芸デザインプロジェクト

氏名： 河村陽介

所属・職名： 人文学部コミュニケーション学科 講師

1. 活動内容

春日井市ではサボテンを特産品として推進しており、特に食品に活用されているが、この取り組みではサボテンを工芸品やデザインに活用できないかを模索し、地域のリサーチ、制作を通じて地域資源の再考と工芸、デザインの制作を行う。この制作物の提案により地域資源の活用として新しい価値観を産み出すことを目的とする。

2. 活動成果

素材のリサーチを行い、アイデア出し、試作のプロセスを経てサボテンを素材としたものや、サボテンをモチーフにした作品の制作を行った。サボテンを使用した和紙で制作した照明器具やうちわなどや、人の動きに反応して動作するインタラクティブ作品など、伝統的な素材の使用方法だけでなく、3D プリンターや画像解析のプログラミングなどの先端表現などを駆使して作品の制作を行った。制作物はオープンキャンパスや大学祭などで展示を行い、高校生や地元の来場者の方に見ていただきフィードバックを得ることができた。

4/4 サボテンのリサーチ【参加学生 3 名＋教員 1 名】学生とサボテン生産を行なっている後藤サボテンの見学を行い、サボテンの種類や特性などについてリサーチを行った。また後藤サボテンから素材となるウチワサボテンとアガベを不定期に提供いただいた。

4/18 サボテンの試食と和紙制作の実験【参加学生 10 名＋教員 1 名】食用のウチワサボテンの試食と粉砕したサボテンを使った和紙制作の実験を行った。

4/29-30 試作の展示【参加学生 2 名＋教員 1 名＋外部参加者 4 名】京都で開催された MakerFaireKyoto2023 にて試作で制作したサボテン太鼓の展示を行った。

5/23 アイデア出し【参加学生 10 名＋教員 1 名】サボテンを使用した作品アイデア出しを行った。

6～7 月 制作 アイデアをもとに制作を行った。

6/4 試作の展示【参加学生 2 名＋教員 1 名】オープンキャンパスにて試作で制作したサボテン太鼓の展示を行った。

8/4～6 オープンキャンパスでの展示【参加学生 10 名＋教員 1 名】制作した作品を展示し来場者にフィードバックを得た。

9～11 月 作品のブラッシュアップ

9/9 サボテン和紙の制作【教員 1 名＋外部参加者 2 名】豊田市小原和紙のふるさとにて職員に指導を受けながらサボテン和紙制作の実験を行った。

9/14 中部大学フェアでの展示【参加学生 3 名＋教員 1 名】制作した作品を展示し来場者にフィードバックを得た。

10/6 サボテン和紙の制作【参加学生 2 名＋教員 1 名】豊田市小原和紙のふるさとにて職員に指導を受けながらサボテン和紙制作の実験を行った。

11/3～4 大学祭での展示【参加学生 10 名＋教員 1 名】制作した作品を展示し来場者にフィードバックを得た。



サボテン和紙制作の実験 (4/18)



サボテン和紙制作の実験 (5/23)



サボテン和紙の作例 (11/3)

3. 今年度の課題・次年度の目標

本活動は初年度であるため、リサーチによる地域の情報収集と材料の加工などの実験が主な活動内容となった。そのため課題として地域の自治体や団体との連携や成果物の地域展開などの活動の幅を拡げる必要がある。次年度はより地域に密着した活動にシフトすることを目標とする。

③ 世代間交流プログラム WG

1. 活動組織

委員長 堀文子
副委員長 戸田香
委員 野田明子 伊藤守弘 宮下浩二 横手直美 尾方寿好 水上健一
北辻耕司 矢澤浩成 谷利美希

2. 活動計画

通年 KCG サークルでの健康教室指導 (2 回/月)
通年 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み(2 回/月)
通年 健康寿命延伸のための快眠・運動教室、睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査
在宅訪問・遠隔相談、高蔵寺集会場における地域交流 (2 回/月)
通年 C A A C 講義の補助 (健康増進実習など)
通年 アクティブシニアとの交流活動 (5 月～)
6～9 月 多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
7 月 石尾台町内会夏祭りサポータ
8 月 福祉用具体験セミナー
9 月 体力測定会
12 月 障がい者スポーツのすすめ

3. 活動成果

【活動実績】

4 月～ (2 回/月) KCG サークルでの健康教室指導
4 月 26 日～ 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み
5 月 12 日～ アクティブシニアとの交流活動
4 月～ C A A C 講義の補助 (健康増進実習など)
4 月 4 日～(48 回/年)地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み
4 月～ (2 回/月) 健康寿命延伸のための快眠・運動教室、高血圧・循環器病予防教室
睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査、在宅訪問・遠隔相談
6 月 22 日・9 月 7 日 多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
7 月 29 日～31 日 石尾台町内会夏祭りサポータ
8 月 7 日 福祉用具体験セミナー
9 月 20 日 体力測定会
12 月 10 日 障がい者スポーツのすすめ「障害者スポーツ体験」

今年度は、コロナ感染症が 5 類に変更され、対面による活動が計画され、実施できた。
地域の高齢者の期待も高く、学生たちの若い力が求められ、それにこたえて活動する

学生たちと地域の方々との相互理解により、世代間のギャップの縮小を実感している。
活動への参加者も増加傾向にあり、高齢者と学生の交流は充実してきた印象である。

活動の内容や成果については、活動別の報告書参考



4. 今年度の課題・次年度の目標

【今年度の課題】

今年度は、地域創成メディエーターの資格取得が少ない現状であった。
資格取得要件としての必修科目や選択科目について、履修オリエンテーションでの周知努力が必要である。
学科や学年の枠を超えた交流や大学生と地域高齢者という世代間での交流から、お互いの特徴などを知り、理解につながった点は大変有意義であった。

【次年度の目標】

年に1回の活動から通年の活動など、その形式は異なるが活動の登録数は充実しているため、次年度も踏襲したい。学生の参加者については、地域創成メディエーター資格取得者の増加を意識して、学年や学科を超えた参加募集を展開する。

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： ママもベビーも Happy になれる

ベビーとママのエクササイズ&子育てミニレッスン♪

氏名： 横手直美

所属・職名： 生命健康科学部保健看護学科 准教授

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020 年度以降オンラインで開催していたが、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、3 年ぶりに対面開催とした。地域連携センター主催で 2 回シリーズにて開催し、広報活動では春日井市子ども政策課のご協力を得た。なお、感染予防対策として、スタッフは事前の健康管理、当日のマスク着用・手指消毒を徹底した。参加者には、母親へのマスク着用依頼、入室時の手指消毒を行い、開催後の発熱等体調不良の申し出はなかった。

保健看護学科（以下 LK）、幼児教育学科（以下 PY）、スポーツ保健医療学科の救急救命コース（以下 LE）の学生、計 15 名がアシスタントとして運営に参加し活躍した。LK 学生はとくに母子の体調や乳児の成長具合の確認、PY 学生は子育てミニレッスン①での講師の補助、LE 学生は子育てミニレッスン②の実技指導の補助を行った。

実施後の学生と教員の振り返りや Web アンケート結果から、LK 学生は各学科の専門性を活かした子育て支援を経験することができ、同じ月齢でも乳児の成長に個人差があることや母親の不安や悩みへ寄り添うことの重要性を実感することができていた。PY 学生は、保育観以外の視点で乳幼児を捉え直す視点や乳児の母親に対する気遣いの大切さに気づくことができていた。LE 学生は、救命活動以前に普段からのコミュニケーションスキルとして乳児や母親と接するときの笑顔、話し方、語尾などが参考になったと述べていた。

参加した母親の実施後の Web アンケートでは、「家にこもりきりじゃなくて、外に出るきっかけになってリフレッシュできた」、「学生さんに子を託してトイレに行ったり、ミニレッションを受けることができてとても助かった」、「普段は子どもが泣くと集中できなくなるが、面倒を見ていただけるので思う存分取り組めた」等の感想が寄せられ、運営に対する満足度は“満足”と“非常に満足”を合わせると、満足度は 2 回とも 100%だった。

（本年度の活動の様子については以下のホームページをご覧ください）

https://www3.chubu.ac.jp/faculty/yokote_naomi/kosodate_seminar/2023/

【第 1 回】 2023 年 6 月 22 日（木）10 時 30 分～12 時 00 分

内 容：ベビーマッサージとママのエクササイズ

保健看護学科 准教授 横手直美（助産師）

子育てミニレッスン①「赤ちゃんの発育発達とおもちゃの選び方」

幼児教育学科 講師 千田隆弘

参加者：乳児とその母親11組、保健看護学科学生3名、幼児教育学科学生8名

場 所：中部大学 51 号館 4 階 514A（母性・小児看護実習室）

【第 2 回】 2023 年 9 月 7 日（木）10 時 30 分～12 時 00 分

内 容：ベビーマッサージとママのエクササイズ

保健看護学科 准教授 横手直美（助産師）

子育てミニレッスン②「赤ちゃんのもしものときの備え」

スポーツ保健医療学科 講師 北辻耕司（救急救命士）、

助手 伊藤基樹（救急救命士）

参加者：乳児とその母親12組

スポーツ保健医療学科 救急救命コース学生4名、幼児教育学科学生1名

場 所：中部大学51号館4階514A（母性・小児看護実習室）



写真1：集合写真



写真2：ママのストレッチ



写真3：月齢順に並んでベビーマッサージ



写真4：ベビーマッサージ中の乳児



写真5：子育てミニレッスン①



写真6：子育てミニレッスン②

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 障がい者スポーツのすすめ

氏名： 伊藤守弘 所属・職名： 生命健康科学部スポーツ保健医療学科・教授

2023 年 12 月 10 日（日）に障害者スポーツの体験－ふれあい体験 2023－をメインアリーナで開催した。スタッフを除く一般参加者は、39 人であった。このイベントは、愛知県と愛知県社会福祉協議会、中部大学が共同主催し、中部大学の学生が 12 名参加した。

2 部構成とし、1 部に講演会、2 部は障害者向け陸上競技の体験会を行い、参加者が障害者スポーツに触れる機会となった。参加者が学生のサポートを受けながら、競技や身体の使い方を学んだ。

障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である共生社会の実現に向けた取組を推進する、各人の適正にあったスポーツ活動のことを「インクルーシブスポーツ」と言う。本イベントを通し、スタッフで参加した学生も参加したハンデキャップのある方も、「インクルーシブ」という考え方をスポーツの視点から考える機会になった。



スペシャルレクチャー 池田樹生氏



伴走体験



サポートする学生



集合写真

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 健康寿命延伸のための快眠・運動教室

氏名： 野田 明子

所属・職名： 生命健康科学部生命医科学科・教授

月 2 回程度の快眠・運動教室、高血圧・循環器病予防教室を開催した。9 月 20 日に開催された体力測定会では、生命医科学科学生が主体となり、物忘れ・睡眠相談、頸動脈超音波検査（動脈硬化の評価）および尿中ナトリウム・カリウム比測定を実施した。

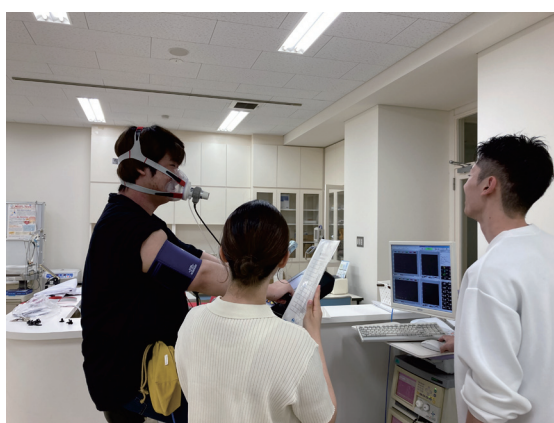


図 1 心肺運動負荷試験



図 2 頸動脈超音波検査

学生は、コミュニケーション能力のレベルアップ、地域健康増進活動を通じて将来の目標が明確になり、学部生・大学院生ともに臨床検査技師知識・技術の向上に大いに役立った。

体力測定会では、睡眠・頸動脈超音波検査・高血圧食事指導を目的とした尿中ナトリウム・カリウム比の測定から精査の必要性が示唆された対象者が 65.5%と高い頻度で認められ、地域在住高齢者の生活習慣（運動・睡眠・食事）指導の重要性が明らかとなった。

快眠・運動教室、高血圧・循環器病予防教室では、体力測定会に続き、血圧、血管年齢、睡眠障害および物忘れ評価を実施し、運動・睡眠・食事指導を行った。世代間交流による生活指導は地域在住高齢者の健康管理・疾病予防の意欲をもたらすため、地域の健康維持において効果的であった。心血管病の最大の危険因子である高血圧と睡眠障害の改善および運動習慣の運動量の向上などが認められ、心血管病・認知症等の疾病予防として重要な活動と考えられた。

臨床検査新カリキュラムにおいて、従来に比し、病院における検査室のみならず、多職種と連携し、地域における疾病の予防・早期発見・診断・治療・リハビリテーションに関する活動・在宅医療も強化されており、超高齢化社会を背景とし、今後も大学における世代間交流による地域住民の健康管理・疾病予防の実践活動を発展させることは意義が高い。地域の医療施設や自治体と連携し、超高齢者社会における医療従事者をめざす医学教育の発展と地域住民の健康管理に貢献したい。

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 体力測定会

氏名： 戸田 香

所属・職名： 生命健康科学部理学療法学科・教授

活動内容

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1) マナー研修会 | 6月28日(水)(堀文子准教授担当) |
| 2) 直前オリエンテーション | 9月12日(火) |
| 3) 体力測定会開催 | 9月20日(水) |
| 4) 体力測定結果判定と郵送 | 10月下旬 |

参加者

教員：戸田香、矢澤浩成、野田明子、平手裕市、堀文子、谷利実希

学生：56名(LP・LB・LS・LK)、地域住民(シニア参加者)：31名

体力測定会は学生と地域住民との世代間交流を目的としている。地域住民は65歳以上の高齢者を対象とし、ロコモ度チェックや体力テストを中心に、睡眠・物忘れ相談、心電図検査、頸動脈超音波検査、尿検査など多岐にわたる検査を実施している。高齢参加者の健康管理の一助となっている点から、過年度から継続的に参加を希望して下さる方が多い現状である。本活動は平成25年から継続しており、今年度が10回目の開催であったが、今回は春日井市健康増進課の協力を得て、中部大学の近隣地域への広報活動を行った結果、新たな参加者の開拓につながった。

学生は理学療法学科・生命医科学科・作業療法学科・保健看護学科の学生が参加した。本企画は学生にとって、準医療人として日ごろの学びの成果を発揮できる場としての一面を持っている。1年生・2年生については、企画への参加条件として高齢者の特性を学び、心地よい世代間交流のためのポイントを知るためのマナー研修会への参加を必須要件としている。次年度以降も継続的に実施を予定している。



中部大学COC 世代間交流プログラム

体力測定会

2023年9月20日(水) 台風などにより中止の場合は9月30日(土)に順延

時間：9時30分～12時30分 (個別に時間を指定させていただきます。)

会場：中部大学 52号館 1階 521B
55号館 4階 5541、5階 5551実習室

参加費無料

申込〆切 2023年7月31日

参加ご希望の方は
事前参加登録
をお願い致します。
定員 30名

医療職を志し勉強中の学生が
全項目の測定をさせて頂きます。
ロコモティブシンドロームや
睡眠などについて、ご自身の
現状を確認してみませんか？

標準測定項目 (全員実施)

- ① 身長・体重・体脂肪率測定
- ② ロコモ度テスト・新体力テスト
- ③ 感覚検査(振動覚・触覚)
- ④ 骨密度検査
- ⑤ 血圧測定と尿検査 (①～⑤の所要時間：全60分程度)
- ⑥ 高血圧の方については食事指導 (所要時間：20分程度)

測定中は
学生がマンツーマン
でご案内します。

オプション測定項目 (事前に希望された方のみ実施)

- ⑤ 頸動脈エコー検査 (血管の健康度を評価) (所要時間：15分程度)
- ⑥ 物忘れ・睡眠相談 (5名程度で集団指導) (所要時間：30分程度)
- ⑧ 心電図検査と医師による結果説明 (所要時間：15分程度)

※健康診断ではありません。学生と交流して頂くことが主目的の企画です。

主催 中部大学 お申込み先 中部大学地域連携センター
(お問い合わせ) e-mail: coc@office.chubu.ac.jp
TEL 0568-51-9872
当日のご連絡 090-1289-9755

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 福祉用具体験セミナー

氏名： 堀 文子

所属・職名： 生命健康科学部保健看護学科・准教授

活動内容

福祉用具体験セミナー開催 8月7日（月）

参加者（準備協力含む）

教員：堀文子、戸田香、谷利実希

学生：13名（LP・LS・LK）、地域住民（シニア参加者）：5名

【目的】福祉用具体験を通じて、シニアと大学生の交流によりお互いの理解を深める。

移乗・移送に対する福祉用具について学ぶことができる。

【内容】移動の大切さや移動（移乗・移送）に関する福祉用具（スライディングシート・スライディングボード・走行式リフト・リクライニング車椅子など）を知り、各自の体験と相互の支援を行う。

【学び：アンケートより】

【学生から】

1. セミナー内容について

今まで使用したことがない福祉用具が多くあったため使い方を知ることができたことは自分にとって大変良い機会であった。福祉用具は便利ですが、使い方を少し間違えてしまうことにより、事故につながってしまうことを知れてよかった。

福祉用具についての理解が深まり今後にいかせると思った

触れたことのない用具や使ったことのない機械を実際に使用することができた

すべてを体験することはできなくて残念だった。

福祉用具の体験ができただけでなく、患者さんの気持ちも分ることができた。

患者体験から、怖いと思うことがあり、しっかり練習をして身に着けることが大切だと思った。

2. セミナーについて

別の学科の方や地域の方と触れ合うことができてとても良い経験になった。

シニアの方と一緒に体験できて良かった。

今回初めて参加したのだが、世代の違う方と交流できることが1番のポイントだと感じた。

同じ動作でも感じ方の違いがあることを学べてとても貴重な体験だった。

日頃あまり関わりのない高齢者の方と関わる機会になって良かった。

【シニアさんから】

1. 学生さんの役に立てた事が良かった。

2. 補助具を使うことで簡単安全に移乗が出来ることがわかった。

3. 経験出来たことは満足、一部経験出来なかったことはちょっと不満

4. 医療従事者が少しでも楽になればよいと思った。

5. いろいろな補助具があるのがわかり興味深かった。

6. 今後、介護の必要性があった場合の参考になった。

7. 介護の知識が得られたのはとてもよかった。老々介護には用具を使いこなせたら少しは楽しくなると思った。

8. 学生さんと楽しい時間でした。福祉用具を使わない いつまでも健康年齢を維持したい

【まとめ】

参加者皆が参加してよかったと回答された。世代間の交流は双方にとって理解が深まる機会となった。異なる学科の学生との交流もよかったとの回答があった。すべての用具を体験していただけなかったことに対して残念であったとの声も聞かれた。これらの機会は医療専門職となる学生にとって良い機会となったと思われる。



世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： KCGサークルでの健康教室指導

氏名： 矢澤 浩成

所属・職名： 理学療法実習センター 講師

KCG (Kouzouji Chubudaigaku Genki) サークルは、地域在住高齢者・理学療法学科学生・教員で構成された健康増進サークルであり在籍数は約 40 名である。毎回、地域在住高齢者 20 名程度、5～10 名の学生が参加している。具体的な活動内容は、健康増進またはフレイル予防のための体操指導・レクリエーション・ディスカッション等である。

この活動により、高齢者の健康増進および身体的フレイル・社会的フレイル予防に留まらず、理学療法士を志す学生の準医療人としての自覚と臨床力向上という、世代間の相乗効果が得られた。さらに高齢者と学生がお互いに尊重し支えあう関係が構築されることで地域活性化の期待感が高まり、特に学生はこの学外活動を通して地域貢献に対する意欲が向上した。

具体的な感想として、学生からは「はじめは異世代とのコミュニケーションに不安があったが、活動に参加することでコミュニケーション能力が向上したことを実感した。」との事であった。また、地域在住高齢者からは「学生が成長していく姿を目の当たりにし、若者に対する印象がとても良くなった」との肯定的な意見が多く挙がった。



世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 地域イベントに対するボランティア活動（救護・消防団）

氏名： 北辻耕司 所属・職名： 生命健康科学部スポーツ保健医療学科 講師

2023 年度における中部大学機能別分団員の活動は、中部大学内や春日井市内において年間 19 回の活動を行った。

4 月 26 日に第 1 回研修を皮切りに、5 月 25 日には 4 年生の退団及び 1 年生の入団を迎える入退団式をアクティブホールにて春日井市消防本部消防長、団長を招き行った。

6 月 21 日、28 日には今後の団活動について団員としての心得や必要な知識など研修を 2 週にわたり実施した。

8 月 27 日には南海トラフを震源とする大規模な地震が発生し、市内各地で負傷者の発生、家屋の倒壊、火災の発生、道路の損壊、橋の落下のほか、交通機関・通信・電気・ガス・水道施設等のライフラインに大きな被害をもたらし、地震の規模はマグニチュード 9.0、震度は 6 弱を観測し、市内各地で負傷者の発生、家屋の倒壊、火災の発生、道路の損壊、橋の落下のほか、交通機関・通信・電気・ガス・水道施設等のライフラインに大きな被害が発生したとの想定で訓練が行われた。団員は市民に対し直接防災指導を行った。

10 月 13 日、14 日には中部大学内で宿営訓練を実施、災害拠点である中部大学で実際に泊まり込みを行い災害時の初動の確認を行った。

このように消防団活動を通じ、春日井市の市民や消防職員との交流を行う事で学生のコミュニケーション能力の向上につながると考える。このように消防団活動は学生にとって大変有意義な活動と思われ、今後も春日井市消防本部とのつながりを持ち続け消防団活動を継続していきたい。



8 月 27 日 令和 5 年度春日井市総合防災訓練の様子(石尾台小学校にて)

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取り組み

氏名： 尾方 寿好 所属・職名： 生命健康科学部スポーツ保健医療学科・准教授

本活動では、地域に貢献し地域活性化に資する人材を育成するために、大学生にスポーツ・防災を通じた取り組みを実施させている。スポーツ・防災に着目した理由は、超高齢社会の日本において多くの高齢者が防災面を重視していることや、健康や病気へ不安を抱えていることから、現代社会では“防災”，そして健康の維持増進を図ることができる“スポーツ”が相対的に高い重要性を持つと考えられたためである（尾方ら，中部大学教育研究，2016）。

2023年度については、2018年度より継続して実施している「グルッポふじとう（高蔵寺まなびと交流センター）」における地域住民を対象とした運動教室を実施した。運動教室の実施頻度は週1回（月4回），年間で48回である。1回の教室は1時間である。大学生は，高齢者対象の運動教室と小学生対象の運動教室の両教室（写真1）のメニュー作成と運動指導を担当した。2つの教室は同一日に実施した。2023年度に運動教室に参加した大学生は8名であったが，ほぼ毎週参加した者は2名，それ以外の者は不定期の参加であった。



図1 高齢者教室（左）と小学生教室（右）の様子

2018年度に運動教室を始めてから本年度までの間で、2019年度に卒業した者と2022年度に卒業した者の2名が，社会福祉法人まちスウィング（所在地：グルッポふじとう内）に就職し，スポーツを通じたまちづくりに現在（2024年1月10日）も従事している。本年度に運動教室に参加した大学生の中で，2024年度よりスポーツ関連職種に就く者はいない。しかしながら，運動教室に参加した大学生に対するインタビューの結果によると，継続的に運動教室に参加した者は，コミュニケーション力，責任感，課題への取り組み方などを学ぶことができている。また，このような学びは，リアルな現場において異世代とのコミュニケーションをとりながら，運動教室運営の過程を経ることによってもたらされている。すなわち，本活動に継続的に参加した大学生は，地域に貢献し，地域活性化に資する人材として必要不可欠な学びを得ていることが考えられる。

2024年度より旧藤山台西小学校跡地に「ノキシタプレイス」がオープンする。ここは，ウェルネスや地域力強化などを図り，障害の有無にかかわらず0歳から100歳までが集うエリアの形成をコンセプトにしている。上記の2名の卒業生らも，ノキシタプレイスの事業に関わる。グルッポふじとうにおける本活動は2023年度3月をもって終了するが，本活動のコンセプトにより合致する環境で，大学生が地域活性化に資する人材として成長するための新たな活動を，今後検討していきたいと考えている。

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： アクティブシニアとの交流活動

氏名： 谷利 美希

所属・職名： 生命健康科学部作業療法学科・講師

【概要】

日 時 : 2023 年 5 月 12 日 (金)、5 月 26 日 (金)、6 月 8 日 (木)、10 月 12 日 (木)、
10 月 26 日 (木)、11 月 2 日 (木)、11 月 9 日 (木)、11 月 30 日 (木)
いずれも 9 時 30 分～12 時 00 分
2023 年 10 月 21 日 (土) 11 月 25 日 (土) いずれも 13 時～15 時 30 分
場 所 : グルッポふじとう (春日井市藤山台) or 緑が丘老人憩の家 (春日井市石尾台)
参加者 : 中部大学 作業療法学科学生 50 名 理学療法学科学生 2 名 教員 1 名
地域在住高齢者 延べ 73 名
活動内容 : 大学生によるスマホ相談会 (スライドを用いた説明、個別相談など)

【学生の学び・感想】*事後アンケートの抜粋

1. 地域高齢者との交流による感想と学び

- ・ 高齢の方とお話できる機会があまりないので、興味深いお話を聴くことができた。
- ・ 地域活動が予想以上に楽しくてびっくりした。
- ・ 日常的な話題を話してくださったり、教えたことに大きなアクションをしてくれて嬉しかった。疑問を解決して喜んでくれるのを見て、やりがいを感じた。
- ・ 家族以外の高齢者に何かを教えたことがなかったので、新しい経験だった。
- ・ 多くの方から感謝の言葉を頂き、自分が少しでも役に立てたという実感があつた。
- ・ 思っていたよりも楽しく活動をすることができ、こういった形であればやってもいいと感じた。体験しないと得ることができない経験だった。
- ・ 相槌を打ちながら話を聞き、反応をすることが大切であると分かった。
- ・ 高齢者の余暇の生活の仕方を知った。
- ・ 今回参加して楽しいと感じたし、より多くの人と関わってみたいと感じた。
- ・ 簡単なスマホの操作を教えたただけなのにとても感謝されて本当に嬉しかった。祖父母にはいつも教えてと言われても勝手に自分で触って終わってしまうのでもっと丁寧に教えたいと思った。また、地域場で、自分でも役に立てることがあればもっと参加したいと思った。

2. 交流時に気を付けたことや課題について

- ・ どう説明したら理解しやすいか考えながら話す良い機会になった。
- ・ 活動に参加したことで、自分の話し方の課題を実感した。
- ・ 自分なりに分かりやすく説明するよう心がけた。
- ・ わからない部分を聞き、自分なりに教えることができたと思う。また自分もわからないところは学生同士協力して教えることができた。
- ・ 多くの情報を理解してもらうために、1 つずつゆっくりと説明していくことが大事。
- ・ 質問に答えるだけでなく、自分から、これはどうですか？と聞くように気を付けた。
- ・ 説明のしかたを自分でしっかりと考えないと伝わらないことが分かった。

- ・ 想定通りに話は進まず、臨機応変に対応しないといけない場面が多かった。
- ・ 視線を合わせる、はっきりゆっくりした声で話すなど気をつけた。
- ・ 会話の中で、話す内容に困って沈黙してしまうことがあった。知らないことにどう答えるのが良いか迷ってしまった。
- ・ 緊張しやすいことが課題。話すときの言葉遣いや返答をスムーズにできるようになりたい。
- ・ 理解しやすく言葉を言い換えるためにも、いろいろなことを知らないといけない。

3. 地域高齢者の実際について

- ・ スマホの使い方について、高齢の方がどんなことを疑問に思っているのか分かった。
- ・ 文字を入力することが難しかったり、情報量が多いと分かりづらいことを理解した。
- ・ パスワードやメールアドレスの管理が難しく、様々な設定があって混乱していた。
- ・ スマホ操作時、知らない間に2回同じところをタップしていることがあった。
- ・ 僕たちが簡単に操作していることが分からないということがわかった。
- ・ インスタのやり方を聞かれて高齢者も使うのだと驚いた。
- ・ 趣味活動や、自己研鑽のための活動をたくさんしていて驚いた。
- ・ 楽しみや生き甲斐を自ら見出す力に驚いた。
- ・ スマホは、高齢の方も関心があり、会話のきっかけになると感じた。

【活動の様子】



【まとめ】

今年度は、石尾台地区社会福祉協議会および、社会福祉法人まちスウィングより依頼をいただき、シニア向けスマホ相談会を実施した。参加学生は、地域在住高齢者の興味関心に触れ、ライフスタイルの実際や、必要としている ICT 支援を学んだ。また、高齢者の困りごとを解決するためのコミュニケーションを経験できた。個々の課題と向き合う機会となり、臨床実習や就職後に出会う高齢者との関わりにおいて、この経験が活かされると考えられた。高齢者からは、「丁寧に教えてもらえて助かった」「お話が楽しかった」「今後も継続してほしい」との声が聴かれ、お互いに有意義な交流ができたと考えられた。今後も、教育的効果の検証や高齢者にとっての世代間交流の意義を検討しながら、世代間交流を継続していく予定である。

世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： CAAC 講義の補助（健康増進実習など）

氏名： 水上健一 所属・職名： 生命健康科学部スポーツ保健医療学科・准教授

CAAC（Chubu University Active Again College）の授業科目である健康増進実習（通年 32 コマ）にて、シニアを対象とした健康運動教室を実施した。スポーツ保健医療学科の学生 7 名（4 年生 4 名，3 年生 2 名，2 年生 1 名）が運動指導を実施するものである。また，春・秋学期の始めと終わりに計 4 回，体組成測定や血圧脈波測定，体力測定を実施した。各項目の 1 年間の変動を個々に対してフィードバックするとともに，集団データは統計を行った上で学生が履修者に対してプレゼンテーションを行った。健康運動教室の企画・運営，運動プログラムの作成・提供，測定フィードバック等，さらには世代間交流を通じて，多くのスキルを身につけるとともにそれらを向上させることから学生のキャリア開発につながる。またデータを扱うことで研究活動の種にもなっている。今後も少しずつ活動の幅を広げ，高いレベルでのリカレント教育と学生教育のハイブリッドを目指していきたい。



世代間交流プログラムWG

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 石尾台町内会夏祭りサポーター

氏名： 谷利 美希

所属・職名： 生命健康科学部作業療法学科・講師

【概要】

日 時 : 2023 年 7 月 29 日 9 時～11 時、7 月 30 日 16 時～21 時、7 月 31 日 9 時～11 時
場 所 : 石尾台小学校
参加者 : 中部大学 作業療法学科学生 29 日 14 名、30 日 13 名、31 日 10 名、教員 1 名
主 催 : 石尾台町内会自治会協議会
活動内容 : 7 月 29 日 準備 (テント設営など)
7 月 30 日 本部、舞台進行補助、飲食店補助、中部大学ブース (スマホ相談)
7 月 31 日 片付け (机・椅子の片付け、ごみ仕分けなど)
夏祭り当日入場者数 : 2,931 名 (中学生以下 1,184 名)

【学生の学び・感想】＊事後アンケートの抜粋

1. 地域高齢者との交流について

- ・地域の方々とお話することは、とても楽しいものだった。
- ・皆さんがとてもあたたかく、親切にさせていただいて嬉しかった。
- ・積極的に、またしっかりと聴いて丁寧に話すことが課題だった。
- ・焦って早口になってしまい、聞き返されたことがあったので、どんな時でもゆっくりと話すことが課題であった。
- ・実際に高齢者と話してみると、話し方や、声のトーンやスピードが自分と全く違うことに気づき、コミュニケーションの取り方をもっと知っていく必要があると感じた。

2. 世代間交流時のマナーについて

- ・敬語を使うことは慣れなくて少し難しかったが、笑顔を大切にしながら交流することができた。
- ・ハキハキと喋ることは出来た。失礼のないように言葉を選んだ。
- ・聞き取りにくかったところはちゃんと聞き直すことができた。
- ・相手のペースに合わせながら、失礼にならないように言葉遣いに気をつけて話した。
- ・自分の気遣い以上に、高齢者の皆さんが優しく楽しく会話することができた。
- ・事前に行ったマナー講習を思い出しながら活動できた。

3. 地域高齢者の実際について

- ・作業を進める上での工夫の仕方から、経験の差を感じた。
- ・高齢者もテキパキ動いている方が多く、元気な方がたくさんいることが分かった。
- ・何も知らない私たちが参加すると教える手間がかかるし、迷惑がられてしまうのではないかと思ったが、とても優しくしてくれた。
- ・たくさん話しかけてくれるということ、とても元気で明るく積極的であることがわかった。
- ・想像していたよりも、高齢者の方々ができることが多いということがわかった。
- ・様々な年齢の人とも話せる力、パワフルさがあった。
- ・役割のある人は、特に生き生きとしていた。

- ・耳が聞こえづらいことがあり、ハキハキと大きめの声でお話することが重要であった。
- ・俊敏に動くことが難しいので、私達若者が素早く動いて必要なものを取りに行くことで手助けできると分かった。
- ・高齢者の方が、準備や片付けに積極的で力作業を頑張っていらっしゃる姿をみて、高齢者の方のパワーを感じた。

4. 地域活動への参加について

- ・人のために働くというのはとても良いことであると改めて感じた。
- ・これからのボランティア活動にも前向きになれた。
- ・コロナ禍でこれまで経験できなかったけど、みんなで盆踊りも踊れて楽しかった。
- ・小さい子供から高齢者の方まで一体となって楽しんで踊る光景に感動した。
- ・すごく楽しかったし、とても勉強になったので、またこのような機会があれば参加したい。
- ・高齢者とのコミュニケーションを積極的にとれるようになりたいので、今後も交流を行っていききたい。
- ・普段話す機会のない方々と話すことができる機会は貴重であった。
- ・今回、高齢者の方と関わった中で、「来てくれてありがとう、助かった」や「お疲れ様」などとあたたかい言葉をかけて下さった。これからも地域の方の力になりたい。
- ・作業療法士を目指す上で、学生のうちからこのような関わりを行うことはとても重要だと思う。今回の経験が、これからの実習や仕事に活かせると思う。

【活動の様子】



【まとめ】

参加学生は、「多世代が協力して地域に根差した行事を創り上げる」という、持続可能な社会の創成に必要な実践を体験した。参加学生は、地域貢献への意欲が向上したと考えられる。今後も、このような地域活動への参加を取り入れながら、社会で役に立つ人材の育成につなげていきたい。

④ 全体

④全体は、従来からあった本学の地域活動等を「動く」の活動として承認したものや自治体主催の活動を「動く」の活動として承認したものなど、各ワーキンググループ（①正課教育WG、②生活・住環境を考えるまちづくりWG、③世代間交流プログラムWG）に属さない活動を取りまとめている。

1. 活動内容および計画

「動く」

① 報酬型インターンシップ	通年
② 地域連携住居KNT創生サポーターズ（CU+）	通年
③ ボランティア・NPOセンター	通年
④ 小牧市東部でつながりやってみようプロジェクト	通年
⑤ 臨床実践プログラム	通年
⑥ サマースクール 2023（郡上市）	8/24（木）～25（金）、31（木）

①②③は平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生教育事業」において活動が開始され、現在まで継続している。これらは 学生支援課の職員が指導している。④は小牧市主催の活動で、地域住民と共に中部大学と名古屋経済大学の学生が協働して地域の活性化に取り組んだ。⑤は臨床工学科・理学療法学科の学生が地域の医療・介護施設において日頃の学びの成果を活かして、入所者や施設職員との交流を行うものである。⑥はCOC+参加大学（岐阜大学・中部大学・中部学院大学・名古屋学院大学・日本福祉大学）共通プログラムであり、令和2年度から「動く」として認定された。

「学ぶ」

PBLゼミ 2023

[9/13（水）、14（木）9：30-17：30 2日間プログラム 5131 講義室]

PBLゼミは、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身につけることを目指した体験型学習として年1回実施しており、地域創成メディアーター「学ぶ」Aキャリア教育科目1単位に読み替え可能としている。

修了者数：24人（男6人、女18人）

修了者所属（人）：経営情報学部3、人文学部2、応用生物学部16、生命健康科学部3
1年生9人、2年生7人、3年生8人 詳細は81ページ以降参照

その他の活動

- ・COC事業採択校「全国学生交流会」への参加（オンライン） 3/ 1（金）
- ・2023年度 活動報告書（冊子）の配付 3月 初旬
- ・COC推進委員会の開催（年間4回） 通年

2. 活動成果

「動く」の活動については、各活動において地域のニーズに沿った提案、活動を地域住民の方々や他大学の学生と共に考え、提案や活動を行うことができた。そのような地域をキャンパスとした課外活動を通して、地域創成メディエーターを目指し課題解決できる人間としての力を養う機会を参加学生それぞれが得ることができたのではないと思う。また、学生の地域活動への積極的な参加は、地域活性化や地域貢献に繋がったと自治体からも評価を受けている。

PBLゼミでは、学生自らが学部や学年、学習スタイルが異なるようにメンバーを決めていくチームづくりから始まり、自己紹介やグループワークを経て、それぞれのチームがまとまっていった。プログラム終盤の「イメージ交換」では、メンバーの持ち味やその活かし方についてのアドバイスなどをプレゼントカードとして贈り合い、他者から見た自分を知ることによって自分自身に対して新しい発見を感じられたようだった。終了後のアンケート集計から、参加者の95%が「とても満足した」と回答しており、学生にとって大変有意義なプログラムであると思われる。

3. 今年度の課題・次年度の目標

コロナ禍を経て地域における活動が活発化している状況の中、自治体、地域等と連携を図りながら、新たな「動く」の活動についても検討し、より多くの学生が地域で活動できる機会の創出を目指したい。

PBLゼミについては、地域創成メディエーター資格取得希望者の減少に伴い参加者が減少している。今年度は参加者による座談会を開催し、プログラムの魅力を学生自身の言葉でPRする試みを実施した。引き続き、資格取得希望者以外にもPBLゼミを周知する工夫をしていきたい。

(地域連携センター事務局記)

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 報酬型インターンシップ

氏名： 佐久間 好久・小塚 美佳

所属・職名： 学生教育部学生支援課
担当課長、事務職

2023 年度の報酬型インターンシップは、年間 4 回の説明会を行い、228 名の学生が出席した。春日井商工会議所との連携により多くの大学の地元企業に協力いただき、27 名の学生が申し込みをし、登録企業において 21 名の学生が活動に取り組んだ。

学生は、地元企業で就業体験を積み、地域の企業への理解を深める機会となった。

なお、活動を行い、所定のポイントの取得後に発行される修了証書の授与者は 1 名であった。

2023 年度報酬型インターンシップの活動状況

		説明会 参加 学生数	登録 企業数	申込 学生数	参加 学生数
4 月 7 日	学内説明会 (春学期参加学生募集)	72			
5 月 1 日	春学期活動スタート		75	5	3
6 月 19 日	学内説明会 (夏季休業中参加学生募集)	115			
8 月 2 日	夏季休業中活動スタート		76	14	11
9 月 22 日	学内説明会 (秋学期参加学生募集)	22			
10 月 16 日	秋学期活動スタート		49	4	3
12 月 4 日	学内説明会 (春季休業中参加学生募集)	19			
2 月 1 日	春季休業中活動スタート ※参加学生数は見込みの人数		41	4	4
合計		228 名		27 名	21 名

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 臨床実践プログラム

氏名： 武田 明

所属・職名： 生命健康科学部臨床工学科・教授

概要

(目的・内容・学生の学び)

大学の講義・実習では、学ぶことが少ない職種の業務や、病院で働くことの魅力および病院のシステムなどを学び、「気づき」を体験することで自分を知る機会にさせる。

また、病院で働く人たちの「志」に触れることで、働くことに対するモチベーションを向上させ、社会へと飛び立っていけるような精神的な礎を築く機会にし、就業前の就職先の選択肢を広げる。

(活動報告)

昨年度の活動を継続し内容を充実させた。臨床実践プログラムとして長期的な報酬型インターンシップ（就業体験）を希望する生命健康科学部の学生に、病院やクリニックおよび医療機器メーカーや薬局などで就労する機会を提供する為、学生へオリエンテーションを実施して、学生に対して就業先の斡旋も含め紹介を行ない、学生や病院の窓口となった。また、施設拡充をする活動も行った。しかし、コロナ禍の影響で、クリニック1名、病院1名の活動となった。

病院やクリニックは、臨床実践プログラムを実施することにより、スタッフ募集の広告費を使わずに、医療の勉強をしている質の高い学生の労働力を活用できるメリットが生まれた。このように、学生と医療現場の双方にメリットがある臨床実践プログラムの活動を引き続き充実させていきたい。

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 地域連携住居

氏名： 殿垣 博之・佐久間 好久

所属・職名： 学生教育部学生支援課
事務職、担当課長

【概要】

地域連携住居は春日井市と UR 都市機構、中部大学が連携した取り組みで 2015 年度から本格的に活動が始動し、本年で 9 年目を迎える。2023 年 12 月時点で本制度を利用し、高蔵寺ニュータウン（以下、高蔵寺 NT）内の UR 都市機構が管理する指定物件に入居している学生は 29 名。

本制度で入居できる指定物件は、エアコン・網戸付きで通常家賃より 20% オフで借りることができる反面、入居条件は、高蔵寺 NT 内で地域住民との交流イベントの企画立案やその補助、自治会から依頼を受ける地域イベント（運動会や防災イベントなど）または交流イベント等の地域貢献活動に継続的に取り組む必要がある。

【活動実績】（2023 年 12 月末時点）

入居学生が依頼を受けて参加した活動、または、主催した自主企画は次の通り。

- ・自治会から依頼を受けた活動
→ 計 6 回参加 参加学生：のべ 29 名
- ・その他、団体から依頼を受けた活動
→ 計 4 回参加 参加学生：のべ 18 名
- ・入居学生が行なった自主企画
→ 計 2 回参加 参加学生：のべ 4 名

【活動紹介】一部抜粋

入居学生によるペットボトルロケット教室

2023 年 7 月 29 日（土）に高蔵寺 NT 内のグループふじとうで「ペットボトルロケット教室」が開催された。本活動は、大学院生の入居学生 2 名を中心に有志メンバーを募り、企画立案、周知、当日の運営に至るまで学生主導で行なった。当日は親子での参加が 9 組（計 20 名）あり、学生が飛行の原理やペットボトルロケットの作り方をわかりやすく解説したおかげもあり、参加者からはリピート開催を熱望されるほどの大盛況となった。

主催した学生は、「普段は依頼を受けて当日活動に参加するだけのことが多いが、企画立案から当日の運営まで一貫して経験することで大学の講義だけでは学び難い経験を積むことができた。」と、地域と学生の双方に効果を感じることができた。



作り方の説明の様子



発射実験の様子①



発射実験の様子②

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 中部大学ボランティア・NP0 センター

氏名： 殿垣 博之・唐木 純也

所属・職名： 学生教育部学生支援課
事務職

【概 要】

中部大学ボランティア・NP0 センター（以下、当センター）は学生自身によるボランティア活動団体として 2004 年にスタートし、今年度で 20 周年を迎える。
当センターでは、活動を社会教育・社会福祉・環境対策・地域貢献・災害対策の 5 つに分類し、学内外で行う活動を通じて、建学の精神である「不言実行、あてになる人間」の育成を目指している。

【活動実績】 2023 年 12 月末時点

プロジェクト名	学外から依頼を受けた活動	企画・立案した活動
社会教育	3 回	1 回
社会福祉	48 回	1 回
環境対策	15 回	58 回
災害対策	4 回	5 回
地域貢献	15 回	3 回

【活動紹介】 一部抜粋

- ・親子実験教室（社会教育プロジェクト）



実験の手順を教えている様子

坂下小学校から依頼を受け、8 月 8 日（火）坂下小学校で「親子実験教室」を開催。当日は計 51 名が参加し、「空気砲実験」と「水に浮かぶ絵の実験」を行った。

参加した子どもたちが理解しやすいようにイラストで実験の原理説明をするなど工夫を凝らした。本活動は毎年、坂下小学校から依頼を受けるほど好評の活動となっている。

- ・ 児童発達支援・放課後デイでのサポート（社会福祉プロジェクト）

春日井市内で児童発達支援・放課後デイのサービスを展開する施設から依頼を受け、活動を開始した。利用者の見守りや、勉強を教えることが主な活動内容である。合計 11 名の学生スタッフがシフトを組み継続的に活動を実施した。(2023 年 12 月末時点で計 48 回) 参加学生は実際の現場で利用者と交流することで福祉への関心を持つきっかけとなった。
※利用者のプライバシー保護のため写真なし

- ・ 藤前干潟クリーン大作戦（環境対策プロジェクト）

自然や環境問題に触れ合うことで、環境問題への理解を深めるため 2012 年度より藤前干潟実行委員会が主催している「藤前干潟クリーン大作戦」に参加した。

今年度は 5 月 20 日（土）に行われた「春の干潟クリーン大作戦」、10 月 28 日（土）に行われた「秋の干潟クリーン大作戦」に合計 80 名の学生が参加。清掃活動や運営補助を行い、干潟の現状を知り、環境問題について考えることができた。



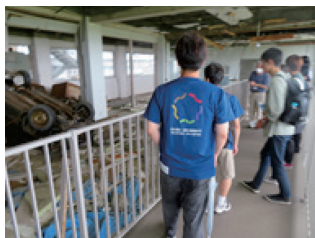
ごみの分別の様子



資料館を視察している様子

- ・ 東日本大震災の被災地支援に係る活動（災害対策プロジェクト）

今後起こりうる南海トラフ地震に備え、学生スタッフが災害について危機感を持ち、防災・減災について考えること、東日本大震災の記憶を風化させないため 2 月 14 日（火）、15 日（水）と 9 月 8 日（金）、9 日（土）に宮城県気仙沼市を訪問し、伝承施設の見学と現地遺族会から依頼を受け、慰霊碑周辺の環境整備を行った。実際に現地を訪問することで防災意識の醸成に繋がった。



資料館を視察している様子



環境整備の様子

- ・ 自転車盗難防止活動（地域貢献プロジェクト）

学生の防犯意識向上を目的とし、学内の駐輪場に停めてある未施錠の自転車に対してツーロックを呼びかけるタグ付けを春日井警察署生活安全課の署員と共同した。その他、大学正門付近で闇バイトに対する意識啓発を行なった。



ツーロックの啓発のビラ配りの様子



闇バイト啓発のビラ配りの様子

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： サマースクール

氏名： 戸田 香

所属・職名： 地域連携センター 副センター長

2016（平成 28）年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）からスタートした「サマースクール」は、現在、ぎふCOC+事業推進コンソーシアムに参画している 5 大学の共通プログラムとして年 1 回実施している。

地域や地元企業の課題を設定し、他大学の学生と共に実際の課題に対して提案を行うことにより、自身の能力を磨くと同時に将来のキャリアの選択肢を広げることを目的としている。

地域創成メディエーター「動く」の活動の一つではあるが、サマースクールとは別に「動く」の活動に参加すれば「学ぶ」A キャリア教育科目 1 単位に読み替え可能としている。

【サマースクール 2023 in 郡上 ～郡上の企業に人を呼べ～】

◆日程： 8 月 24 日（木）～25 日（金） 1 泊 2 日、 8 月 31 日（木）

◆プログラム

・8/24 現地見学（郡上市） 2 コース

[A コース] アサヒフォージ株式会社白鳥工場、介護老人福祉施設アットホームしらとり

[B コース] 郡上大和総合開発株式会社、株式会社大西組

・8/25 インタビュー、グループワーク

・8/31 成果発表会（郡上市総合文化センター）

◆参加人数（5 大学合計）： 29 人（本学 7 人※）

※本学の参加者内訳

経営情報学部 1 人、応用生物学部 3 人、人文学部 3 人

男子 1 人、女子 6 人

1 年生 1 人、2 年生 1 人、3 年生 5 人

◆受賞チーム

・郡上市長賞・・・チーム《シナモン》「若者が考える企業選び～既存支援策にプラス α ～」

・こたいきょう賞・・・チーム《球技》「リゾートバイトで企業に人を呼ぶ」

アンケート集計から、宿泊を伴うプログラムでの学生同士の交流ができたことや、他大学の学生とチームを組んで課題解決のための提案をまとめる達成感を感じられた等、満足度の高い結果であった。



企業見学



グループワーク



修了認定証

全体

2023 年度「動く」活動報告

活動名称： 小牧市 東部地域でつながり、やってみようプロジェクト

氏名： 蓑島 智子

所属・職名： 国際・地域推進部 地域連携課長

【概要】

小牧市主催の東部地域の新たなまちづくりプロジェクトに7名（都市建設工学科4名、国際学科1名、歴史地理学科2名）の学生が参加した。主にワークショップのほか、「こどもマルシェ」「東部地域イメージアッププロジェクト」に参加し、自治体や地域住民の方々、他大学の学生と協働して提案、企画、運営まで行う等貴重な経験を通して、多くの学びを得る機会となった。また小牧市にとっても学生の若い感性が加わったことにより、プロジェクトを通じて小牧市東部地域の活性化に繋がったとのことであった。

【活動実績】

- 4月23日 第1回ワークショップ（小牧勤労センター）【本学学生5名／全体18名】
東部地域に対する地域課題等の整理及び、参加者間で課題を共有し、各自取り組みたい課題を明確にした。
- 5月7日 第2回ワークショップ（小牧勤労センター）【本学学生6名／全体22名】
「誰のために？」「何をする？」をテーマに①高齢者、②子育て世代・こども、③働く人、④訪れる人・引っ越してくる人の切り口で各自取組アイデアを考え発表した。
- 5月28日 第3回ワークショップ（小牧勤労センター）【本学学生5名／全体18名】
「私のベストアイデア」を発表し、3つのチーム「こどもマルシェ」「東部地域イメージアッププロジェクト」「地産地消チーム（小牧市東部地産地消事務局）」が編成された。本学からは「こどもマルシェ」には4名、「東部地域イメージアッププロジェクト」には4名が参加し活動することになった。
- 8月16日、9月1、13日 ポスター撮影【本学学生3名】
 - ・名古屋経済大学生と協働して東部地域各所で撮影、地域の魅力を伝えるポスターや特別サイトを作成した。
 - ・小牧市内を走るこまくる、ピーチバスでポスター掲示を行ったり、桃ヶ丘小学校・桃陵中学校前で行われた子供向けイベントでも啓発を行い、東部地域の魅力を伝えた。
- 11月3日～5日「東部地域トライアル活動ブース出展」（中部大学）
小牧市役所や地域の方、名古屋経済大学の学生と共に、東部地域の魅力を伝えるフォトコンテスト等を実施し、撮影場所の紹介等を行った。（投票638票/参加319人）
- 12月3日「こどもマルシェ」（大城児童館）【本学学生5名/来場者数392名】
本学学生は企画から運営までのスタッフとして参加した。射的コーナーをこどもマルシェの中唯一無料で提供し、お金を持参していないこども達にも楽しんでもらえるよう工夫を凝らした。
※「こどもマルシェ」とは、こどもが自分のリサイクル品を現金で売るという学びの体験の場。
- 2月25日 東部地域トライアル活動実施報告会（東部市民センター）（予定）
- 3月23日「こどもマルシェ」（天満神社）（予定）



地域の方々とのワークショップ



ポスターの撮影風景



制作したポスター



名古屋経済大生と共同で制作



「こどもマルシェ」 学生発案の射的コーナー



新聞社の取材を受ける

(3) その他プロジェクト活動報告

- ① PBLゼミ
- ② COC+参加大学共通プログラム
「サマースクール」

① PBLゼミ



受講者満足度**95%以上!**

PBL ゼミ

2023

地域・社会で『自分らしく』
活躍したい!その一歩を応援します

「PBLゼミ」は、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。グループワークを通して自分の新たな一面も見つかるかも?!気軽にご参加ください。

こんな人におすすめ!

自分の
持ち味を
知りたい!

コミュニ
ケーションが
不安...

リーダーシップを
発揮したい!

人見知りで
グループワークが
苦手!

いろんな事に
チャレンジ
したい

学 習
テーマ

「自分が何かを学ぶときのスタイルを探索する」
「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」

「自他の価値観について探索する」
「課題解決のプロセスを体験する」 etc.

※ PBLゼミは、**地域創成メディアーター「学ぶ」**のキャリア教育科目に読み替え可能(単位認定無し)

9/13日(水) 14日(木)

参加
無料

【2日間連続プログラム】 両日とも 9:30~17:30 対象: 全学部生
定員: 50名(定員になり次第終了) 場所: 5131 講義室(51号館3階)
申込方法: 氏名・学籍番号・学年・携帯番号をEメールでお知らせください

締切:
9月5日(火)
お申込みは
こちらから↓



中部大学

中部大学 地域連携センター(キャンパスプラザ2階)

E-mail: chiiki@office.chubu.ac.jp 担当: 菱島・羽山・上甲 (TEL.0568-51-9872)



これまでの受講者の声

2016年からスタートしたPBLゼミ。

これまでたくさんの先輩や仲間が参加してくれました。
その声をご紹介します。



★満足度は95%以上!!

■2022年（対面実施）

- ・とても満足した 87.5%
- ・多少満足した 12.5%

■2021年（オンライン実施）

- ・とても満足した 84.2%
- ・多少満足した 15.8%

★身に付いた力や姿勢について伸びが大きかった項目

■2022年（対面実施）

ベスト3

- 1位：他者に働きかける力
- 2位：失敗を恐れず挑戦する姿勢
- 3位：自分に対する自信

■2021年（オンライン実施）

ベスト3

- 1位：自分に対する自信
- 2位：他者に働きかける力
- 3位：計画する力

■参考■ 2022年度プログラム

1日目
①オリエンテーション ・講師あいさつ ・本ゼミの狙い
②個人ワーク ・実習「あなたの学習スタイル」 ・解説
③グループワーク ・グルーピング ・実習「記者会見」 ・ふりかえり
昼食
④グループワーク ・実習「総当たりインタビュー」 ・ふりかえり
⑤グループワーク ・実習「コンセンサスを求めて」 ・実習のふりかえり
⑥本日のまとめ

2日目
⑦個人ワーク・グループワーク ・実習「価値観について」 ・ふりかえり
⑧個人ワーク・グループワーク ・実習「ライフポジションについて」 ・相互検討&解説
⑨グループワーク ・実習「対人コミュニケーションについて」 ・グループ検討 ・解説
昼食
⑩グループワーク ・実習「課題解決実習」 ・ふりかえり
⑪個人ワーク・グループワーク ・実習「イメージ交換」
⑫PBLゼミ2022のまとめ ・PBLゼミ2022のまとめ



中部大学

中部大学地域連携センター

<https://www.chubu.ac.jp/community-extension/>

PBLゼミ

「PBLゼミ」は、学生自身が自分の持ち味を発揮して地域や周囲に関わっていくための力を身につけることを目指した体験型学習として年1回実施しており、地域創成メディエーター「学ぶ」Aキャリア教育科目1単位に読み替え可能としている。

今年度は以下の通り実施した。

日程：9月13日（水）、14日（木） 9：30-17：30 2日間プログラム 5131 講義室

修了者数：24人 （申込人数26人）

修了者内訳：経営情報学部3人、人文学部2人、応用生物学部16人、生命健康科学部3人
男子6人、女子18人

1年生9人、2年生7人、3年生8人

学生自らが学部や学年、学習スタイルが異なるようにメンバーを決めていくチームづくりから始まり、自己紹介やグループワークを経て、それぞれのチームがまとまっていった。プログラム終盤の「イメージ交換」では、メンバーの持ち味やその活かし方についてのアドバイスなどをプレゼントカードとして贈り合い、他者から見た自分を知ることによって自分自身に対して新しい発見を感じられたようだった。終了後のアンケート集計から、参加者の95%が「とても満足した」と回答しており、学生にとって大変有意義なプログラムであると言える。今後の課題として、地域創成メディエーター資格取得希望者の減少に伴い、PBLゼミへの参加者も減っているため、資格取得希望者以外にもPBLゼミを知ってもらおう工夫をしていきたい。



総当たりインタビュー



グループワーク



グループワーク



イメージ交換

中部大学 御中

PBL ゼミ 2023

アンケート集計結果

報告書

Learning Value 株式会社 ラーニングバリュー

2023 年 9 月

株式会社ラーニングバリュー

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

目次

プログラム概要	3
---------------	---

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】	4
------------------	---

Q1.あなたはこのプログラムに期待していますか？	5
--------------------------------	---

Q2.PBL ゼミに参加を決めた理由をお聞かせください	7
-----------------------------------	---

Q3.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？	8
--	---

【受講後アンケート】	9
------------------	---

Q1.このプログラムに満足しましたか？	10
---------------------------	----

Q2.このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？	12
--	----

Q3.このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？	14
---	----

Q4.このプログラムで、グループのメンバーに、自分のことをわかってもらえましたか？	16
---	----

Q5.このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？	18
--	----

Q6.このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？	20
---	----

Q7.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？	22
--	----

Q8.今回のようなプログラムはどんなタイミングで受講するのが良いと思いますか？	23
---	----

Q9.このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください	24
---	----

Q10.この授業について感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください	25
--	----

【受講前・後比較】	26
-----------------	----

Q.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？	27
---	----

* アンケートのフリーコメントについては、入力されたままを再現しています

プログラム概要

■プログラム対象 希望者

■実施日 2023 年 9 月 13 日－14 日

■アンケート回答者数 受講前／24 名 受講後／24 名

■当日プログラム

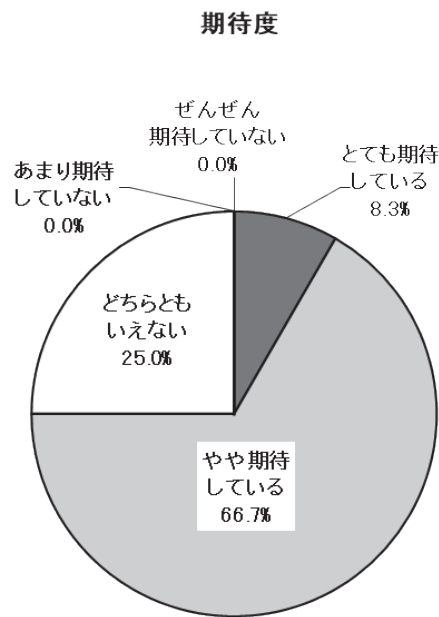
	1日目		2日目
	①オリエンテーション あいさつ 本ゼミの狙い ②個人ワーク ・実習「あなたの学習スタイル」 解説 ③グループワーク ・グルーピング ・実習「記者会見」 ・ふりかえり		⑦個人ワーク・グループワーク ・実習「価値観について」 ・ふりかえり ⑧個人ワーク・グループワーク ・実習「ライフポジションについて」 ・相互検討＆解説 ⑨グループワーク ・実習「対人コミュニケーションについて」 ・グループ検討 ・解説
	昼食		昼食
	④グループワーク ・実習「総当たりインタビュー」 ・ふりかえり ⑤グループワーク ・実習「コンセンサスを求めて」 ・実習のふりかえり ⑥本日のまとめ		⑩グループワーク ・実習「課題解決実習」 ・ふりかえり ⑪個人ワーク・グループワーク ・実習「イメージ交換」 ⑫PBLゼミ2023のまとめ ・PBLゼミ2023のまとめ

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計



受講前アンケート

Q1.あなたはこのプログラムに期待していますか？



期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	24	2	16	6	0	0	0
		8.3	66.7	25.0	0.0	0.0	0.0

(上段：人，下段：%)

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

フリーコメント／その理由

【とても期待している】

前回参加して学ぶことが多かったから。
知識を増やせると思うから

【やや期待している】

グループディスカッションの力を高めたいから。
グループワークができ、就職活動に活かせると感じたから。
このような機会はあまりないため
コミュニケーション力が身につくと思ったから。
今後の生活に活かせると思ったため
自己理解、自己分析できたらいいなと思うから。
自己理解に繋がりそうだから。
自己理解を深めることができるとお聞きしたため。
自分自身のことを知ることができそうだから
就職に役立つことがあるかもしれないから
就職に有利になると思ったから
色んな人と交流できるから。
新しいことを学べる
他学科の方とのコミュニケーションをする事により、会話をする技術が身につくから。
他学年他学部とのコミュニケーション
他学部他学科との活動があるから

【どちらともいえない】

あまり内容を知らないから
このようなプログラムに参加したことがないため
何をするかよく分かっていないから
会話やコミュニケーションを学べると期待している。
内容をあまり詳しく知らないから
募集ポスターの情報しか見ていないため

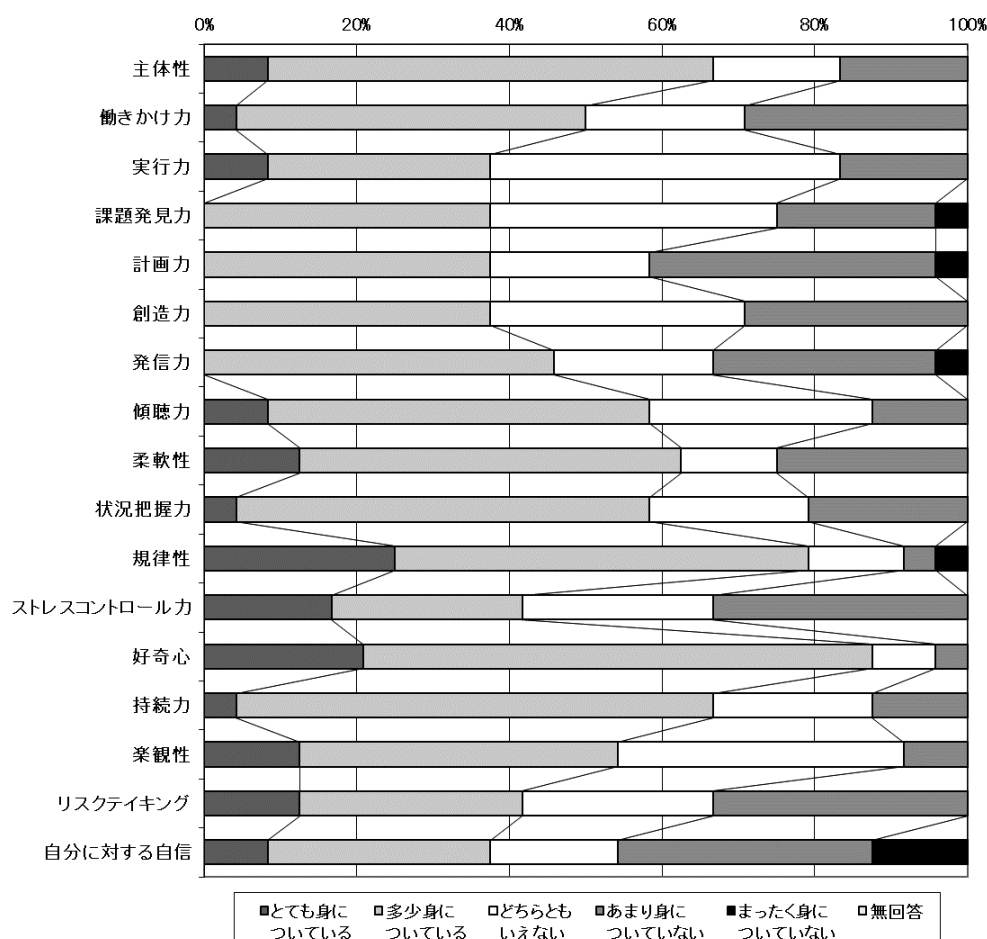
Q2.PBL ゼミに参加を決めた理由をお聞かせください

フリーコメント

おもしろそうだったから
グループワークに慣れたいから。
ゼミの先生におすすめされたから
伊藤先生の紹介からで、率直に興味を持ったため。
学長認定資格のため。
研究室の先生が進めてくださって、自分自身のスキルを高めたいと思ったため。
資格を取りたいから
資格取得に必要だったから
資格取得のため
自己分析できるかなと思ったから。
自分の苦手なことに挑戦して自信をつけようと思ったため
就職に対しての不安が少しでも解消出来るかもしれないと思ったから
就職活動のため。
先生に誘われたから
先生に誘われて
前回と比べて自分が変わったかどうかを確認したいと思ったから。
地域創成メディエーターの資格を取りたいから。
地域創生の資格をとるため
地域創生メディエーターで取る必要があったから
地域創生メディエーターの資格を取りたいから。
地域創生メディエーターの資格を取るため
地域創生メディエーターの資格取得を目指すため
中部だけの資格が取れるから。
調理実習の先生に受けてみないかと言われたから

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q3.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？



(%)

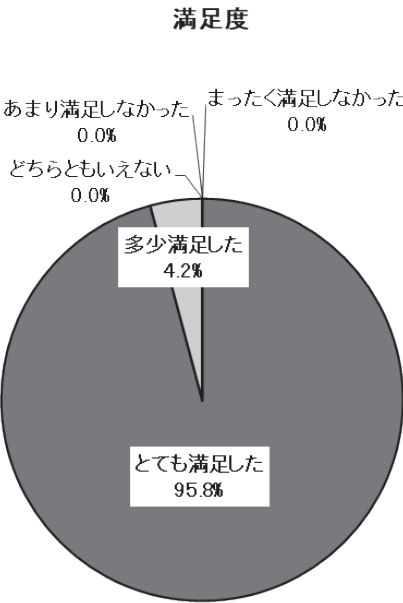
	サンプル数	とても身についている	多少身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	24	8.3	58.3	16.7	16.7	0.0	0.0
働きかけ力	24	4.2	45.8	20.8	29.2	0.0	0.0
実行力	24	8.3	29.2	45.8	16.7	0.0	0.0
課題発見力	24	0.0	37.5	37.5	20.8	4.2	0.0
計画力	24	0.0	37.5	20.8	37.5	4.2	0.0
創造力	24	0.0	37.5	33.3	29.2	0.0	0.0
発信力	24	0.0	45.8	20.8	29.2	4.2	0.0
傾聴力	24	8.3	50.0	29.2	12.5	0.0	0.0
柔軟性	24	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0	0.0
状況把握力	24	4.2	54.2	20.8	20.8	0.0	0.0
規律性	24	25.0	54.2	12.5	4.2	4.2	0.0
ストレスコントロール力	24	16.7	25.0	25.0	33.3	0.0	0.0
好奇心	24	20.8	66.7	8.3	4.2	0.0	0.0
持続力	24	4.2	62.5	20.8	12.5	0.0	0.0
楽観性	24	12.5	41.7	37.5	8.3	0.0	0.0
リスクテイキング	24	12.5	29.2	25.0	33.3	0.0	0.0
自分に対する自信	24	8.3	29.2	16.7	33.3	12.5	0.0



受講後アンケート

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q1. このプログラムに満足しましたか？



満足度		とても満足した	多少満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	まったく満足しなかった	無回答
全体	24	23	1	0	0	0	0
		95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／それはどうしてですか？

【とても満足した】

いろいろな学部や学年の人と楽しく接することができたからです。
いろんな課題に対してグループで考えることができたから。あと、最後のプレゼントカードがとても嬉しかったです。
グループのメンバーと仲良く慣れたから。
グループ活動で、他学部他学科他学年の方とお話ししたり活動できたから。
すごく楽しく、多くの方々とコミュニケーションもしっかり行う事ができたから。
とても楽しく参加でき、新たな自分に気づき自分の為になったと思うから
夏休みこれといって、外に出ることもあまりなく、人と関わることがなかったため、コミュニケーション能力以前に初めて知り合う人たちと話せるか、とても不安でした。しかし、このプログラムのおかげで会話やコミュニケーションが弾み、ゼミ関係以外のことも性別関係なく話せることができました。2日間正直長いなと思っていましたが、気づけばあっという間に終わっており、もう終わりなのかという気持ちです。とにかく、ゼミ内容がとても面白く時間を久しぶりに有意義に過ごせて充実した2日間になりました。
楽しかったから
最初は全く知らない人たちで心配だったけれど、仲良くなってとても楽しく、そして楽しいだけでなく自分を知るいい機会になりました。
自己理解が深まり、不安だった就職に対してどうアプローチするかビジョンを描くことができたから
自分には無い考え方や、捉え方を知ったため。自分の知らなかった一面を知れた。
自分のことや相手のことについて考えることができた。そのことをお互いに話すことによって、より自分の長所・短所について理解でき、自分自身を見つめ直すことができたから。
就職活動に役立つようなコミュニケーション能力やディスカッション力が身に付いたと実感しているから。それと何より楽しかったから。
初めて会う人と充分に交流できたと思います。
初めて会う人と話し合う機会は大学に入ってからなかったので久しぶりに出来て楽しかったのと、色々な話し合いが出来て価値観などの共有ができて1歩人として成長出来たと思ったから。
初めは緊張して不安が多かったけれど、グループのみんなと話せるようになって楽しくテーマに沿って話し合いや発表をすることができたからです。
積極的に意見交流する場があまりなかったので今回の授業で意見を交わす楽しさをしれたから
前回と比べて成長を感じられたから。
他学部の人だったり先輩と話す機会はあまりないので今回色々な人と話せてすごくためになったから。はじめましての人と仲良くなれたから。
多学年とたくさん交流できた
班の人や多くの人とコミュニケーションする力を身につけられたから

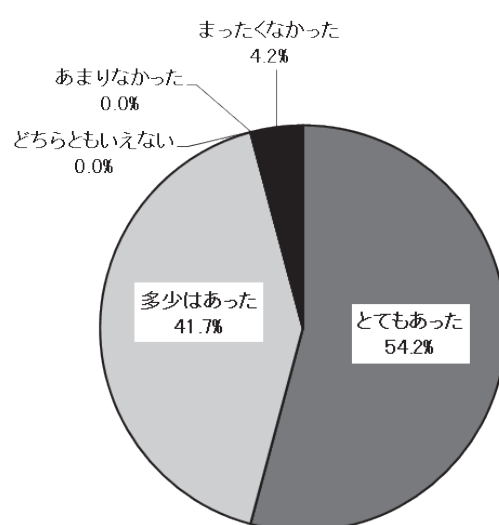
【多少満足した】

自分での挑戦がまだ足りなかった

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？

自分自身への新たな発見



自分自身への新たな発見		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	24	13	10	0	0	1	0
		54.2	41.7	0.0	0.0	4.2	0.0

(上段: 人, 下段: %)

フリーコメント／それはどのような点ですか？

【とてもあった】

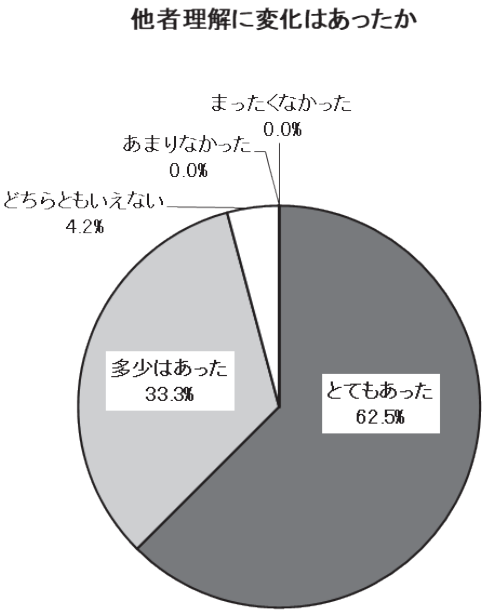
グループを盛り上げることが出来る点
もっと自分に自信をもっていきたいと思えた
意外とファシリテーターのような力があると気づけた点。
何かをやる時はとりあえず挑戦すること。しかし、その後のことを考えてないで行動することが多いので、これらについて見つめ直そうということを思ったから。
緊張感のある話し合いの場での発言が弱い
今回は、様々な学科からの方々が多く 普段あまり喋らない方とも会話をする事により その方の特徴をより知ることができた。
私は、ある程度仲良くなった人以外あまり心を開かないタイプの人間だと思っていましたが、そうでもなく、自分は意外にも初めて会った人でも、心を開く、会話が好きな人間だったということです。
私自身は、人前で話すことが苦手だと思っていましたが、意外と喋られるなあと思いました。
視点が新しいだったり、説明が得意だったり自分だけでは気づけなかった長所を見つけることができた。
自覚できなかった自分の性格を理解することができたから。
自分が気づけなかった新しい点
討論が上手だと言ってもらえたこと

【多少はあった】

みんなの考えを聞いてから自分の考えを新たに考える力があんまりないと感じました。
安心感があることや、話し上手と言ってもらえたこと。
以外と話せること
自分はこういう人だということを再認識できた。
自分は発言の内容は良いけど、それを積極的に発言出来ていないと言う点です
笑顔が素敵でしたと言ってもらえたことです。
場の雰囲気をもるくする力があるとわかった。学年関係なく、話をするなどコミュニケーション能力があった。
先輩としてリーダー的な行動をしないといけないと思い、してみたところ、みんな頼りにして慕ってくれて、自信に繋がりました

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？



他者理解に変化		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	24	15	8	1	0	0	0
		62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／それはどのような点ですか？

【とてもあった】

2 日間でメンバーと意見を交わす中で他の人がどんな考え方をするのか知りたくなった
以前では相手の毛嫌いしていた鈍臭い行動や、なぜその結論に至ったかの考え方が理解できなかったが理由があって、そして、その行動にも良い点があるとしたこと
一人一人個性は違う中でも共通するところはいくつかあったから。
見た目では計り知れないということをととても理解することができました。関わってみると違う側面が見えてとても良かったです
私と同じような考え方の人もいればまた逆の人もいて色々な考え方の人がいるんだと改めて実感できたから。自分とは違う意見を聞いたから。
初めて会う人でこんなに深く話し合いをすることはなかったのでこうゆう人なのかなと気づきながら話し合いができました。
初回は、皆さん笑顔が少なく表情が固かったのですが、グループディスカッションを通して会話したことにより表情が柔らかくなり 穏やかで楽しく過ごせていたので、やはり グループディスカッションを通して会話することは改めて必要な事だと感じました。
人それぞれに適した関わり方があるからそれを模索しながら人と交流することが大切であると感じた。
相手になにか伝えるや、相手が話してる感じを観察した点
相手を知ると、私が知らない知識などを教えていただいたり、いろいろなことを知れてとても良かったです。
第一印象から分からないことがたくさんある
長所やそれが生きる環境などは人それぞれで、グループ活動をする時はこの二つを見極めて役割分担していきたいと思う。
話の聞き方をもっと気をつけようと思った。

【多少はあった】

このプログラムで今まででは体験したことのないような人との関わり方ができたからです。
意識して他の人たちの話を聞くと、自分の趣味に似ている人がいたり、仲良くなりやすいことがわかった。
自分には思いつかない考え方や、価値観に触れたため、自分の視点が広がったように感じた。
自分の意見だけでは達成出来ないことが多く、他者の意見を聞くことが重要だとわかった。自分にはない考え方や、ひらめきに知れた。柔軟な考え方ができるようになった。
相手の意見をより考えること
相手の良いところがわかる。

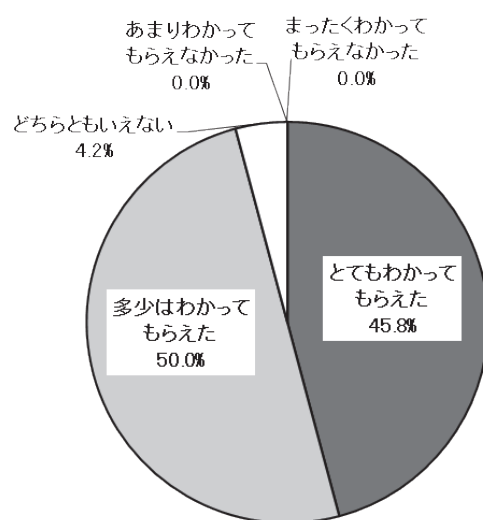
【どちらともいえない】

相手のを知ろうとするのはいつもの事だけど視点が変わったのかな？とも思うからよく分からない
--

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q4.このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？

自分のことをわかってもらえたか



自分のことをわかってもらえたか		とてもわかってもらえた	多少はわかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	まったくわかってもらえなかった	無回答
全体	24	11	12	1	0	0	0
		45.8	50.0	4.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／どのような点ですか？

【とてもわかってもらえた】

グループでの話し合いでも意見を言えば、みんな共感してくれたり、考えてくれたため気持ちがよかった。
グループメンバーにたくさん賞賛してもらえたこと。
もう少し主張してもいいというところ。
最後のプレゼントカードで話してくれたことがわかってくれたなと感じる内容でした
自分が理想とする自分を、あなたの持ち味だと言うと貰えたから
自分では気づけなかった部分を他のみんなが気づいてくれたこと
自分の行動を見て沢山アドバイスや褒めてくれたこと
笑顔を意識して2日間コミュニケーションを行っていたので、最後の手紙で笑顔についての内容が書かれていた時はすごく達成感がありました。
明るい所

【多少はわかってもらえた】

あまり人に言ってこなかったような話をしても、受け入れてもらえたり、笑ってもらえたこと。
ジョハリの窓の時に嬉しいことをたくさん言ってもらえたこと
結構周りを気にしてしまって自分の意見を積極的に言えないことかなと思いました。
考えてから話すためペースが遅くなること
今まで言われたことがあることをプレゼントカードで言ってもらえたからです。
自分の思っていることと相手を感じたことが被っていたり、逆に私が感じないけど相手から思っていることがあることがわかったから。
自分の性格だったり、強みだったりの肯定的な点です
自分はよく聞き上手だと思うのでそれを最後に褒め合う時に言ってもらえたので分かってもらえたのかなと思う
周りをよく見て話しやすい雰囲気を作る点。持ち前の明るさを活かしていた点。あまり自分から言わないような部分にも気づいてもらえたため、人と話すことは自分のことを知ってもらうためにも大切であると分かった。
発言はできるだけしていたが自己開示が足りない部分もあったと思うから。
話し合いでの自分の発表の感じや考えなどは分かってもらえたと思った。

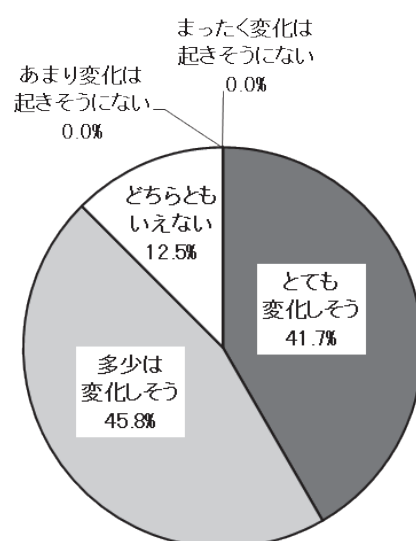
【どちらともいえない】

自分の意見を話した点

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q 5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？

授業への取り組み姿勢の変化



授業への取り組み姿勢の変化		とても変化する	多少は変化する	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	24	10	11	3	0	0	0
		41.7	45.8	12.5	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／どのような変化ですか？

【とても変化しそう】

グループワークに積極的に取り組みそう
コミュニケーションをとる授業は今回培ったことを活かしてだいぶ楽になりそうです。
これから先、就職活動多く始まるので 今回学んだ会話の仕方や人との付き合いかたを 参考にして就職活動を行えば良いと感じました。
これから話し合いの時に積極的に意見を出せそう。
ディスカッションの際積極的に参加しようと思った。
今回のよくなかった点や弱点をもとに行動できそう
自分なりの考え方を分かりやすく説明し共有するなど長所を活かすようにしたいと思う。
目の前のことに真剣に取り組み、周りと協力しながら取り組みたいと思った。
話の聞き方。

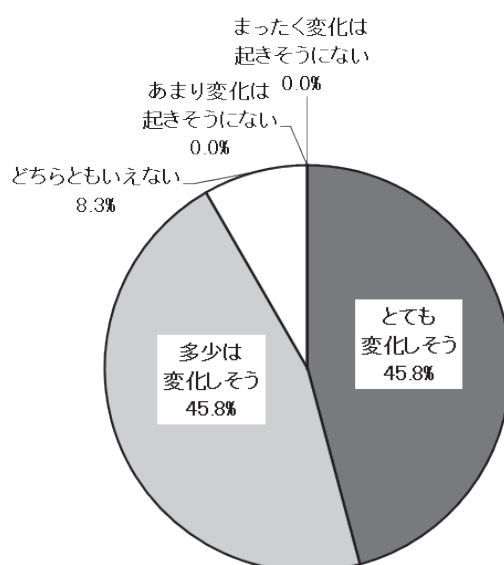
【多少は変化しそう】

いろんな人と関わることができたから慣れたんじゃないかなと思います。
意欲的に受けられそう
頑張ろうと思います。
自分の意見にこだわることなく、周りの意見を聞くようにしたい。また、先生にすぐ助けを求めるのではなく、 周りと協力して問題解決に取り組みたい。
自分の意見をもっと出してもいいかなと思いました。
実験などで同じ班になった人とも仲良くなる方法の一つを見つけられた気がします。
積極的に意見を言うこと
討論を積極的に参加できるかなと思う
特にグループワークの授業は、仲間と協力し、頑張りたい。

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？

今後の学生生活の変化



今後の学生生活の変化		とても変化する	多少は変化する	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	24	11	11	2	0	0	0
		45.8	45.8	8.3	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)



【とても変化しそう】

まだ話した事ない人とも積極的に交流していきたい。

もっといろいろなことに挑戦しようと思った。

もっといろんな人と話すことに挑戦してみようと思う

もっと多くの人と話したいと感じた

今回の学んだ経験を意識して学校生活に取り組みたいと思うので、そういった事から多少変わって来ると思う。

上で答えたとおりになると思います。

人とどうやって話せば楽しく話せるかがわかった気がしたので初めましての人でもこれからは話しかけに行けそうと思いました。

人との接し方

他人の長所や個性に注目しそれを活かしたグループ活動を行ったり自分が気付いたことを教えてあげたりするようになると思う。

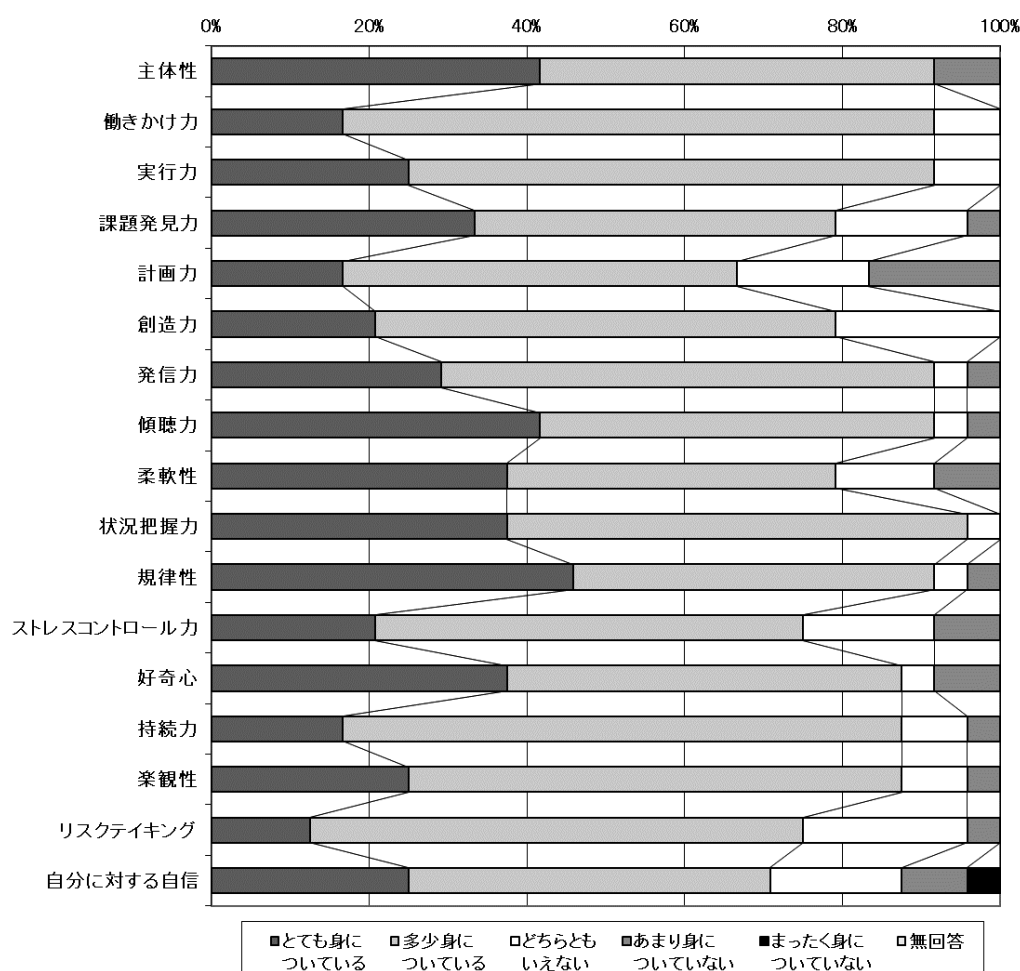
話の聞き方。

【多少は変化しそう】

いつも自分でやらなきゃと考えていたが、時には周りを頼り、他の視点から物事を捉えることも大切だと気づいた。
グループワークへの取り組み方
もっと色々な人と交流したいと思った。
もっと沢山の人のに関わり、友達を増やしたいと思いました。そして、もっと自分をオープンにしたいと思います
楽しく笑顔で過ごそうと思いました。
講義の席が近い人とも話してみようかなと思います。
色々な人と交流したい
他人の考えをひきだそうとすること
不安ばかりだった PBL ゼミをやり遂げたことに自信がついてこれから学校で発表があってもちよっとは自信を持って伝えることができると思います。

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

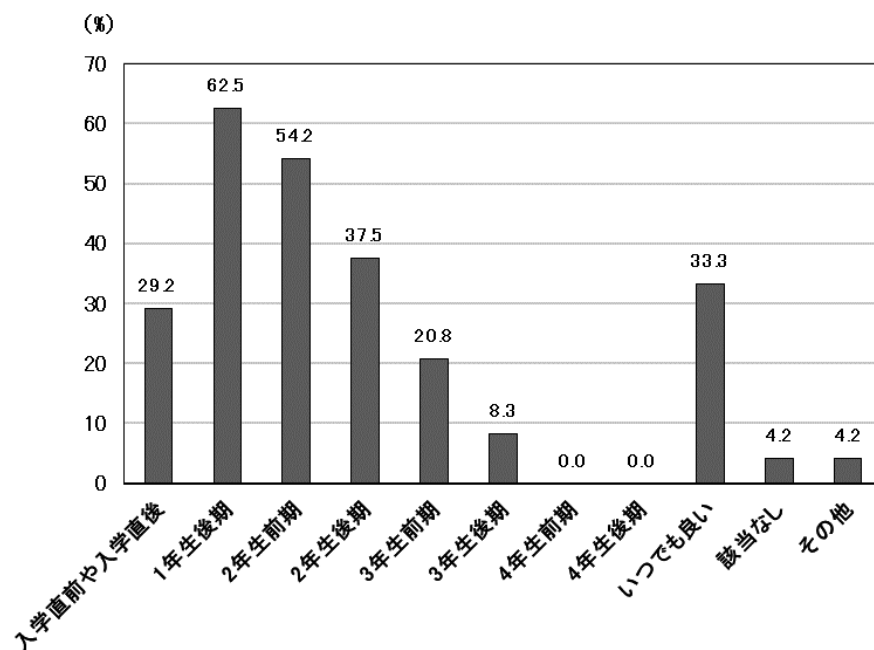
Q7.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？



(%)

	サンプル数	とても身についている	多少身についている	どちらともいえない	あまり身についていない	まったく身についていない	無回答
主体性	24	41.7	50.0	0.0	8.3	0.0	0.0
働きかけ力	24	16.7	75.0	8.3	0.0	0.0	0.0
実行力	24	25.0	66.7	8.3	0.0	0.0	0.0
課題発見力	24	33.3	45.8	16.7	4.2	0.0	0.0
計画力	24	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0
創造力	24	20.8	58.3	20.8	0.0	0.0	0.0
発信力	24	29.2	62.5	4.2	4.2	0.0	0.0
傾聴力	24	41.7	50.0	4.2	4.2	0.0	0.0
柔軟性	24	37.5	41.7	12.5	8.3	0.0	0.0
状況把握力	24	37.5	58.3	4.2	0.0	0.0	0.0
規律性	24	45.8	45.8	4.2	4.2	0.0	0.0
ストレスコントロール力	24	20.8	54.2	16.7	8.3	0.0	0.0
好奇心	24	37.5	50.0	4.2	8.3	0.0	0.0
持続力	24	16.7	70.8	8.3	4.2	0.0	0.0
楽観性	24	25.0	62.5	8.3	4.2	0.0	0.0
リスクテイキング	24	12.5	62.5	20.8	4.2	0.0	0.0
自分に対する自信	24	25.0	45.8	16.7	8.3	4.2	0.0

Q 8. 今回のようなプログラムはどんなタイミングで受講するのが良いと思いますか？（複数選択可）



受講時期	件数	%
入学直前や入学直後(1年生前期)	7	29.2
1年生後期	15	62.5
2年生前期	13	54.2
2年生後期	9	37.5
3年生前期	5	20.8
3年生後期	2	8.3
4年生前期	0	0.0
4年生後期	0	0.0
いつでも良い	8	33.3
該当なし	1	4.2
その他	1	4.2
サンプル数(%ベース)	24	100

『PBL ゼミ 2023』アンケート集計

Q9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント(Q1の満足度別)

【とても満足した】

すごく楽しく教えて下さり 内容も理解しやすかったのでよかったです。
すごく優しい
とても、学べることが多い、楽しい授業です。
とても分かりやすく楽しかったです。
とても優しい雰囲気先生で、良かったと思います。
とても優しく時間もしっかり生徒を見ながらとってくれた
とても和やかな雰囲気プログラムを進行して頂いたため、楽しく参加出来ました。 ありがとうございました。
学生に伝えるにはどういう話し方がいいかなというのをわかっていた感じがしてとてもわかりやすい説明でした。
次は何をするのか常にドキドキした感じでした
自由に話し合いをさせていただいたりなにかに縛られた感じがせずに楽しく受講できてとてもよかったです。
質問に対してめっちゃ分かりやすく答えてくださったり優しく接していたのでとても PBL ゼミを不安なく受けやすかったです。
説明がわかりやすく、聞き取りやすい声で話して下さって助かりました。
説明が分かりやすく、すぐに理解することができた。気軽に話しかけることができたので、とてもよかった。
優しく、教えて下さってとても嬉しかった。自分のことを話しやすかった。
優しく話しやすく、面白い講義ばかりでした。二日目遅刻してしまい、すみませんでした。二日間ありがとうございました。とても為になる良い機会でした。参加して本当に良かったです！！
話しやすい雰囲気を感じた
話し方がゆっくりだったのですごく聞き取りやすかったです。

【多少満足した】

とてもわかりやすい説明でよかったです

Q10. この授業について感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント(Q1の満足度別)

【とても満足した】

1人で行う作業より、グループでの作業が多かったと思うので、初めての人と話すことや人の話を聞く力を高められたと思いました。

グループディスカッションという事でほとんどグループ内のみでの交流でしたが、個人的には他グループとの交流もしてみたかったと感じました。

この授業を受けて、人付き合いについて考える良い機会だと感じました。ぜひいろんな学年が集まって行われると楽しいと思います！

これから先就職活動に活かせるように頑張りたいと思います。

意見をもっと言おうと思った

一二年生は積極的にいくべし

楽しかったってのが1番に思いつくけど、未知の事をすることができて楽しかったです。

貴重な経験をありがとうございました。

最初は初めましての人とグループになるなんて全然話せないと思っていたけど今回結構話することが出来て自分にもっと自信をつけることが出来たのでグループワークは大切だなと感じました。

参加するのを迷っていたが、参加して良かった。自分を変えるきっかけになった。

自分自身について知るという機会はなかなかないことなのでとても興味深いものでした。また、コンセンサスを生み出す力についての講義では、みんなで話し合うことの大切さを数値化して知ることができて一番面白かったです！

受けてよかったです。ありがとうございました。

初めて会う人とグループワークする機会がなく心配だったけど、みんな良い人ですごく楽しくて、とても良い経験になりました。

色々なテーマに沿って話し合いや発表をする機会がなかったからとてもいい機会でした。自分自身のことでも改めて知ることができたので良かったです。

新しい交流ができて新鮮でした。ありがとうございました。

他学部他学年となかなか接する機会がないので、そういった経験を楽しくできそして自分を成長させることが多少はできたと思うのでこのゼミを受けて本当に良かったと思いました。

聞くばかりの授業では無いのでとても楽しく参加出来ました

【多少満足した】

2日間の時間がとてもよかった

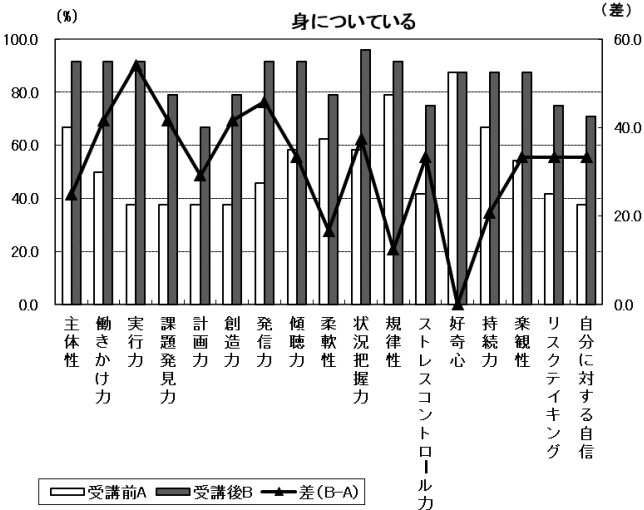
『PBL ゼミ 2023』アンケート集計



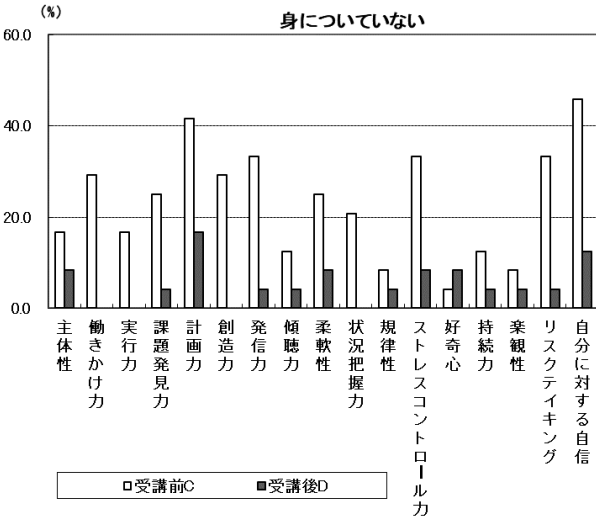
受講前・受講後比較

<社会人基礎力>

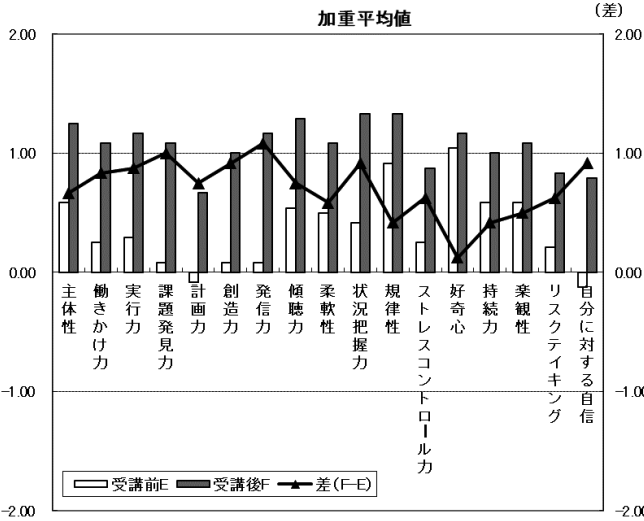
Q.以下のそれぞれの力や姿勢について、現在の自分にどの程度身についていると思いますか？



	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	66.7	91.7	25.0
働きかけ力	50.0	91.7	41.7
実行力	37.5	91.7	54.2
課題発見力	37.5	79.2	41.7
計画力	37.5	66.7	29.2
創造力	37.5	79.2	41.7
発信力	45.8	91.7	45.8
傾聴力	58.3	91.7	33.3
柔軟性	62.5	79.2	16.7
状況把握力	58.3	95.8	37.5
規律性	79.2	91.7	12.5
ストレスコントロール力	41.7	75.0	33.3
好奇心	87.5	87.5	0.0
持続力	66.7	87.5	20.8
楽観性	54.2	87.5	33.3
リスクテイキング	41.7	75.0	33.3
自分に対する自信	37.5	70.8	33.3



	身についていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	16.7	8.3	-8.3
働きかけ力	29.2	0.0	-29.2
実行力	16.7	0.0	-16.7
課題発見力	25.0	4.2	-20.8
計画力	41.7	16.7	-25.0
創造力	29.2	0.0	-29.2
発信力	33.3	4.2	-29.2
傾聴力	12.5	4.2	-8.3
柔軟性	25.0	8.3	-16.7
状況把握力	20.8	0.0	-20.8
規律性	8.3	4.2	-4.2
ストレスコントロール力	33.3	8.3	-25.0
好奇心	4.2	8.3	4.2
持続力	12.5	4.2	-8.3
楽観性	8.3	4.2	-4.2
リスクテイキング	33.3	4.2	-29.2
自分に対する自信	45.8	12.5	-33.3



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.58	1.25	0.67
働きかけ力	0.25	1.08	0.83
実行力	0.29	1.17	0.88
課題発見力	0.08	1.08	1.00
計画力	-0.08	0.67	0.75
創造力	0.08	1.00	0.92
発信力	0.08	1.17	1.08
傾聴力	0.54	1.29	0.75
柔軟性	0.50	1.08	0.58
状況把握力	0.42	1.33	0.92
規律性	0.92	1.33	0.42
ストレスコントロール力	0.25	0.88	0.63
好奇心	1.04	1.17	0.13
持続力	0.58	1.00	0.42
楽観性	0.58	1.08	0.50
リスクテイキング	0.21	0.83	0.63
自分に対する自信	-0.13	0.79	0.92

② サマースクール 2023 in 郡上

COC+参加大学共通プログラム サマースクール2023 in 郡上

参加者 募集！

参加費：無料
募集人数：40名

現地フィールドワーク(1泊2日)
令和5年8月24日(木)～25日(金)

成果発表
令和5年8月31日(木)

合計3日間

郡上の企業に 人を呼べ！

5大学(※)で開催するサマースクール。今年の協働先は郡上市の企業の人材確保をサポートする「郡上市雇用対策協議会」。現役大学生の目から見て、郡上市や市内企業のどんなところが魅力的なのか、その魅力を就活生に届けるにはどうすれば良いのか、アイデアを大募集！

※岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学

ポイント

- ①複数の大学からの参加者で混成チームを結成。
- ②郡上市の企業を直接訪問&インタビュー。
- ③「郡上市雇用対策協議会」でできる企業サポート企画を提案。
- ④優秀な提案には市長賞&副賞も！
- ⑤郡上踊りも体験できます♪

詳しい行程&申込方法は
裏面をご確認ください！

【サマースクール2023in郡上 主旨説明】

5つの大学（岐阜大学・中部学院大学・中部大学・日本福祉大学・名古屋学院大学）で構成されるぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加の試みを実施しています。それぞれの大学で教育プログラムを展開している他、5大学共通のプログラムとして開催しているのがサマースクールです。

今年のサマースクールは郡上市雇用対策協議会とタイアップしての開催となりました。郡上市の企業が人材を確保するにはどうすれば良いのか、現役大学生のアイデアを形にしてください。地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域将来を考えることで、地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

参加費

0

円 ※1日目昼食、集合場所までの交通費は自己負担。

行程

8月24日（木）現地見学（郡上八幡市内で自由昼食）

宿泊先：せせらぎ街道の宿たかお。夜に郡上踊り見学。

8月25日（金）インタビューとグループワーク

8月31日（木）成果発表会と表彰

※より詳細なプログラムは後日参加者に通知します。

参加人数

40

名程度（5大学合計）

申込締切

2023年8月2日（水）

【申込方法】

QRコードから申し込みフォームに登録してください。

申込書を提出する場合は、地域連携センターまで（キャンパスプラザ2階）。

申込締切：8月2日（水）



氏名				学年	
学籍番号				学部・学科	
携帯電話				メールアドレス	
集合場所 (1・3日目)	郡上市役所 ・ JR岐阜駅前 JR岐阜駅前からはバスで移動します。 ※状況によりフィールドワーク（現地実習）ができない場合は日程等を変更する可能性があります。				
その他 (アレルギー、配慮事項など)					

記載いただいた情報は、サマースクール2023以外の目的に使用しません。

問い合わせ先 | 中部大学地域連携センター（キャンパスプラザ2階）担当：養島・羽山・上甲

メール：chiiki@office.chubu.ac.jp 電話：0568-51-9872

サマースクール 2023in 郡上について（報告）

1. 概要

全体テーマ：郡上の企業に人を呼べ！

実施日：2023年8月24日(木)-25日(金)（1泊2日）、31日（木）

見学先企業4社

Aコース：アサヒフオージ(株)白鳥工場、介護老人福祉施設アットホームしろとり

Bコース：(株)大西組、郡上大和総合開発(株)

参加者学生：29人

【内訳】岐阜大学8人、中部学院大学1人、中部大学7人、日本福祉大学5人、名古屋学院大学8人
表彰：

○参加学生全員に修了証（成原統括事業推進コーディネーター名）を授与。

○市長賞と雇用対策協議会賞には、副賞を授与。

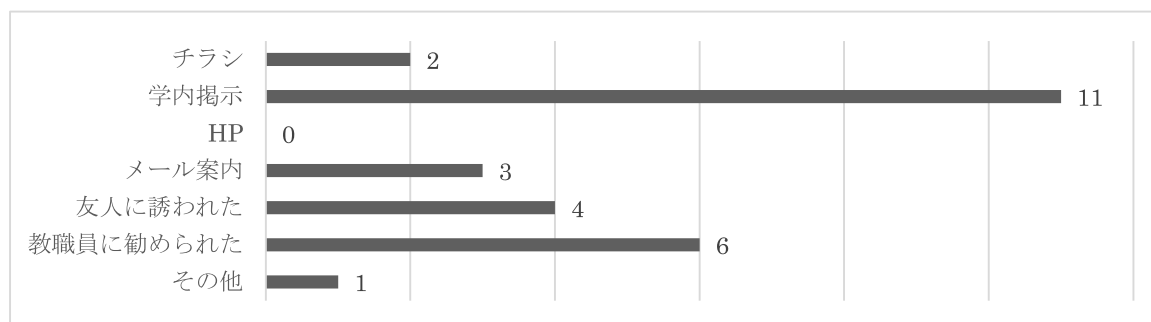
2. 学生アンケート結果（回答数 21（回収率 72%））

1. 回答者について

(1) 所属大学：岐阜大学6、中部学院大学1、中部大学3、日本福祉大学4、名古屋学院大学7

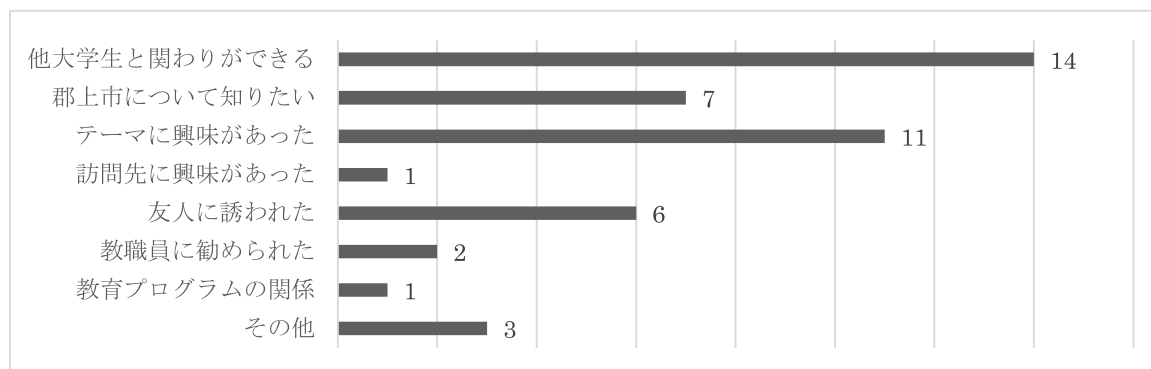
(2) 参加コース：A11、B10

2. どのようにしてサマースクールを知りましたか（複数回答可）



【その他の記述内容】バス停

3. 参加しようと思った理由は何ですか。（複数回答可）



【その他の記述内容】

- ・郡上踊りがみれるから
- ・話し合いのスキル向上のため
- ・地域創成メディエーターの資格取得に向けて良い機会だったから。

4. 郡上市について

(1) 今回のプログラムを通して郡上の魅力を感じましたか？



(2) また郡上を訪れたいと思いますか



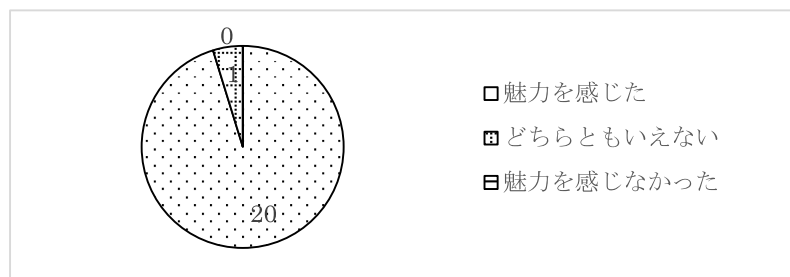
(3) 特に印象に残った郡上の魅力があれば教えてください（回答 21 件）

1	穏やかな雰囲気の人が多いです。
2	郡上踊りは若い人も多かったが、観光客と見られる人も参加していて、この伝統的行事を魅力あるものだと感じていることに驚いた。
3	町並みがきれいで、踊り下駄など郡上踊りならではの店が街のいたるところにあって趣深かった。
4	郡上踊りに参加したことを通し、色々な人を受け入れてくれる人の優しさや伝統ある行事の楽しさが魅力だと感じました。
5	郡上踊りの全体が一体となっている郡上ならではの雰囲気
6	初めて行ったので、想像よりずっと町並みがよく歴史・地理好きとしては興味をもった。
7	まちなみや郡上踊りの際の風景、時間がどのかに流れている雰囲気
8	都会にはない郡上の自然の雰囲気が味わえたこと
9	夏なのに涼しい！観光地だけど人であふれかえっていない。1日目に地元のおばちゃんに話しかけたところ、親切にお店を教えてくれて人の温かさを感じました。
10	郡上踊り
11	あゆの塩焼きや郡上踊りが魅力的に感じた。
12	郡上踊りと郡上の町並み
13	郡上踊りの体験が特に印象的でした。地元の雰囲気や一緒に参加することで、地域と一体となっている実感が湧いて、このような地域の人々と密接に関われるようなキャリアも考えてみたいと思いました。
14	郡上踊り、町の一部区画を踊ることが新鮮だった。
15	郡上踊りの雰囲気
16	郡上踊りを生で初めてみて圧巻だった。

17	郡上市の町並みが好きでした！たくさん見られなかったのもまた来たいです。
18	郡上踊りがとても楽しくて、一緒に参加した友人とまた来たい！と言っていた。道の駅がとても素敵だったので、見る時間があまりなかったのもまた来たい。
19	郡上踊りでみんなで参加したことがとても楽しかったです。
20	他の類似地域にはない空気感、川がきれい、中心部であればあまり生活が苦にはならない
21	自分が思っていた以上に若者が働きやすい環境が整えられていた。

5. 郡上の企業について

(1) 今回のプログラムを通して郡上の企業の魅力を感じましたか？



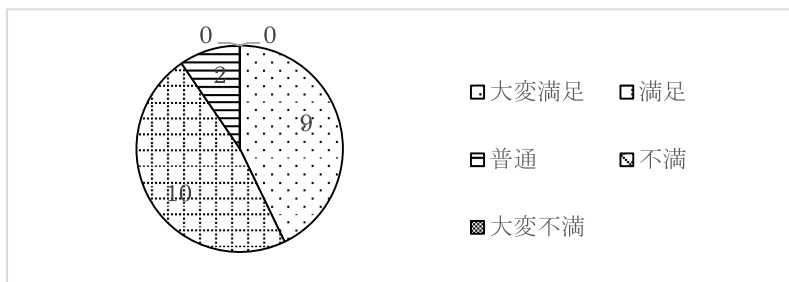
(2) 特に印象に残ったことがあれば教えてください。(回答 21 件)

1	初めて知った企業ばかりだったのですが、私が考えていたよりもワークライフバランスや福利厚生が充実したことです。
2	どの企業も保障の面がしっかりしていると感じた。
3	福利厚生が充実していて働きやすい環境づくりが積極的に行われていたこと。
4	郡上市の企業に就職したときの特典や支援の存在を知り、働きやすい環境づくりやイメージチェンジなどの取り組みが特に印象に残りました。
5	企業努力の懸命さ、3K→3Cへ、福利厚生の手厚さ等
6	そもそも企業の人々がもっと郡上に人を、と思って前向きにしているところが良かった。
7	訪問先の企業がどちらも地元愛にあふれていたところ
8	郡上の企業を通して今まで自分の考えにないことを知れたこと
9	大西組さんなどは絶賛成長企業であったり、大和総合開発さんはJICAの活動など郡上を飛び出して活躍されていて、自分が出身ならぜひ残りたい、Uターンで戻ってきたいと思いました。
10	郡上大和総合開発
11	働きやすそうな環境であったり、人の良さを感じることができた。
12	～があるから就職したいということ。
13	獲得した利益を人々に還元しているという部分が印象に残りました。互いにきちんと利害の一致がみられるという点では、自分の理想の働き方に加えてみたいと思います。
14	道の駅の開発について、アイデアがお金になるという話が興味深かった。
15	どの企業も人を呼ぶための努力を感じた。
16	どの企業も郡上を浴しようという気持ちが伝わってきました。
17	私自身アパレル業界に就職が決まり、就活もそういった企業をメインに見てきたため、介護や製造のイメージというのが浮かびませんでした。今回の活動を通して企業努力を感じられました。
18	とくに大西組さんは建設のイメージが大きく変わった。福利厚生や職場環境がしっかり整っていて、こんな企業に就職したいなと思った。
19	福利厚生がしっかりしていて、働きやすそうだなと思いました。また、町並み・ご飯・伝統など魅力もたくさんありました。ただ、車がないと不便そうだなとも感じました。
20	国外に工場を持つ企業があることは知らなかった。恒常性のある企業戦略に魅力を感じた。
21	1人1人の強みを生かした働き方ができるという点（特に道の駅）が印象に残った。

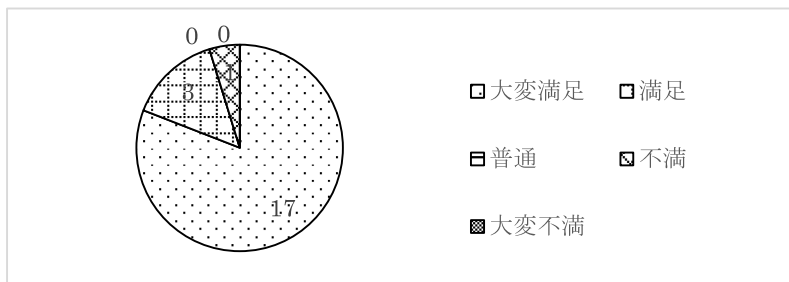
6. プログラム満足度を教えてください。

【全体プログラムについて】

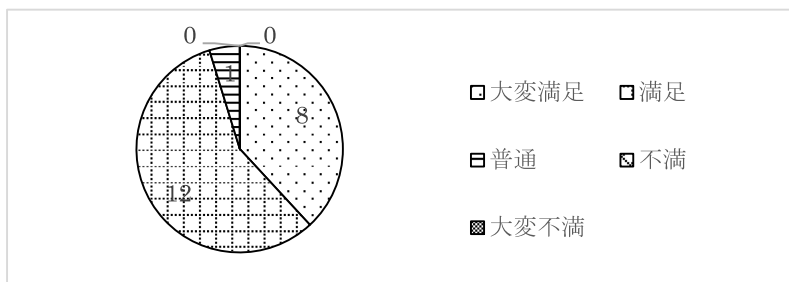
(1) 全体



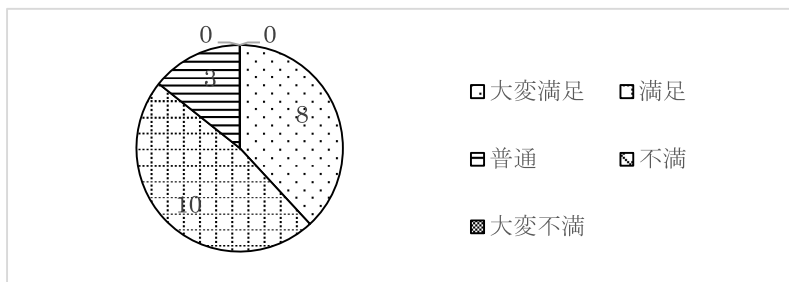
(2) 1日目



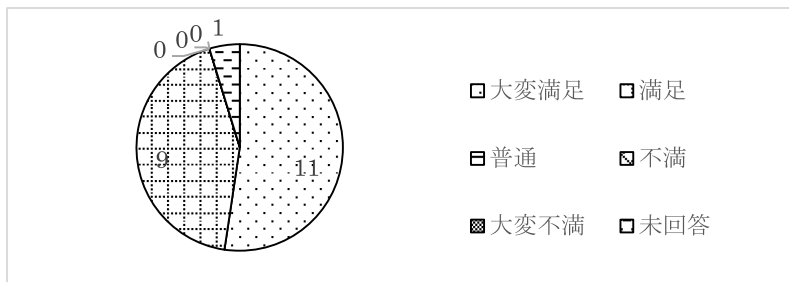
(3) 2日目



(4) 3日目

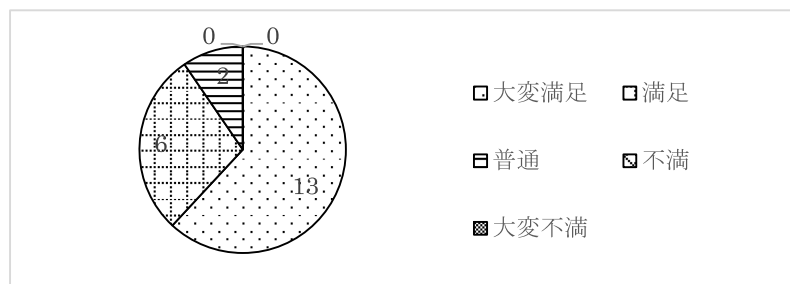


(5) 教職員の関わり

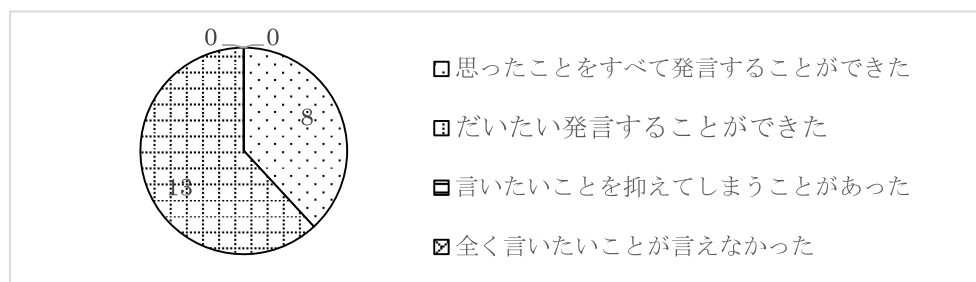


【グループワークについて】

(6) チームの雰囲気



(7) グループワークは十分に発言することができましたか



(8) 自チームの提案について、自分ではどう評価しますか？（100点満点で何点をつけますか？）

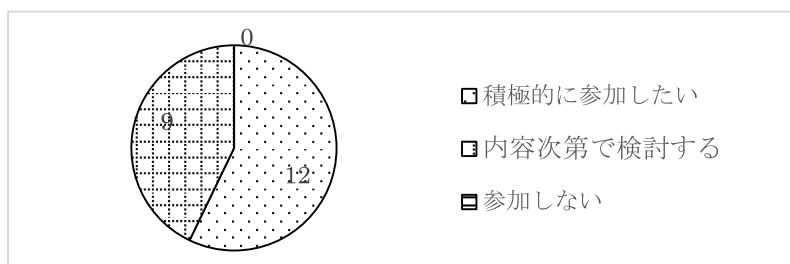
点数	評価コメント
100	私はなかなか良い提案をすることができなくてとても申し訳ない気持ちになったのですが、外国人を呼び込むという難しい問題に対して SNS 等ではなく企業と提携を結ぶという独創的な発想はとても良かったと思います。
80	アドバイスなどもしっかりテーマと結び付けられるまで話せた。発表時は1人だったが、全員が内容を共有できていたのでしっかりと伝えられた。
60	2日目のグループワークの際に他の人に意見を任せてしまうことが多かったし、企業インタビューで積極的に質問できなかったから。
78	ポイントとなる4つの観点（しおりにある）に目を向け、魅力をどうアピールしていくか、またそれをどう就職者増加につなげるかを考えることができた。
90	皆平等な仕事量で行えた。
90	夜遅くまで意見を詰めてたくさんの意見交換を積極的に、みんなが発言できた。私が発表でかみすぎた。
90	自分たちで調べて自分たちの率直な意見を提案にまとめることができたところが良かった。
100	お互いが意見をしっかり言い合うことができ、自分にはない考え方をたくさん知れたこと。とにかくチームのみんなが良かった。
100	他のチームとは経路の違う提案をできたことが良かった。データなどを細かく分析して根拠を以て喋れたことが良かった。
100	質問がなかったものの、問題の解決に対して正確な理由とともに提案できていたと考える。
100	質問も少なく、根拠もしっかりしていたと思われる。
80	短い時間でも行政や企業に提案できたかと。
80	自分の発現を言うことはできたが、それがきちんとグループ内に伝わっているかどうかという部分まで確認しきれなかったので、今後の改善点にしていきたいです。
70	データや数字、具体性が少し足りなかった。
70	もっと内容を上手にパワーポイントにまとめることができたと思う。
80	最初はばらばらの意見であったため、2日でまとめまでいけるか不安でしたが、いい提案ができた

2 活動報告

	と思います。
70	円滑に進めることができ、アイデアを出しきることができました。
70	少しまとまりがつけられなかったかなという部分もあったので、もう少し議論したかったです。
70	自分たちの言いたいこと考えたことを上手くまとめることができたと感じました。
64	自身の活動外の時間を活用できなかった。
80	わりと現実的かつ郡上の強みである観光を活かす取り組みを提案することができたと思う。ただ、忙しい時期に人が足りなくなるということをあまり想定できていなかった。

(平均自己評価：82 点)

7. 今後も同様の企画があれば参加したいですか



8. その他気づいたことや感想、意見等、ご自由にお書きください。(回答 15 件)

1	散策の時間がもう少しあると嬉しいし、郡上の魅力をより知れると思います。
3	同じ岐阜県内のことだけど郡上のことについて深く知る機会が今までなかったので、今回のサマースクールを通して郡上の魅力や課題について知ることが出来て良かったです。
4	私は岐阜県民ですが郡上市のことをあまり知らなかったもので、今回のサマースクールを通し課題や良さを知ることができたという点がまず一つ目の成果です。お店が立ち並ぶ場所ではチェーン店とは違う良さ（ここならではの食材、昔ながらの雰囲気）を感じられ、友人ともプライベートでまた訪れたいと話しています。今度は夜通しで郡上踊りに参加したいです。
5	このサマースクールがなければ郡上について真剣に考えることもなかったので貴重な経験ができて良かったです。ありがとうございました！
6	また来たいです。できれば班の子と。
7	地域課題の重度さや、人手不足の現状について知るきっかけになりました。郡上に今度は観光客として来たいと思います。
8	郡上の観光などの時間が欲しい。
9	もっと観光したかったです！2日目がずっと考える時間だったので、息抜きにでもみんなで外に出るのもどうでしょうか。郡上踊りは1時間があっという間に過ぎていきました。他大学の人から普段は得られない刺激を受けて今後の活力になりました。ありがとうございました。
11	グループの仲も最高だったし、美味しいものもたくさん食べれたので良かった。また、自分の意見も言う機会もあったので大満足です。ありがとうございました。
12	大学の方で無料で1泊2日郡上でプロジェクトがあるよと聞いて参加しました。他大学の人と交流を得て、自分では気づけなかった学びが多くあり、満足できました。3日間ありがとうございました。
13	時間が短く、話し合いが深い部分までたどりつくことができなかったため、もう少し話し合える時間があつたら良いと思いました。他大学、た学年の人たちとグループディスカッションする機会はなかなかなかったので、良い経験ができました。
14	実際に体験したことよりも調べてみて発見した郡上の観光地もあった。プレゼンでは体験したことより

	もネットや大体の予想で作った部分も多く不安だった。
15	グループワークでは各大学がちらばっており知らない人と会話する機会ができたが、休み時間や宿舎では各大学ごとにかたまってしまっており、より仲を深めることができなかったと思う。
16	計 3 日間のプログラムで大学や学部の違う子たちと一つの問題に取り組むという体験は貴重で参加して良かったです。
17	昨年同様、新しい発見ができて楽しかったです。ありがとうございました！
19	同じ大学の方（今まで会ったことなかった方）と仲良くなることができて嬉しかったです。もっと 1 日目のように体験がたくさんできると、もっと楽しくなりそうだなと思いました。

以上

3. 新聞記事

中部大生地域結ぶ活動



中部大（春日井市松本町）の学生が地域の課題などに主体的に取り組んだ活動の成果発表会が十六日、同大であった。学生たちは行政や団体と協力した地域防災、育児などの活動を振り返り、「他人と協力する力が身に付いた」などと報告した。

さまざまな人と関わりながら課題解決の力を養う同大の人材育成プログラム「地域創成メデイエーター（仲介者）」の一環で、この日は四人の学生が登壇。地域防災を支援する団体と

自身を取り組んだ活動の成果を報告する学生＝春日井市松本町の中部大で

防災や育児など成果発表会

協力し、春日井市のまちの模型を使って水害の危険性や避難方法を伝えたり、こまきこども未来館（小牧市小牧三）で幼児向けのプロジェクトマップ作成したりしたことを報告した。

学生たちは「行動力、コミュニケーション、事前準備のスキルが向上した」などと自己分析した。気候変動を学べるすぐろく式教材を開発した経営情報学部三年、浅野貴博さん（三）は「社会人と意見交換することで、外からの意見を知ることができた。これからも継続的に活動したい」と話した。同プログラムは社会経験を積み就職などにつながる狙いで、修了した学生を大学がメデイエーターに認定。これまで五百九十五人が認定を受けている。

（長谷川和華）

2023年2月17日（金） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

郡上の若い人材 どう確保？

岐阜などの大学生 プラン作成し発表



練り上げた人材確保プランを発表する大学生＝郡上市総合文化センターで

郡上市内で若い人材の不足が喫緊の課題となる中、岐阜、愛知両県の大学生約30人が8月下旬、解決プランの作成に取り組んだ。31日に市総合文化センターで発表会を開催。市内を見て歩き、統計データを元に考えたアイデアを、行政や企業の代表者に提案した。

岐阜、中部学院、中部、日本福祉、名古屋学院の5大学から参加。1泊2日の合宿で、企業訪問や情報収集、グループ討議を進めてきた。大学の垣根を越えた六つのグループに分かれてプランを練り上げた。

1位の市長賞に輝いたグループは、都市部から遠い

立地のデメリットを減らし、就職の魅力を高める施策として、自家用車の購入補助や貸し出しを提案した。2位の市雇用対策協議会賞のグループは、リゾートバイトの参加者に交流サイト(SNS)で地域の魅力を発信してもらったり、賞金付きのプレゼンテーション大会を開いたりして若者を呼び込む施策を示した。「サマースクール2023 in 郡上」と題して、大

学連携組織「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」と市雇用対策協議会が企画した。協議会は2024年度の施策に、学生のアイデアを反映させる方針。

(山本真士)

2023年9月2日(土) 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度～平成29年度）
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」（平成27年度～令和元年度）
『岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成』

2023(令和5)年度
「地(知)の拠点継続事業」成果報告書

発 行 日 2024(令和6)年3月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
電話：0568-51-9872 FAX：0568-51-1172
<https://www.chubu.ac.jp/community-extension/>

印 刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目 235番地

